

保存資料

2-05

研究報告書第13号

性教育に関する研究(2)

山形県教育センター

1980・3

山形県教育センター

昭和 55 年 3 月刊

性教育に関する研究(2)

山形県教育センター

目 次

- I 研究の趣旨とねらい
- II 基本的な考え
- III 研究の方法と経過
- IV 本県の性教育をめぐる諸問題
- V 小学校の展開例
- VI 中学校の展開例
- VII 高等学校の展開例
- VIII 小学校の指導事例
- IX 中学校の指導事例
- X 高等学校の指導事例
- XI 今後の研究課題
- XII 参 考 資 料
- XIII 参 考 図 書 等

研究の概要

1 研究の趣旨とねらい

性教育の必要を唱えながらも、「何を、どこまで、どう教えたらよいかわからない」として、「性を避けてしまう」教師は少なくない。また、性教育を実施しても、せつかくの指導内容が児童生徒の実態に対応していない例もある。このような本県の性教育の現状を打開するには、性教育を人格教育の一環としてとらえ、教師なら誰しもがいずれかの分野を分担し、知識だけでなく、児童生徒の心情や態度の育成にも重点を置く性教育のあり方を究明することであろう。本研究は、この趣旨のもとに小・中・高等学校の児童生徒の実態に基づきすべての教師が分担できる指導内容や指導方法を展開例や指導事例として示し、実際の指導に役立てようとするものである。

2 研究の方法

過去2年間にわたり行った、性教育についての指導の実態と教師の意識調査及び児童生徒の性についての意識と行動の実態調査を基礎資料として、校種ごとに性教育の目標を確立し、指導内容を編成し、展開例を作成する。その一部について授業を行い検証する。

3 性教育の目標

性教育を、本能的な性に対する精神諸作用を高め、生き方の問題として性を教える人格教育であるとしてとらえ、小・中・高等学校に共通する指導目標を次のように要約した。

- (1) 科学的知識の理解
- (2) 価値観と情操の育成
- (3) 基本的生活習慣の確立と自制力の育成
- (4) 男女の敬愛と協力の実現

4 指導内容

人格形成をめざす性教育は、特別の時間を設けて指導するよりは、各教科や領域の関連内容に組み込み、学校の全教育活動とおして指導すべきである。本研究では、目標にしたがい6つの指導項目を設け、それを柱に校種ごとに18の指導内容を編成し、展開例を作成した。そのうちから、校種ごとに3例を選び授業を行い、ねらいや児童生徒の実態にそった内容であるか、児童生徒の反応はどうか、などについて検証した。

5 今後の研究課題

今後の主な研究課題は、小・中・高等学校の指導内容や方法の積極的な交流をはかり、一貫した指導態勢を確立することをめざすとともに、児童生徒の意識や行動の変化を適確にとらえ、指導に発展性をもたせることである。また、父母の指導できる内容や方法を探ることも大切である。

は し が き

性(sex)を辞書で引くと、「男と女、また雄と雌の区別」とあり、このような定義は大抵の辞書に共通しており単純明解でわかりやすい。

けれども、「性教育」という言葉には明確な定義はなく、論者によってきわめてし意的に使われる場合が多いので、性教育の是非をめぐる緒論においてさえ無用の混乱を生じさせているように思われる。過日(昭和55年2月23日)のNHKより放映された「性教育は必要か」という討論番組がその好例だった。討論者の一人がその定義を明確にして議論しようと提案していたが、結果的には不問に付されて討論が進行されたために論点の整理が混乱していたように思われるのである。しかし、議題が「性教育」の具体的・個別的な内容に及ぶと、推進論者と反対論者との間にも本質的な対立はなく、指導の場や方法あるいは範囲等に若干の意見の相違がみられる程度であった。われわれにとって大切なことは、「性教育」という用語ではなく、その名のもとに指導しようとする内容や範囲が今日的な教育実践課題とどう結びつかなければならないかを真剣に検討し、真に必要な教育を施すことであると考える。

ひるがえって、人間の性(男と女)を、「種」の保存という観点からのみ考えると、世代の継承作用は「生殖」であるから性の生物学的、生理学的あるいは解剖学的知識の伝授が、即「性教育」となってしまう、他の動物の生殖と選ぶところがなくなってしまいうだろう。古来、性は秘事とされ、それにふれることがタブー視されてきた反動として、性の解放運動や社会風潮に迎合するかのようになり、生殖に関わる部分だけの性教育が強調されるきらいがないでもない。これでは本来学校教育になじまぬ無用な「性器教育」という批判を招き、蔑視されるようになったのは故なしとしないのである。

人間は他の動物と異なり、社会生活を営み文化を創造し継承発展させてきたのであって、それらを離れては生命の維持すらおぼつかない特異な存在であることは多言を要すまい。このような視点に立ってわれわれは、性教育を人格教育の一環としてとらえるとともに、家庭・学校・社会における男女のあり方・協力、男女の特性・役割、性差心理、発達心理等を重視しながら、教育上の実践課題としての性教育に取り組んできた。

本報告書は、3年継続研究の最終報告書である。他県のすぐれた実践例などに啓発されながら本県の実情をふまえつつ、できるだけ各学校の指導に役立つよう配慮した。大方の御批判をお願いするとともに、われわれの意図する性教育が本県の教育の中に定着するよう心から念願している次第である。最後に、過去一年間協力委員として授業実践や本誌の編集に絶大な協力を惜しまなかった諸先生と当該協力校並びに指導事例等を提供して下さった各学校に対して、深甚なる感謝の意を表する次第である。

昭和55年3月

山形県教育センター所長

板井角也

目 次

I 研究の趣旨とねらい	1
1 研究の趣旨	1
2 研究のねらい	1
II 基本的な考え	2
1 性教育のとらえ方	2
2 共通目標と重点目標	4
3 指導内容	4
4 指導方法	5
5 指導上の留意事項	5
III 研究の方法と経過	7
1 研究の方法	7
2 研究の経過	7
IV 本県の性教育をめぐる諸問題	10
1 指導上の諸問題	10
2 児童生徒の実態	13
V 小学校の展開例	16
1 小学校の指導目標	16
2 指導にあたって	16
3 指導内容	17
4 主 題	20
○ きれいなからだ(1年)	20
○ 大きくなるからだ(1年)	21
○ みんななかよく(1年)	22
○ きれいなからだ(2年)	23
○ わたしの誕生日(2年)	24
○ 安全な暮らし(2年)	25
○ 身のまわりの清潔(3年)	26
○ ぼくのからだ・わたしのからだ(3年)	27
○ 男女仲よく(3年)	28
○ 生きものの育ち方(4年)	29
○ ぼくのからだ・わたしのからだ(4年)	30
○ きまりある生活(4年)	31
○ 男女のからだの成長(5年) — 授業記録	32
○ 男女の心の変化	36
○ 男女の協力(5年)	37
○ 新しい生命の誕生(6年)	38
○ 男女のからだの成長(6年) — 授業記録	39
○ 性被害の防止(6年) — 授業記録	43
VI 中学校の展開例	46
1 中学校の指導目標	46
2 指導にあたって	46
3 指 導 内 容	47
4 主 題	48
○ 人命の尊重(1年)	48
○ 大人に近づくと私たち(1年)	49
○ からだと心(1年)	50
○ 男女の理解と協力(1年) — 授業記録	51
○ 父母とわたくしたち(1年) — 授業記録	54
○ 生命の連続性と尊厳(2年)	59
○ 心身の発達にともなう悩みと不安(2年) — 授業記録	60
○ 異性への関心(2年)	63
○ 男女の特性と役割(2年)	65
○ 異性ととの交際(2年)	67
○ 性被害の防止と情報の選択(2年)	69
○ 伝染病の予防(3年)	70
○ 受精と遺伝(3年)	71
○ 人間らしさ(3年)	72
○ 欲求と行動(3年)	77
○ 男女交際(3年)	78
○ 性病の予防(3年)	79
○ 結婚の意義(3年)	80
VII 高等学校の展開例	82
1 高等学校の指導目標	82
2 指導にあたって	82
3 指導内容	83
4 主 題	84
○ 生命の連続性(1年)	84
○ 成長と成熟(1年)	85
○ 欲求と適応(1年) — 授業記録	86
○ 第二次性徴と性生理(1年)	89

○ 高校生の男女交際（１年）	90
○ マスコミと性情報（１年）	91
○ 性病の予防（１年）	92
○ 高校生の悩みと自殺（２年）	93
○ 受精と妊娠・出産	94
○ 結婚と家族計画（２年）	95
○ 青年期の心理（２年）	96
○ 高校生の友情と恋愛（２年）	97
○ 結婚について（２年）	98
○ 現代社会の家族生活（２年）— 授業記録	99
○ 愛と人生（３年）	102
○ 幸福な家庭（３年）— 授業記録	103
○ 法の下での平等と両性の平等（３年）	106
○ 現代社会の性をめぐる諸問題（３年）	107
VIII 小学校の指導事例	108
1 男女交際のエチケット — 個別指導	108
2 初潮指導（身体の発育が著しいA子）— 個別指導	109
3 異常出血のあった児童 — 個別指導	110
4 初潮指導（母親の指導が欠ける場合）— 個別指導	110
5 赤ちゃんはどこからくるの？ — 集団指導	111
6 初潮指導 — 集団指導	112
IX 中学校の指導事例	113
1 ボルノ写真の教室への持ち込み — 個別指導	113
2 発毛のおくれに悩む生徒 — 個別指導	114
3 月経期間が不順で出血量が多いことに悩むH子 — 個別指導	115
4 からだの働きの発達 — 集団指導	116
5 女子の生理 — 集団指導	117
X 高等学校の指導事例	118
1 男女交際（父親との関係がうまくいかない女子生徒）— 個別指導	118
2 家出するまでに至った男女交際 — 個別指導	119
3 肉体交渉を求めて暴力をふるうようになった男子生徒 — 個別指導	120
4 同級生同士の家出 — 個別指導	121
XI 今後の研究課題	123
XII 参 考 資 料	124
XIII 参 考 図 書 等	129
1 児童生徒のための参考図書	129

2 参考文献	131
3 情操を高めるための文学作品（例）	133
4 視聴覚教材	133

研究協力委員

日 塔 由美子	河北町立谷地南部小学校
野 村 正 博	天童市立蔵増小学校
延 沢 琢 夫	村山市立楯岡小学校
森 谷 昭 江	山形市立出羽小学校
阿 曾 晴 美	寒河江市立陵南中学校
五十嵐 悌 二	東根市立第二中学校
鏡 洋 子	山形市立第六中学校
赤 塚 清	県立谷地高等学校
玉 井 茂	県立山辺高等学校
渡 部 昭二郎	県立山形西高等学校

研究担当者

佐々木 亮	指導主事
吉 野 佐和子	〃
渡 辺 賀 三	〃
江 目 則 男	〃
秋 山 将 博	〃

I 研究の趣旨とねらい

1 研究の趣旨

最近、本県内においても学校における性教育の充実を望む声は、各方面から高まっている。これは一部マスコミによる目にあまる性情報のはん濫や極端な性解放の社会風潮が、性的成熟の加速化している児童生徒の性意識をゆがめ、人格形成に重大な影響を及ぼしているためと思われる。事実、本県においても、児童生徒の性の問題行動の増加や低年齢化に学校も家庭もその対応に苦慮しているのである。

昨年までに当センターが行った調査によると、小・中・高等学校の教師の80%以上は、性教育の必要性を認め、その主な理由として「性教育は人間の健全な成長を促すのに必要だから」とか「不良出版物などにより児童生徒の性意識がゆがみみられるから」を挙げている。また、何らかのかたちで計画的に性教育を実施している学校は、小・中・高等学校の56%にもおぼり、今後一層増えるものと思われる。こうして、ひと頃のように性教育の必要性を否定する主張は、急激に減ってきた。

しかし、本県の性教育は、まだ地についているとはいいがたい。性教育のむづかしさは、第一にそれが学習指導要領に系統的に位置づけられていないということ。第二に児童生徒の性についての知識や行動の実態がは握しにくいこと、そして多くの教師が性教育を受けた経験もなければ研修の機会も少ないことなどのため、指導内容や指導方法を確立し、指導時間を見出すことが容易でないことにある。

したがって、性教育の充実を唱えながらも、「何を、どこまで、どう教えたらよいかわからない」とか、「子どもの前に立つと自信がなくなる」として、結局「性を避けてしまう」教師が少なくない。また、実際に指導していながらも、せっかくの指導内容が児童生徒の実態に即応していなかったり、あるいは、性教育即生理教育というとらえ方をし、養護教諭等特定の教師に委ねてしまう例も多い。

こういった現況をふまえないで、高度な指導内容や指導方法を提示しても、本県の性教育は一步も前進しないのでなかろうか。

大切なことは、性は社会生活に深くかかわっているのであるから、性教育を人格教育の一環として位置づけ、教師なら誰れしもがいずれかの分野を分担し、知識ばかりでなく、児童生徒の心情や態度の育成にも重点を置く性教育のあり方を究明することである。本研究は、このような趣旨のもとに、児童生徒の性についての意識と行動の特徴に基づいた体系的な性教育のあり方を具体化しようとするものである。

2 研究のねらい

本研究は、小・中・高等学校の指導の実態と性についての児童生徒の意識と行動の特徴に基づいた性教育の基本を明らかにし、すべての教師が分担できる指導内容や指導方法を展開例や指導事例として示し、実際の指導に役立てることをねらいとする。

II 基本的な考え

ここでは、性教育のとらえ方、目標、指導内容や方法及び留意事項について、基本的な考えを仮説的に示し、16ページ以降において、それらを展開例、授業の実践例として提示する。

1 性教育のとらえ方

最近、性教育についての論議は盛んであるが、共通の概念のもとに論じられている場合は、意外に少ない。

従来、性教育といえば、性の生理的知識の指導というとらえ方が一般的であったが、いまでもかなりの影響力をもっている。しかし、生理的性教育には評価すべき一面はあるものの、それだけでは人間の性を扱うのに片手おちである。

いまでもなく、人間の性は人間関係を仲立ちとし、個人の生き方や社会生活と深くかかわり、人格の本質をなすものである。したがって、人格の形成をめざして、性の生理的分野ばかりでなく心理や社会の各分野にわたっての知的指導と同時に、豊かな情操や人間尊重の精神及び自制力の育成に努めて、はじめて性教育本来の目標を達成することができるのである。科学的知識は両刃の剣であって、善悪どちらにも使い分けられ、それだけでは健全な正しい行動を導かない。

性教育は児童生徒の性の問題行動や被害の防止のための指導というとらえ方もある。本県においても、最近児童生徒の性の問題行動は、増加しているが、問題行動が表面化したというので性教育をはじめめる学校や教師も少なくない。しかし、いろいろな調査からも明らかなように、問題行動をおこした児童生徒は、必ずしも他と比べてとくに性知識が不足しているとか、成熟の度合いが進んでいるわけでもない。彼らの問題行動の背後には、親子の葛藤とか学習不適應などの非性的疎外要因が働いている場合が多く、問題行動を防ぐだけなら、学校や家庭で彼らの帰属欲を満たすことや自己実現をはかることに配慮すべきであろう。

このほかにも、いまだもって性教育を狭い純潔教育や道徳教育の枠内にとじこめようとするむきもある。この考えの根底には、未成年者の性を危険視する見方があり、ややもすると徳目を押しつけ行動を規制することに指導の重点が置かれる。しかし、徳目をいくら説いても、豊かな情操が育たなければ、道徳感や倫理感は芽ばえず、それだけでは人格形成に役立たない。

実際の指導にあたって、初潮指導だけに終わっている例はかなりの多い。しかし、自己のからだの発達や変化だけに科学的に対処できるようになっただけでは、充分といえない。人間の性は自分ひとりの問題ではなく、前述のとおり他の人間とかがかわっているということで、社会性のもつ意味を度外視できないからである。

それでは、いま必要とされる性教育をどうとらえればよいのであろうか。それには、まず第一に、現代の情報化社会に視点を置いて性教育のあり方を検討することであろう。

現代社会の情報のはん濫は、性について一層はなはだしい。児童生徒は、日夜マスコミの性情報に接し、きわめて雑多な性知識を吸収している。それらの情報は興味本位に送りこまれるので、基礎的科学的事項に乏しく、性行為や性事象に偏しているものが大部分である。精神的に未熟な児童生徒が

ひとたびこれらの情報に接すると、一層好奇心を募らせますます刺激の強い情報を求め、結局はマスコミの性のとりこになってしまい、人間としての性を見失ってしまうことになる。

児童生徒に限らず、一般に現代人は、ぼう大な情報にとりかこまれ、もっぱら知ることのみからられ、考え判断する余裕を失っているといわれている。考え判断するためには、まず事実を知らなければならないことはいまでもないが、知ることのみでとどまってしまうのである。多くの知識を習得したからといって、それが正しい判断や行動を導くとは限らない。

知ることのみに専念し、みずから深く考え判断しようとしなければ、本来の自己の立場を見失って、ひとの考えや行動に附和雷同するようになってしまう。まして心身の発達のアンバランスな児童生徒は、容易に享乐的な性情報に振り回されることは必至である。

したがって、情報化社会にあっては好ましくない情報を判断し、それをみずから排除することのできる健全にして強固な精神をはぐむ指導は、性教育にとっては欠くことができない。そのためには、常に児童生徒の思考力を高め、判断力を養い指導を性教育の基本としなければならない。

第二に、性教育は人間の性を扱う教育であるから、人間の性の特質に視点をあててそのあり方を考えるべきであろう。

人間の性は、理性、意志や情操などの精神の諸作用と結びついており、それによってさまざまにコントロールされる。つまり、人間の脳新皮質は他の動物と比べ著しく発達し、その働きで本能的な欲求を調整し、行動を統制することができるのである。人間にあっては、欲求が生じてもすぐに行動に結びつかない。脳新皮質は生後の学習や訓練によって発達し、自然的な欲求に働きかけていくのである。

性教育の意義は、人間の性は本来自然的なもので、それ自体美しいものでも醜いものでもなければ、善でも悪でもなく、学習や訓練の如何によってどちらにでも方向をとりうる、ということである。脳新皮質の働きを高めることは、理性、意志や情操などの精神諸作用を高めることにほかならない。人間の性の特質のひとつは、この性の可塑性である。

次に、重要な人間の性の特質は、社会性を基盤にしているということである。食と性を人間の基本的な欲求として、同列に論ずる人は多い。ところが食は、食欲の満たし方を例にとってもわかるように、個人的な問題に帰することができるが、性は男女の人間関係を度外視するわけにはゆかない。人間関係には、道徳、心理や社会のあり方などが関係し、人生一般の問題が含まれている。このように人間の性は、人間関係を基盤にしてはじめて意味をもち、個人の生き方によって制約される。そのため、人間の性を生き方の問題としてとらえなければならないのである。

ここで、人間の性の特質をよりどころにして情報化社会における性教育のとらえ方を示せば、次のとおりであろう。

まず、性教育とは、性について「何を教えるか」「何を知るか」という教育でなくて、人間の問題として、あるいは生き方の問題として性を「考える」教育でなければならない。性についての生理的科学的知識を得たり理解したりすることがすべてでなく、これをもとにして生き方の問題として性を考えることを基本とした教育でなければならないということである。

次に、本能的な性に対する精神諸作用を高め、人格形成をめざす教育である。したがって、知識や

理解ばかりでなく、判断方や態度を養い、豊かな情操を育てることに重点を置かなければならないということである。

2 共通目標と重点目標

性教育を前述の人格教育としてとらえ、小・中・高等学校に共通する目標を示せば、以下のごとくである。

- 1 性の本質や性に関する知識を科学的に理解させ、性についての健全な意識や態度を養う。
- 2 生命の尊さや人格の尊厳をもとにした性の価値観を確立し、豊かな情操を培い、社会風潮に対する判断力を高める。
- 3 基本的な生活習慣を身につけ、自己を統制し、社会環境に対応していく能力を養う。
- 4 男女それぞれの特性を理解させ、相互に敬愛し、協力しあう態度を育て、明るく清らかな異性観を養う。

これらの目標は、後述するように児童生徒の発達段階に応じて、小・中・高等学校の校種ごとにさらに具体化される。

上記の4つの目標は、重要性からして優劣つけがたいのであるが、児童生徒の発達段階に対応して、校種ごとに各々の重点目標を示せば、以下のごとくである。

小学校	よい生活習慣の確立
中学校	科学的な知識の習得と人間尊重の精神の育成
高等学校	価値観の確立と豊かな情操の育成

3 指導内容

性教育は、前述したように児童生徒の人格の総体にかかわる教育であり、個人の生き方を土台とした人格教育である。したがって、その指導内容については、知的学習と体験学習の調和をはかり、知育偏重にならないよう配慮しなければならない。

体験学習は、主として体験や行動を中心とした学習で、生活習慣、心構えや態度の育成に重点を置き、知的学習は生理・生物、心理、社会の各分野にわたっての知識の習得や理解を主とする学習である。

知的学習の生理・生物的分野は性についての医学的、生物学的知識を扱い、心理面はたとえば思春期の心理や性差などを内容とし、社会的分野は男女の人間関係や性の社会問題などを含む。

人格教育としての性教育は、体験学習と知的学習の総合のうえに成り立っているので、これらに属する指導内容を性教育の目標に照らして有機的に関連づけ、児童生徒の心身の発達段階に応じて体系化をはかり、小・中・高等学校一貫したカリキュラムのもとに指導することが大切である。広範な指導内容の体系化をはかるため、目標に従って視点を設けると以下の指導項目が考えられる。

- (1) よい生活習慣（生活習慣）
- (2) 生命の尊重
- (3) からだの成長（身体の成長）
- (4) 心の変化
- (5) 男女の協力
- (6) 社会への適応

これらの指導項目にそって指導内容を取捨選択する場合、児童生徒の発達段階によって、体験学習と知的学習のどちらかに比重が置かれる。一般的には、発達段階が低いうちは体験学習に重きを置き、しだいに知的学習に移っていくのが普通である。

なお、具体的な指導内容については後述する。

4 指導方法

性教育は特別の時間を設けて指導するよりは、学校の全教育活動をとおして行ったほうが、人格教育というその理念にかなっている。

各教科や特別活動等には、性教育に関連する内容がかなりあり、それらを組織的に指導すれば性教育の目標は達成される。そのためには、性教育の指導内容のうち、各教科、特別活動や道徳等に組み込めるものは、できるだけ組み込み、関連性のないものだけの特設して指導する。すべての教師は、各自の担当する教科、特別活動や道徳等をとおして指導内容のいずれかを分担しあって指導にあたることになる。したがって、全体の指導計画のもとに、各教科や特別活動等で連携をとりあい、指導内容の調和をはかり、体系的に指導することが必要である。

知的学習を主なねらいとするのが各教科であり、生活習慣、心構えや態度の育成を主なねらいとするのが特別活動や道徳等である。しかし、各教科といえども、知識や理解の徹底だけに終わるのでなく、児童生徒の心情や態度の育成にも力を注がなければ、人格形成をめざす性教育といえない。したがって、知的学習の場が各教科で、体験学習の場が特別活動等であると画然と分けることは不可能であり、また性教育の理念にも反する。

5 指導上の留意事項

(1) 児童生徒の実態に即した指導

教科指導は必ず児童生徒の知的水準等に即して進めなければならないが、性教育も同じである。指導の第一歩は、児童生徒の性についての意識や知識の実態を把握することである。実態を知る方法としては、調査や観察などがあるが、常日頃から児童生徒と接触しておくことも大切である。児童生徒の実態には地域差があるので、本書等を利用する際は、実態に合わせて指導内容や展開例を再編成する必要がある。

(2) 個人差に応じた指導

身体的成熟ばかりか性意識や性知識においても児童生徒の個人差は大きい。したがって、一斉指導の際には、常に個人差を配慮する必要がある。また、児童生徒の性についての悩みや不安も多いので個別指導に心がけることも大切である。

(3) 児童生徒本位の指導

児童生徒は、おそらくかなり誤った性知識をもっているだろうし、また、教師とは異った価値観をいただいている。教師が一方的に自己の意見や知識を押しつけるような指導では、児童生徒の誤った知識を正すこともできないし、健全な価値観をはぐくみえない。できるだけ児童生徒の意見や疑問を引き出し、思考を深めるような指導に心がけるべきである。

指導後には感想文等を書かせ、理解度や問題点等をは握し、その後の指導に継続して活用することが望まれる。

(4) 科学的用語の使用

性には多くの俗語や陰語があり、それらがまた児童生徒の性意識をゆがめている。教師は常に性についての科学的用語の使用を心がけなければならない。また、それが児童生徒の健全な性意識を育てることにもなる。

(5) き然とした指導態度

教師が性の指導を避ける理由として、よく児童生徒が興味本位にとらえ、曲解することを挙げる。たしかに、はじめて性用語に接すると独特な反応を示す児童生徒もいるが、教師がき然とした態度で指導を続ければ、真面目に取り組もうとする態度に変わる。要は教師の指導態度如何である。

(6) 家庭との連携

学校ではどうしても一斉指導が中心となりがちであるが、家庭では個人に応じた指導が普通である。前者では体系的に秩序だてた指導に重きを置くが、後者では機会をとらえ、問題や疑問に答えるかたちで行われる。このように両者の果たす役割が異なるので、相互に連携をとりあい補完しあいながら、指導にあたることが重要である。

(7) 事前準備

性教育には定まったカリキュラムもないし、教科書もない。したがって、教材を整えたり、指導資料を集めたり、あるいは指導方法を検討するなどの事前準備がきわめて大切である。しかし、現状では適切な教材も資料も乏しい。そのため、教師みずから創意をこらして、図や表を作成したり、児童生徒にも資料を集めさせたりする必要もある。これらの事前準備が指導の成否を決定するといっても過言ではない。

Ⅲ 研究の方法と経過

1 研究の方法

本県の性教育の現況をふまえ、人格教育としての性教育のあり方を具体化するため、次のような方法で研究を進めた。

- (1) 小・中・高等学校における性教育の指導の実態と教師の意識について調査し、指導上の問題を探る。
- (2) 児童生徒の性についての意識と行動の実態を調査し、それらの特徴を把握する。
- (3) 以上の二つの調査を基礎資料として、小・中・高等学校ごとの指導目標を樹立し、それに基づいて指導内容を体系的に編成する。各指導内容については、展開例を作成し、その一部について校種ごとに授業を行い、次の諸点について検証する。

- ① 性教育のねらいにあっているか。
- ② 指導内容が児童生徒の発達段階に即しているか。
- ③ 児童生徒の反応はどうか。
- ④ 教材や資料の適否はどうか。
- ⑤ 指導内容が体系化されているか。

さらに、各学校から提供を受けた指導事例から数編を選び紹介し、指導上の参考に供する。

なお、(1)(2)の二つの調査結果とその分析については、「性教育に関する研究(1)」にまとめ、昭和54年3月に公にした。

2 研究の経過

(1) 第1年次(昭和52年度)

本県における性教育の指導上の問題を探るため、次の調査を実施した。

① 小・中・高等学校における指導の実態調査

ア 主な調査事項

- 性教育の実施状況
- 実施に伴う問題点
- 児童生徒の性に関する問題行動と被害
- 今後の取り組み方

イ 調査対象

市町村立小・中学校全校(小学校351校、中学校157校)、県立高等学校全校(全日制56校、定時制14校。ただし、分校3校をも加えた。)対象数は昭和52年度の学校数による。

ウ 調査期間

昭和52年11月4日～11月25日

エ 調査方法

この調査は、無記名の質問紙法により、各学校の校長、教頭、生徒指導主事、保健主事、養護教諭のいずれか1名に回答を依頼した。

② 教師の意識調査

ア 主な調査事項

- 性教育の必要性とその理由
- 指導経験の有無と指導状況
- 指導上の問題点

イ 調査対象

市町村立小・中学校、県立高等学校から校種ごとに構成比にしたがい、校長・教頭・教諭・養護教諭合わせて、2,020名を抽出した。この抽出にあたっては標本誤差±3.5%、信頼度95%、回収率90%でサンプル数を決定した。

ウ 調査期間

昭和52年11月4日～11月25日

エ 調査方法

この調査は、無記名の質問紙法により実施した。

(2) 第2次(昭和53年度)

児童生徒の性についての意識と行動の特徴を把握するため、次の調査を実施した。

① 主な調査事項

ア 小学校

- からだや身のまわりを清潔にする生活習慣と心がけ
- 自己のからだの変化、成長の個人差と男女差についての理解
- 男女交際の実態
- 性知識の情報源
- 性に関する問題行動と被害

イ 中学校

- 男女交際の実態

- 性知識の程度とその情報源
- 成熟についての自己理解と悩みや不安
- 性行動の体験と被害

ウ 高等学校

- 男女交際の実態
- 性知識の程度とその情報源
- 性に関する悩みや不安
- 性行動の体験と被害
- 純潔とその価値判断

② 調査対象

調査対象は市町村立小学校児童5・6年生1,100名, 同中学校生徒2年1,080名, 県立高等学校生徒2年1,670名で, この抽出にあたっては, 標本誤差±3.5%, 信頼度95%, 回収率93%でサンプル数を決定した。

③ 調査期間

昭和53年10月7日～10月25日

④ 調査方法

この調査は無記名の質問紙法により, クラスごとに教師の指示のもとに実施した。

(3) 第3年次(昭和54年度)

第3年次の研究は, 第1・2年次の調査結果と分析を基礎資料として, 次のような計画のもとに進めた。この計画を進めるにあたり, 小・中・高等学校から各々3名の研究協力委員を選び, 主に展開例の作成や授業の実践について協力を得た。

- ① 小・中・高等学校ごとに指導目標を定め, 指導内容を編成する。
- ② 主要な指導内容について展開例を作成する。
- ③ 展開例から校種ごとに3例を選び, 授業をとおして検証する。
- ④ 各学校から指導事例の提供を受け, 指導上の参考に供する。

この研究結果については「性教育に関する研究(2)」にまとめ, 昭和55年3月に公にする。

IV 本県の性教育をめぐる諸問題

ここでは, 性教育についての「学校の指導の実態調査」, 「教員の意識調査」及び性についての「児童生徒の意識と行動の調査」等から, 本県の性教育をめぐる基本的な問題点を明らかにする。

1 指導上の諸問題

(1) 教師の姿勢と意識

性教育についての教師の意識には, 「性は自然に目ざめるもの, 特別に指導しなくともよい」という考えから避妊法の指導の必要性を説く考えまでおどろくほどの格差がある。実際の指導においてもたとえば小学校で初潮指導だけにとどめてしまう例から, 生殖機能や性病までの指導を行う例まで大きな開きがある。

性教育の必要性を唱える教師の割合は, 80%以上にも達するが, 実際に指導したことのある教師は, 小学校では45%, 中学校42%, 高等学校38%にすぎず, いずれも半数にも満たない。

性教育の指導者として, 小学校の教師は, 学級担任, 中学校は学級担任のほか保健体育担当教諭と養護教諭, 高等学校は保健体育担当教諭と養護教諭を選んでいる。しかし, 中・高等学校の場合, 担任, 保健体育担当教諭と養護教諭以外の教師が担任, 保健体育担当教諭と養護教諭を適任者として挙げている例が多く, 実際に指導経験のない教師が過半数をこえている事実と考え合わせると, 教師の他者依存の傾向を感じざるを得ない。このように「児童生徒の曲解をおそれ, 性を避けておる」という教師は少なくないのである。

性教育の実施校で指導している主な内容は, 「身体のしくみと生理」であり, 小・中・高等学校教師が, とくに力を入れるべき指導内容として一致して挙げているのも, 「身体のしくみと生理」である。これは, 性教育といえば性の生理的知識の指導という意識が教師を根強く支配していることを示す証左であり, それがまた「生理的知識は疎い」として他者依存を助長する結果にもなっている。

(2) 性教育の機会

性教育を行う機会として, 小学校では圧倒的に「長期休業や旅行の機会」を挙げている。その指導者の半数近くが養護教諭であるところからすると, 初潮指導が中心になっているものと推察される。「長期休業や旅行の機会」に初潮指導ということは, 計画にもとづいているといえども一時的で断片的な指導を意味するのでないだろうか。

くりかえし述べたように, 性教育は人格形成の教育であるから, 児童生徒の在学期間中に継続的に指導する必要がある。ある期間だけに限って一時的に指導しても人格教育にはそぐわない。同じことは, 年1～2回程度の講演ですませている中・高等学校にもあてはまる。

中・高等学校では, 「教科や特別活動」で実施している学校がもっとも多い。そのうち, 97%は保健体育, 50%が特別活動で指導しているが, 指導の場からして心理や社会の分野に比して生理偏重の指導がうかがわれる。

性教育の障害のひとつとして、指導時間の不足がよく指摘される。それが、特設時間の設定のむづかしさだけでなく、保健ですらも性にふれるだけの時間的余裕を見出すことが容易でないという。中・高等学校の保健の教科書では、性の生理面をかなり扱っているのであるが、教師が積極的に性の指導に取組もうという意欲がないと、性にふれるだけの時間を確保できないという。とくに高等学校のように保健にあてる時間が規定されていない中学校では、「体育館やグラウンドが使用できない時のみ、保健の指導に時間を割くことになるので、性にまで手がまわらない」という保健体育担当教諭も少なくない。

(3) 計画的指導

性教育には特別に定まった指導内容があるわけでもなく、指導の時間も確かではない。性教育の指導は学校の実態と児童生徒の発達段階に応じて指導内容を取捨選択し、各教科や特別活動に組み込み調和をはかって行われなければならない。したがって、性教育には全体的に推進する指導計画が不可欠なのである。

性教育を計画的に実施している学校は、小・中・高等学校を平均すると過半数をこえているが、計画に加わって指導したという教師は、17%にすぎず、実施しているという学校と比べると、教師の計画への参加率は小さく、明らかに特定の教師のみが計画的に指導しているだけである。

計画がなかったが指導したという教師は、25%であるが、このうちの2/3は「問題行動がおきたから」と「問題行動を防止するため」で、あとは「質問をうけたから」である。児童生徒の問題行動にかかわって指導した教師は、指導したことのある教師の40%に当り、小学校から高等学校へと発達段階が高まるにつれ、この割合が大きくなる。

性教育の必要な理由として「人間の健全な成長を促すのに必要だから」を挙げている教師は58%もいるが、しかし、実際には多くの教師や学校が、児童生徒の問題行動を契機に性教育にふみ切っているのである。これは、裏をかえせば、問題行動が起こらないなら、性教育の必要もないという意識が教師にあることを示すものでないだろうか。

このように、これまでの多くの学校での性教育は、必ずしも系統的組織的に行われているとはいえず、児童生徒の問題行動や初潮に対する指導など、最低限の必要性から突発的に行われているのではないと思われる。したがって、計画的に実施しているといっても、少なからずの学校では各教科や特別活動との連携をはかり、全体計画のもとに秩序だった指導を行っているとはいえないようである。

また、指導計画は児童生徒の発達段階に即応したものでなければならないことは、言うまでもない。しかし、小学校で、初潮になった時点でその知識もなかったものが、5年で59%、6年で23%もいたという事実や精通経験が大部分の生徒にも及ぶ中学2年で、精通を知らない生徒が半数を上回るという実態などは、児童生徒の発達段階に応じた指導がなされていないことを裏づけている。

(4) 性の問題行動の指導

昭和52年度に児童生徒の性の問題行動は、小学校12%、中学校16%、高等学校42%の学校で表面化した。

小学校では、スカートめくりやトイレ、更衣室のぞきなどいたずらのなものが大部分だが、中学校から高等学校にかけて不純異性交遊や売春等非行的行動の増加が目立つようになる。その指導対象の多くは女子で、男子が少ないのが特徴である。

これらの問題行動に触発されて性教育にふみ切る学校が少ないことは、前述した。しかし問題行動を起こした生徒たちは、それ以前にすでにさまざまな不適応行動をおこしており、性的欲求や性知識の不足のために問題行動にはまったとは断言できない。彼らの行動の背後には、非性的要因が働いているのであって、性教育の枠内だけでは対応できない問題がある。彼らは性の逸脱行為によって所属欲を満たし、不満を解消しているのであって、原因に関する限り他の非行と異なるところがない。

ところが、性の問題行動は他の非行とは異なり、指導上特別視されがちで、高等学校ではこれをもとに退学していく生徒は多い。これらの行動に対する指導者の目は、原因よりも現象面にいきがちなのである。

したがって、今後の指導課題は、行動の現象面にとらわれることなく、その後の生き方を重視した指導につとめるべきでないかと思われる。そのためには、処罰よりも生徒理解の徹底をはかり、生徒のかかえる問題について共に考える共感的態度で指導にあたるべきであろう。

(5) 指導態勢

性教育の問題点として、教師がもっとも多く挙げているのが、「指導内容や指導方法がわからない」ということである。これは一面では、確かに教師の意欲の問題ではあるが、研修機会や研究会等が少ない現状からすれば、必ずしも教師個人だけでなく、指導態勢ともかかわっていてもいえる。

「教材・教具が不足している」ことを障害として挙げているのは、実施校で37%、未実施校で20%である。小・中・高等学校全体のうちでスライドをもっているのは、60%で、図書は37%、掛図は35%であって、全般に教材や資料の不足は否定できない。とくに、もっとも備えやすく、教師や児童生徒が利用しやすい図書の不足は著しく、指導態勢のおくれを思わずにいられない。

「教師の共通理解がえられない」ことを障害に挙げているのは、実施校7%、未実施校23%で、この点に関して実施校と未実施校とはきわだった対象をなしている。これは性教育にふみきるには教師の共通理解を得ることが、いかに大切であるかを物語っている。共通理解を得るには、研修会や研究会を重ねることも重要だが、児童生徒の実態を正確には握することも大切である。

実施校と未実施校とを比較すると、これからの取り組み方にも大きな違いがあるのに注目せざるを得ない。つまり、実施校の47%は今後「より一層充実したい」とし、45%は「これまで通り」と積極的な姿勢が目立つのに、未実施校では、20%が「実施にふみきりたい」で、57%が「担任の判断にまかせる」と消極的である。この両者の指導態勢の隔たりは、実践の意義を示唆しているといえるのではないだろうか。

2 児童生徒の実態

(1) 性についての意識と知識

「性は自然に目覚めるもの、寝ている子を起こさなくともよい」という声は、まだ聞かれる。しかし、現在の児童生徒は、ゆがんだ性情報のはん濫のなかにあつて、自然に目覚めるどころか、人為的に目覚めさせられているのである。

小学生や中学生向けの雑誌やマンガの半数以上にヌードやキスの場面等性的好奇心をあおるような写真や絵がでてくる。また、大人向けの性に関する記事や写真を見る機会は、いたるところにある。それらを中学生の場合は「本屋で立ち読みする」19%、「病院や理髪店などで見る」もの12%、なかには「自動販売機から買って見る」というものもある。こうして得た性情報は、一部の事実を誇張して興味本位に書かれており、一般に性行為や性事象に直接かかわっているものが多い。

テレビや映画を含めてマスコミの性情報が、児童生徒に必要な以上の性的刺激を与えていることは否定できない。性に関する映画やテレビのシーンから中学生の57%、高校生の70%が性的刺激を受け雑誌などの性に関する記事からは、中学生の35%、高校生の52%が刺激を受けている。一般に男子は映画やテレビのシーンといった視覚的なものから、女子は小説や雑誌の記事など文字から刺激を受ける度合いが強い。

さらに、児童生徒は友人や先輩から性知識を得ており、雑誌や友人は性に関する二大情報源となっている。このことは、児童生徒のもっている知識が、いかに興味本位で科学的基礎事項に乏しいかを示唆しているのである。

たとえば、中学生で第二次性徴や性ホルモンを知っているのは20%、排卵については女子ですらわずか12%知っているにすぎない。高校生でも家族計画を知っているのは、43%と半数にも満たない。ところが、高校生では売春について、ほとん大部分が知っており、妊娠中絶や婚前交渉については60%、フリーセックスについては50%以上、それにだいたい知っているを含めるとどれについても90%をこすのである。これをみても生徒の知識が性行為にかかわりのあるものに限られていることがわかる。児童生徒を取り巻く環境が、雑多な性情報に満ちて、児童生徒の意識や知識がかく乱されているにもかかわらず、教師や親がこれらの実態を看過して、相変わらず「性は自然に目覚めるもの」と性の問題を回避することは、もはや許されないであろう。

ある小学校で、6年生の児童が誕生祝に贈られた、心やからだの悩みに答えるという内容の小学生向けの本には、性交や避妊の方法まで書かれていた。もし、この内容を教師や親が知ったらおそらく仰天するだろう。しかし、現在の児童生徒は、この類の本には常に接しているのでないだろうか。

現在の高校生は、純潔ということをどう考えているのであろうか。愛情の有無にかかわらず、性交を行わないことを純潔とするものが70%である。そして、結婚まで純潔を「守るべきである」とするのは、男子23%、女子40%、「守らなくともよい」が男子36%、女子22%である。「守らなくともよい」の理由のうち、男女とも、もっとも多く挙げているのが、「愛情があればよい」である。

しかし、高校生は愛情をどう受けとめているのであろうか。最近、「好き」とか「楽しい」といっ

た情動を愛情とはきちがえている高校生は多い。

また、純潔を「守らなくともよい」というものの男子ほど、将来の結婚相手に純潔を求めている。このような身勝手さは、高校生にも依然として女性蔑視の風潮が残存していることを示すものである。

したがって、これからの性教育は性的生理的分野の指導だけでなく、豊かな情操をはぐくむとか、男女平等や人間尊重の精神を培うことなどをも重要なねらいとしなければならない。

(2) 男女交際

男女交際は「自由でよい」としているのは、中学生で61%、高校生では85%ほどに達し、これに「親が認めればよい」を加えると、中学生は84%、高校生は97%にもなる。

実際に、「親しくしている異性の交際相手のいる」ものは、中学生で14%、高校生で27%である。交際相手としては、中学生の場合、男子の74%は同級生か同学年であるが、女子では上級生か高校生が24%もあり、社会人も3%ほど含まれる。高校生については、男女とも他高校生と交際しているものが過半数をこえており、とくに女子には大学生や社会人と交際しているのが10%ほど含まれ、中学生と同様に年長者志向の傾向がみられる。なお、高校生の場合、他高校生と交際しているものほど、男女ともにベタティングや性交などの性行動の体験率が高いことに注意しなければならない。

交際の心がけとしてもっとも多く挙げているのは、中・高校生とも「明るくけじめをつける」であるが、つづいて、中学生は「親に心配かけないようにする」、高校生は「自分で責任とれるようにする」を挙げて、発達段階の違いを示している。

交際の限度としては、中学生の61%が「手紙の交換・話し合い」、31%が「手をにぎったり、腕を組む」を挙げているのに、高校生は「文通や話し合い」が34%、「手をにぎったり、腕を組む」が27%、「抱きあったりキスをする」が22%を占め、かなり積極的な交際を認めている。しかし一方では過半数に近い高校生が適切な男女交際についての指導を望んでおり、中・高校生に対する健全な交際のあり方の指導もきわめて重要である。

(3) 性行動

性行動の体験率を全国水準と比較すると、本県の中・高校生の体験率はかなり下回っている。中学生の場合、「手をにぎったり、腕を組んだ」体験のあるものは、12%で、「抱きあう」や「キス」の体験者は、それぞれ0.8%と0.9%で、きわめて少ない。その相手は、男子では同級生が80%近くであるが、女子では上級生と高校生が33%を占め、交際相手と同じように年長者志向がうかがえる。

高校生については、現在の交際相手の有無にかかわらず、男女の過半数はデートを経験しており、「抱きあう」または「キス」のどちらかを体験したのは、男子27%、女子15%である。ベタティングや性交の体験者はきわめて少なく、前者の体験者は男子6%、女子3%、後者は男子3%、女子1%程度である。

これらの行動の体験相手を自高校生・他高校生別にみると、男女ともデートは自高校生相手が多く、キス、ベタティングや性交は他高校生相手のほうが多くなる。これは、相手が他高校生であるという

ことで、無責任な行動にはしりやすいためであろうか。

特徴的なのは女子であって、中学生の女子と同様に体験相手に占める年長者の割合が大きい。しかも、体験相手が大学生や社会人であった女子についてみると、その56%は現在交際していないと答えている。これらの生徒は安易な気持で大学生や社会人と交際し、誘われるままに性行動を体験してしまうのではないだろうか。したがって、男女交際を扱う際には、交際のエチケットや心構えだけでなく、性差心理や交際の限界などの指導もぜひ加えるべきであろう。

(4) 性に関する悩みや不安

性に関する悩みや不安をもつ中・高校生は、きわめて多い。中学生の場合、悩みや不安をもつものは、男子は10人に1人、女子は約4人に1人の割合である。悩みや不安の主なもの、男子では、性器やマスターベーションに関するものが80%以上も占めている。女子では、メンスが70%近くにも達し、乳房に関するものが40%の割合となっている。

高校生では、男子21%、女子25%が悩みをもち、その内容は、男子が中学生と同様に、圧倒的に性器とマスターベーションに関するもの、女子では乳房の発達に関するものももっとも多く、つづいてメンス、性器に関するものとなっている。

高校生の場合、交際相手のいるものと、いないものとは、悩みや不安の内容が異っている。つまり、交際相手がいない生徒には、メンス、乳房やマスターベーションにかかわる悩みが多いのに、交際相手がいる生徒は、妊娠、中絶や避妊といった性交に伴う悩みや不安をもつ割合が大きくなっている。

また、悩みや不安をもつ生徒は、男女ともにもたない生徒と比べると、キス、ベッティングや性交などの性行動の体験率が高いことに注目する必要がある。これらの生徒の悩みや不安は、性行動の結果によるものなのだろうか。

それでは、悩みや不安をどう解消しようとしているのであろうか。悩みをもつ中学生のうちで、打明けたり相談したりするのは、男子24%、女子49%で、悩みの性質上女子のほうが多い。その相談相手とし選ばれているのは、男女とも圧倒的に多くが友人や先輩であって、ついで女子は親である。

高校生で悩みを相談するものは、男子21%、女子40%で、やはり女子のほうが多い。相談相手としては、中学生と同様男女とも大多数が友人や先輩を選んでいる。

このように、悩みや不安を誰れにも相談せず、ひとりで悩んでいるものが多く、また相談するというものも、その相手は大部分が友人や先輩であって、悩みや不安がどれだけ軽減したり、解消したりしているのか疑問である。

中・高校生の悩みは、からだの発達や変化に伴うものが多く、科学的基本的な知識を与えるだけで解消するものが少なくないのではないか。それだけに、生徒の相談や疑問に応じようとする教師の受け入れ態勢が重要である。

展 開 例

V 小 学 校 の 展 開 例

IV 中 学 校 の 展 開 例

VII 高 等 学 校 の 展 開 例

V 小学校の展開例

1 小学校の指導目標

- 1 からだや身のまわりを清潔に保たせ、健康できまりある生活習慣を育成する。
- 2 男女のからだのちがいや成長に個人差のあることを理解させるとともに、第二次性徴からくる心身の変化を正しく受けとめ、性に対する健全な考え方や態度を養う。
- 3 男女の特性や役割を理解させ、相互に尊重し、正しく交際する態度を養う。
- 4 性に関する社会的風潮やマスコミの報道に正しく対処する心構えをはぐくみ、性に対する豊かで明るい心情を養う。

2 指導にあたって

- 1 「よい生活習慣」「生命の尊重」…等、六つの指導項目を設定し、それぞれ各学年の発達段階を考慮し、指導内容を配当した。しかし、「用便」を1年で扱ったから他の学年で扱わなくともよいというのではなく、小学校では繰り返し指導することが習慣化するに大切であり、一部指導内容を重複させ、二つの学年に共通する内容を取りいれて計画したものもある。したがって低・中・高学年ごとの主題名を同じにしているものも多い。
- 2 各学校で指導する場合は、6項目をバランスよく指導することが望ましいが、学校や児童の実態を考え、この学年には早すぎる（おそすぎる）内容だ……という場合には上（下）学年にずらしたり、他の教科で指導しているとすれば、はぶいてよい。指導内容は学校の全体計画の中で変更、増減して指導してさしつかえない。
- 3 どの教科で指導するかは学校の計画にまかせていいが、一応次のように考えた。

学	—	学級指導	体	—	体育	道	—	道徳
理	—	理科	保	—	保健	家	—	家庭

○印のあるのは1時間の展開例を作成しているもの。○印は実際に授業を試み、指導案と授業記録等をまとめているものである。

- 4 作成した展開例は15例、授業実践例は3例、全部で18例をのせている。学年ごとには3例ずつであるが項目別にみると「よい生活習慣」3例、「生命の尊重」3例、「からだの成長」5例、「心の変化」1例、「男女の協力」3例、「社会への適応」は2年を除いて各学年分を作成した。「心の変化」は5年を対象にした例だけをのせた。
- 5 展開例は、どれも1時間扱いとして作成したものであるが、他の内容もすべて1時間扱いに考える必要はない。1でのべたように短学級指導、あるいは、学校行事、日常の生徒指導で指導できるものも多い。特に低学年は1時間扱いにするより短い時間に何回かに区切り、繰り返して指導するとか、体をとおして指導した方が効果がある場合もある。
- 6 指導展開例があっても、資料が整備されていないと指導しにくい。ここには授業で使用した資料だけをのせているが、各校で工夫していただきたい。「性教育に関する研究(1)」の調査も活用してほしい。

3 指導内容

	1 年 指導内容		2 年 指導内容	
よい生活習慣	①学	きれいなからだ 1 よごれやすいところ 外からのよごれ, 内からのよごれ 2 からだを清潔にするわけ 3 きれいにする方法 4 手洗いの実習	①学	きれいなからだ 1 あせのしまつ 2 よごれた下着 3 下着のとりかえ 4 正しい用便, 入浴のしかた 5 清潔の習慣化
生命の尊重	理	草花のたねまき 1 たねまき 2 草花の成長 3 たねや実のしゅうかく ことりやきんぎょ	①学	わたしの誕生日 1 誕生会の経験-家庭・学校 2 出生時のからだ 3 成長するからだ 4 じょうぶなからだにするには 5 両親への感謝
からだの成長	①体	大きくなるからだ 1 赤ちゃんのからだ 2 自分のからだ 3 成長するからだ……大きく成長するには 4 両親への感謝	体	大きくなるからだ 1 健康診断の大切さ 2 成長のよろこび 3 元気なからだをつくるには
心の変化	学	こまったことのそうだん	学	こまったことのそうだん
男女の協力	①道	みんななかよく 1 いじわるされた経験とその原因 2 いじわるを防ぐには 3 親切をしたり, されたりした経験 4 これからの協力, 助けあい	道	みんななかよく 1 男女の遊びのちがいがい 2 なかよく遊ぶことの楽しさ 3 係への協力
社会への適応	学	あんぜんなまいにち 1 あんぜんな登下校 きめられた道, 信号の見分け方 2 外出時のやくそく 行き先, 帰る時刻 3 あんぜんな遊び, 場所	①学	あんぜんなくらし 1 登下校の安全 2 外出時の安全 3 ひとり歩き 4 知らない人への応待 誘かいを防ぐには, 加害者にならない。

	3 年 指導内容		4 年 指導内容	
よい生活習慣	①学	身のまわりの清潔 1 身のまわりの清潔 2 衣服のよい着方 3 住まいの清潔 4 せんたくのしかた 5 清潔の習慣化	学	身のまわりの清潔 1 からだの清潔 排泄と清潔 不潔からくる病気 2 清潔な服装……下着のよごれ 小物のせんたく
生命の尊重	学	じょうぶなからだ 1 かぜやはらいたの経験 2 びょうきになった人 3 げんきなからだ	①理	生きものの育ち方 1 植物のふえ方, 育ち方 2 こん虫のふえ方, 育ち方 3 生きものの育ち方 4 成長する喜び
からだの成長	①体	ぼくのからだ, わたしのからだ 1 健康診断のようす 2 成長するからだ 3 からだの内部の発育 4 視野の広がり 5 強い心, たくましいからだ	①体	ぼくのからだ, わたしのからだ 1 発育の男女差 2 男女の体型のちがいがい 3 からだの内部の発育 4 男女相互の尊重 ※月経(女子への個人指導)
心の変化	学	悩みや不安についてのそうだん	学	悩みや不安についてのそうだん 1 からだについての不安・悩み 2 家庭や学校におけるの悩み
男女の協力	①道	男女仲よく 1 男女間のあそび 2 問題のおこる原因 3 男女の特性 4 男女の協力 5 家族の協力	道	男女仲よく 1 男女の行動や性格のちがいがい 2 男女相互のおもいやり 3 学級における男女の対立 4 仲よくするには
社会への適応	学	きまりある生活 1 きちんとした服装と態度 2 よい遊び, 安全な場所 テレビ, 雑誌のみかた 1 よい番組 2 よい雑誌のえらび方	①学	きまりある生活 1 学校生活でのきまり 2 家庭における自律的態度 3 校外でのきまり 4 明るい生活

		5 年 指 導 内 容	6 年 指 導 内 容
よい生活習慣	家	清潔な身なり 1 自分でせたく、つくろい 2 その時々に応じた衣服の着がえ	家 清潔な身なり 1 日常着の着方 2 生活時間のくふう
	学	公共施設の清潔 1 学校・公園等の清潔・利用 2 清潔と病気	学 公共施設の清潔 1 乗り物、集会場の利用と清潔 2 清潔習慣についての反省
生命の尊重	理	植物の育ち方 魚の育ち方 1 おす、めすの見分け方 2 産卵、ふ化、成長のようす	理 ① 新しい生命の誕生 1 花のつくり 2 花粉のなかだち 3 魚のふ化と成長 4 にわたりの卵のふ化と成長 5 生命の尊さ
	保	男女のからだの成長 1 男女の体力差 2 男女のからだの外見上のちがいがい 3 からだの生理的変化 4 発育の個人差 5 男女の協力	保 ① 男女のからだの成長 1 男女のからだの外見上のちがいがい 2 からだの生理的変化 3 男女のからだの仕組みとはたらき 4 成人への道
心の変化	学	男女の心の变化 1 第二性徴と心情の変化 2 不安な悩みの解消 3 男女間のトラブルを防ぐには	学 ① 男女の心理的ながいがい 1 異性意識 2 男女相互の敬愛 3 第二性徴にかかわる不安や悩み
男女の協力	学	男女の協力 1 性差による興味、関心のちがいがい 2 家族の役割りと協力 3 社会での男女の協力 4 これからの協力	道 ① 男女の交際 1 正しい交際のあり方 異性へのエチケット 2 男女の役割り
社会への適応	学	安全な生活 1 誘いかい、誘わくにまけない 2 被害をうけやすい時間、場所 3 マスコミへの正しい判断	学 ① 性被害の防止 1 誘惑や被害の事例 2 被害を受けた場合のようす 3 被害の防止法 4 加害者にならないために 5 安全なくらし

1 主 題 きれいなからだ (生活習慣)

2 指 導 領 域 学級指導

3 指 導 の ね ら い

清潔なからだは、さっぱりして気持ちがよく、相手によい感じを与え、病気の予防に大切であることを理解させ手洗いや顔洗い、用便をじょうずにできるようにする。

4 指 導 過 程

指 導 内 容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資 料 ・ そ の 他
○手のよごれを調べる。	1 自分の手はどのようによごれているかを調べる。 ○よくみて調べる ○友だちの手と比べる ○消毒綿でふいて調べる	○何でよごれたのかを考えさせ、案外に手洗いが忘れられていることに気づかせる。 ○きれいだと思っても消毒綿などでふきとると、目に見えないよごれもあることに気づかせる。	○消毒綿
○からだのよごれやすいところ	2 からだのよごれやすいところについて話し合う。 ○手や足のよごれ ○顔や首のまわり ○あせによるよごれ ○用便によるよごれ	○遊びや仕事で手足はよごれやすく、特に足のよごれ、爪ののびがいつそう不潔になっていることに気づかせる。 ○はげしい運動によって、あせが出てからだ全体がよごれること、用便によるからだのよごれについても話をする。	
○からだを清潔にする	3 からだを清潔にするわけについて考える。	○不潔にしておくと思臭があったり、ばいきんの巣になったり、いろいろな病気にかかりやすくなることについて考えさせる。	○よごれたものに付着しているばいきんの絵
○からだをきれいにする方法	4 からだをきれいにする方法を話し合う ○手の洗い方 ○顔の洗い方 ○用便のあとしまつ ○あせのしまつ	○手や顔を洗うときは、ただぬらすだけでなく、洗い順序も考えて、ていねいに洗うことについて話をする。 ○男女の性器のちがいがいから用便のしかたにちがいがいがあること、器具の使い方とあとしまつについて話す。あせのしまつと下着のとりかえについてもふれるが、これらは2年でさらにくわしくあつかう。	○手洗いの図 ○顔洗いの図
○手洗いの実習	5 手洗いをする。	○話し合ったことをもとに、手洗いの実習をさせ、手洗いの方法を理解させる。	○石けん、手ぬぐい

- 1 主 題 大きくなるからだ(からだの成長)
- 2 指導領域 体育
- 3 指導のねらい

からだはどのように成長してきたか、いつそうじょうぶにするには、どうすればよいかを考えさせ、成長のよろこびと親への感謝の気持をおこさせる。

4 指導過程

指導内容	学習内容	指導上の留意点	資料・その他
○赤ちゃんのからだ	1赤ちゃんのからだについて話し合う ○手足の大きさ ○おんぶしたときの重さ ○赤ちゃんの着物やふとんの大きさ ○自分が生まれたときのようす 幼稚園のときのからだについて話し合う ○せいの高さ ○からだの重さ ○運動のしかた	○赤ちゃんをみている経験から、からだ小さく弱々しいこと、かわいがって育てている家族のようすを話しあわせる。 ○自分が生まれたときはどんなようすだったか、おかあさんから聞いてきたことをもとに話し合わせる。 ○幼稚園のころは、からだも大きくなって、運動のしかたもちがってきていることに気づかせる。 ○幼稚園のときの成長を示す記録があれば資料として利用する。	○赤ちゃんの実物大の絵図(保育人形も準備できれば利用効果は大きい) ○赤ちゃん、幼稚園のときの写真 ○仲よく遊んでいる写真
○自分のからだの成長	2自分のからだの成長に気づき友だちの成長と比べてみる。 ○せいの高さ ○からだの重さ ○筋肉や力 ○成長の個人差	○一列に並んでせいの高さを比べたりおんぶしあってからだの重さを比べたりして、からだは幼稚園のときよりさらに成長していることや、成長に個人差のあることに気づかせる。 ○背が低いこと、体重の軽さに劣等感をもたせないよう留意する。	
○成長するからだ	3もっと大きく、じょうぶなからだに成長させるにはどうしたらよいか話し合う。 ○なんでも食べる ○よい運動 ○病気の予防 ○よくねむる ○楽しくくらす	○偏食をしないと、よく運動をすることが、じょうぶなからだをつくるに大切であり、そのほか、どんなことに注意すればよいか、いろいろと考えさせる。 ○毎月体重をはかり、健康診断をするわけについても考えさせる。	○身長・体重を表す絵やグラフ
○親への感謝	4成長のよろこびと親への感謝について話し合う	○かぜや腹痛などの病気やけがをしたとき、手をつくしてきてくれた親への感謝の気持を考えさせる。	○録音テープ 親の声

- 1 主 題 みんななかよく(男女の協力)
- 2 指導領域 道徳
- 3 指導のねらい

みんななかよく助けあい、相手の立場を考え協力しあうことの大切さを理解させる。

4 指導過程

指導内容	学習活動	指導上の留意点	資料・その他
○いじわるされた経験	1いじわるされて困ったことはないか話し合う ○いじわるされた例 乱暴な行動 いやなことば はずかしめ 弱い者いじめ ○いじわる、なかまはずれされたときの気持	○男女間のいじわるだけでなく、男同士、女同士の問題もあると思うし、これをとりあげるが、この話し合いが逆に対立を招くことのないよう、お互いに協調する方向で話し合わせる。 ○なきべそをかいた絵、にこにこした絵を見せ、「何をしているところか」というところから話し合わせ、導入とする。 ○いじわるされたときの不愉快な気持と強い者からいじめられたおそろしさを思い出させる。	○なきべそをかいた絵や写真 ○にこにこした絵や写真 ○日記・作文
○いじわるの原因	2なぜいじわるをするのか、そのわけを考える。 ○いじわるをする人に原因 ○いじわるをされる人に原因	○主な事例をとりあげ、その原因を考えさせるが、いじわるをされる方にも原因がないか考えさせる。 ○いじわるをされる人はもちろんだが、する人にも不愉快な気持はないか話し合わせる。	
○いじわるの防止	3いじわるを防ぐにはどうすればよいか話し合う。	○男女の性差、特性を話し、女子へのおもいやり、困っている人、弱い者へのいたわりが、よい友だち関係を築くことを話す。 ○親切は、いつか自分にかえってくることなどを話す。	
○親切にされた経験	4今まで、親切にされたり、なかよくしてもらった経験を話し合う。	○なかよくしてもらったとき、親切にしてもらったときのうれしさを思い出させ、その大切さを理解させる。	○読み物 ○親切にされた事例
○今後の協力助けあい	5これから、助けあったり、協力できる点を話し合う ○弱い者へのいたわり ○男女の協力 ○仕事・係活動での協力	○具体的に、これから協力できる面、なおしていかなければならない点などをみつけさせ、実践する意欲をおこさせる。	

- 1 主 題 きれいなからだ（生活習慣）
 2 指導領域 学級指導
 3 指導のねらい

自分のからだを清潔にすることの大切さを知らせ、下着をとりかえ、じょうずに用便・入浴ができるよう習慣化をはかる。

4 指導過程

指導内容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資料・その他
○あせのしまつ	1 はげしい運動や遊び・仕事のあとのあせのしまつについて話し合う ○あせをふく ○顔を洗う ○下着をとりかえる	○あせをふくとき、手ぬぐいを使わず衣服でぬぐう人もいることに気づかせる。 (手ぬぐい、ハンカチの携帯についても指導する。)	
○衣服(下着)のよごれ	2 あせやほこりでごかれた衣服(下着)のようすについて話し合う ○よごれのようす ○いやな臭い	○よごれた下着は不快であり、相手にもよい感じを与えず、からだによくないことを話す。 ○よごれたくつ下の悪臭などから、よごれのひどさを感じさせる。	○よごれた衣服
○下着のとりかえとせんたく	3 下着のとりかえについて話し合う ○とりかえるとき ○下着のえらび方 ○用便による下着のよごれ	○下着の着用日数とか、ひどく汗をかいた場合を考え、自分から気づいてとりかえるように指導する。 ○下着は、あせをすいたものを、えらぶこと、また、用便による下着のよごれについても話す。 ○よごれた下着は、すぐ洗ってもらようにする。	
○じょうずな用便のしかた	4 じょうずな用便のしかたについて話し合う ○便器の使い方 ○用便のしかた ○用便後のあとしまつ ○手洗い	○男女の性器のちがいがから、用便のしかたやあとしまつにもちがいがあり下着をよごさないよう、また器具もよごさないで使えるよう話をする。 ○性器は皮膚の弱いところであり、清潔にし大事にするよう心がけさせる。	○育児人形
○じょうずな入浴のしかた	5 じょうずな入浴のしかたについて話し合う。 ○入浴前のエチケット ○からだの洗い方 ○タオル、石けんの使い方 ○洗髪のしかた	○じょうずな入浴のしかたとエチケットについて話し合わせる。 ○排泄器官はよごれやすいところでもあり、ていねいに洗うように注意させる。 ○目耳に注意した洗髪のしかた。入浴後の下着のとりかえについても話をする。	○入浴すききらい調査 ○入浴回数の調査 ○入浴のしかた(絵図)
○清潔の習慣化	6 健康で清潔なからだは気持ちがよく明るい生活ができることを話し合う。		

- 1 主 題 わたしの誕生日(生命の尊重)
 2 指導領域 学級指導
 3 指導のねらい

出生時から現在までの成長の過程を話し合い、これまで両親や家族に愛情をもって育てられてきたことに対する喜びと感謝の気持をおこさせる。

4 指導過程

指導内容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資料・その他
○誕生会の経験	1 自分たちの誕生会の経験について話し合う。 ○家庭での誕生会 ○学校での “ ” ○誕生日を祝う意味 ○お祝のプレゼント、お祝のことはに対する喜び。	○誕生会をやらない家庭や現在親のいない子どもの場合も考慮して話し合わせる。 ○誕生会をやる意味については深く考えさせるのではなく、出生の喜びや成長への期待などがわかる程度に扱う。	
○出生時のからだ	2 出生時のからだについて両親から聞いてきたことをもとに話し合う。 ○生まれた季節や時間 ○からだの大きさ ○元気なき声 ○家族の喜び	○生まれたときのからだの大きさとか家族の喜びを中心に扱い、どこから生まれたかなど好奇心をあおるようなところへは深いりしない。 ○だれと顔が似ているかなど、家族がほんとうに出生を喜んだ話などもちよらせたい。	
○成長するからだ	3 現在までどのように成長し、今後どのように育っていくかについて考える。 ○乳幼児頃のからだ ○現在のからだ ○病気やけがの経験 ○大人の体格と比べる	○アルバムなどをもちより、両親から聞いたことなどとあわせ、からだの成長ぶりを話し合わせる。 ○からだだけでなく、考えも深まり視野が広まってきていることに気づかせる。 ○今後どのように成長していくか、大人の体格とも比べてみる。	○アルバム ○乳幼児や小学生の平均的な体格を示す絵図 ○体型模型・スライドがあれば効果的
○じょうぶなからだにするには	4 もつとのびて、じょうぶなからだにするには、どんなことに気をつけたらよいか話し合う。	○1年のときに話し合ったことをもとに、どのように実行されてきたかについて話し合わせる。	
○両親(家族)への感謝	5 両親の愛情によって育てられてきたことに対する感謝の気持を話し合う ○成長の喜び ○両親の期待へのこたえ ○父の日、母の日	○両親はいつも心配しながら愛情をもって育ててきたこと、両親に感謝し期待にこたえるため、どうすればよいのか、実行できる方法で考えさせる。	○両親の声(テープ) ○両親の作文(喜び・心配・期待)

- 1 主 題 安全なくらし（社会への適応）
 2 指導領域 学級指導
 3 指導のねらい

生命を守ることの大切さを理解させ、どんなことに注意すれば安全な生活ができるか、具体的な事例をもとに安全策を考え、行動できるようにする。

4 指導過程

指導内容	学習活動	指導上の留意点	資料・その他
○登下校の安全	1 通学路の安全について話し合い ○きめられた通学路を登下校しているか。 ○なぜ通学路がきめられているか ○通学路に危険はないか ○危険な遊びをしていないか	○登校の場合は、みんなならんでいる場合が多く、比較的安全であるが下校時はばらばらになり、気のゆるみもでてくるので、みちくさ、いたずらによる危険な遊びもおこりやすいので注意させる。 ○ひとりだけで登下校しない方が安全であることを話す。	○事故の例を準備
○外出時の安全	2 遊びやおつかい、習いごとに行く時の約束や注意することについて話し合い ○行く先を知らせているか ○帰宅時刻を知らせているか。 ○行く先で安全な行動がとれているか。	○不注意や約束を守らないことでおこった事故の例などを話してきかせるのもよい。 ○どんなに近い場所、短い時間でも家の人にことわって出かけることの大切さを話す。 ○外出はひとりよりも複数が安全であることを考えさせる。 ○きちんとした服装、ことばづかいの大切さを話す。	
○ひとり歩き	3 ひとり歩きをする場合に注意することについて考える。 ○登下校（遅刻・早退時）のひとり歩き ○夕方・夜のひとり歩き	○複数で歩くことが望ましいことを話す。 ○遅刻や早退・欠席時には学校・家庭に連絡がつくようにする。 ○ひとり歩きでは特に夕方・夜のひとり歩きには十分注意させるが昼であっても注意が必要であることを話す。	
○知らない人への応待	4 誘いかい事件について知っていることを話し合い ○知っている事件 ○知らない人にことばをかけられたとき。 ○車に乗るように誘われたとき ○誘いかいを防ぐには ○加害者にならない	○子どもの誘いかい事件例を出させ、その恐ろしさを補説する。 ○親切にされること、これが誘いかいにかかわることの判断がむずかしく、その対応のしかたを充分話し合わせる。 ○いつもはつきりした態度が事故防止に大切であることを話す。	○誘いかい事件例

- 1 主 題 身のまわりの清潔（生活習慣）
 2 指導領域 学級指導
 3 指導のねらい

身のまわりの清潔について反省し、からだだけでなく、衣服やもちものまでも清潔にする意欲を喚起する。

4 指導過程

指導内容	学習活動	指導上の留意点	資料・その他
○清潔についての反省	1 からだの清潔について反省する。 ○習慣となっているか ○守られないわけ ○守っている人の話	○手洗い・爪切り・顔洗い・歯みがき入浴・用便のしかたなどについて実行されているかどうか、1・2年の指導をもとに反省させる。	○清潔検査表
○身のまわりの清潔	2 身のまわりを清潔にするため、気をつけることを話し合い。 ○衣服（下着）の着方 ○ボタン・ほころびのつくり ○せんとく ○部屋の整理・整とん	○自分たちが気をつけていること、また気をつけようとしていることなどいろいろとあげさせ、そのあと、主なものについてくわしく話し合わせたい。	
○衣服のよい着方	3 衣服のよい着方について考える。 ○厚着・薄着 ○下着・上着のよごれ（せんとくとブラッシング） ○背や腹のでやすい衣服 ○ボタン・ほころび	○清潔はからだのためによく、見た感じもよいという着方を考えさせる。 ○新しい衣服を着るという考えでなくさっぱりして清潔さを保つ服装を考えさせる。	○ブラジ ○ボタンのとれた衣服 ○ほころびた衣服
○住まいの清潔	4 住まいの清潔・整とんについて話す ○かばん・机・ロッカーの中 ○使った用具の整とん	○自分のからだだけでなく、もちものやロッカーなどにも気をくばり、すすんできれいにしようとする意欲を喚起する。	
○せんとくのしかた	5 せんとくのしかたについて話し合い、実習する。 ○ハンカチ、くつ下のせんとく ○衣服のせんとく ○ブラッシング ○小物のせんとく実習	○くつ下やハンカチなど、かんたんなものは自分でせんとくをするよう指導する。上着などのよごれに気づきせんとくしてもらいようにする。 ○実習では、せんとくのしかたと共に用具の使い方やまわりの人へのエチケット、あとしまつについても指導する。	○石けん ○せんめん器
○清潔の習慣化	6 清潔な身なり、住まいの清潔・整とんの習慣化について話し合い。	○そのときだけの実行でなく継続することの大切さを話す。	

1 主 題 ぼくのからだ・わたしのからだ(からだの成長)

2 指 導 領 域 体 育

3 指 導 の ね ら い

体格・体力の発達に伴い、内部器官も発育し、精神面も発達することを理解させる。また、より強くたくましいからだと心をつくらうとする意欲を喚起し、発育には個人差のあることに気づかせる。

4 指 導 過 程

指 導 内 容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資 料 ・ そ の 他
○健康診断の よりす	1 健康診断をする意味や診 断の結果について話し合う ○健康診断をするわけ ○健康診断をして異常は なかったか ○なおしておくことはな いか ○なおす方法をどうするか	○健康診断の大切さと、診断結果から どういう治療をし、今後注意すべき ことは何か、一般的なことはみんな で話し合わせ、個人的なことは個別 に指導する。	
○成長するか らだ	2 3年生までの体格や体力 ののびについて話し合い、 今後どのようにのびてい くかについて話を聞く。 ○身長・体重・胸囲 ○成長の個人差 ○今後の成長	○個人ごとの成長の記録をみて、大き く成長していることに気づかせる。 ○自分の成長を学級や県平均と比べさ せ、成長には個人差があること、女 子がやや男子より成長がよくなって いることに気づかせる。 ○成長がおそいことに心配し劣等感を もつ子が多いのでこの点を理解させ る。	○計測の結果 や体力を示 す図表 ○学級・県・ 全国平均を 表わす成長 のグラフ ○年齢をお った成長過 程を示すグラフ
○からだの内 部の発育	3 目にみえないからだの内 部も発育していることの 話を聞く。 ○低学年と比べての食べ る量 ○運動や仕事でみられる 筋肉の発達	○体格・体力の発育に伴って胃や心臓 肺といった内臓器官も発達してきて いることを知らせる。 (これは食べる量とか呼吸・力仕事 による筋肉の発達などから考えさ せるのもよい。)	○内部器官の 一部を図解 したもの
○精神面の発 達	4 しいに視野が広がって いることに気づかせる ○自分から他人へ ○家の中から学校・社会 へ	○精神面も発達し、考え方も大人へ近 づいていき、体格・体力・内部器官 精神面とからだ全体が成長している こと、バランスのとれた成長が大切 であることを話す。	
○強い心、たく ましいからだ	5 心もからだもいっそう強 く、たくましく成長させる ことについて考える。 ○きまりよい生活 ○適度のうんどう ○明るい生活	○じょうぶなからだ、たくましいから だをつくるために、どうすればよい か、具体的な事例をだしながら話し 合わせる。 ○明るくきまりよい生活のための協力 いたわりあいについて話し合わせる。	

1 主 題 男女仲よく(男女協力)

2 指 導 領 域 道 徳

3 指 導 の ね ら い

男女の特性を知り、男女間の諸問題を自分たちで解決し、楽しい学校生活ができるよう意欲を喚起し、家庭においては一人ひとりの役割りを果たし、協力することの大切さを理解させる。

4 指 導 過 程

指 導 内 容	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点	資 料 ・ そ の 他
○男女間のあ らそい	1 男女間であらそったり、 いやな思いをする諸問題 について話し合う。 ○遊びや仕事でのあらそい ○らんぼうなことばづかい ○暴力をふるうこと	○日頃、困っていること、いやなおも いをしている具体的な問題を遠慮な く出すようにする。 ○毎日の終会(反省会)や学級会に出 てきた問題をとりあげるのもよい。	
○問題のおこ る原因	2 なぜそういう問題がおこ るのかそれぞれの立場か ら考える。 ○男の方に原因がある場合 ○女の方に原因がある場合 ○男女の別なく個人的に 原因がある場合	○男女間の問題が多いと思われるがそ れぞれの立場からその原因をのべさ せる。 ○解決の糸口を見つけるための話し合 いが、かえって男女の溝を深めるこ とのないよう注意する。	○作文 ○学級会の記録
○男女の特性	3 男女それぞれに長所はな いか考える ○遊び、趣味のちがひ ○男・女の長所 ○お互の長所をいかす方 法	○遊びや趣味など男女にちがひがある ことに気づかせ、男女には、それぞ れ長所があり、長所をいかして協力 しあうことの大切さを話し合わせる。 ○男女が協力すれば、いっそう仕事は 能率的で、学校生活も楽しくなるこ とを話す。	○遊びの傾向調 査(すきな遊 び)
○男女の協力	4 学校生活の中で協力でき るものはどんなことか具 体的なことについて考え る ○勉強での協力 ○遊びや係活動での協力 ○グループ活動を通した 協力	○今まで協力できたこと、これから協 力できる面について考えさせる。 ○いやな行動をとられたときの気持ちを 考え、乱暴やいやがらせをつつしみ いたわりあうことの大切さを考えさ せる。	
○家族での協 力	5 家族もそれぞれ役割を分 担し、協力しあって生活 していることを話し合う ○父母の仕事 ○自分たちの役目 ○みんなの協力 ○明るい家庭	○父や母の仕事の苦勞などから、家族 一人ひとりが役割を担い、みんな 協力しあうことの大切さを話し合わ せる。 ○みんなの協力が明るく楽しい家庭を つくることを気づかせる。	○家族のしごと 調べ

1 主 題 生きものの育ち方(生命の尊重)

2 指 導 領 域 理 科

3 指 導 の ね ら い

植物や動物は種類によって、いろいろな育ち方をしていることや、それらの成長にはさまざまな条件がかかわることなど、生命現象の基礎的な理解を深め、生命を尊重する態度を養う。

4 指 導 過 程

指導内容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資料・その他
○動植物の観察	1 学校や家庭で育てている動物や植物について、成長のようすを話し合う。	○教室の鉢植えや虫、小鳥、家庭で飼っている動物の成長や子どもをうんだようすなどについて話し合う。	○鉢植えの植物(成長にちがいがあ
○植物のふえ方、育ち方	2 植物はどのようにしてふえるか育てた経験から話し合う。 ○ほうせんか・あさがお・ひまわりのたねまきと成長 ○いものうえつけとしゅうかく ○さし木でのふやし方 ○成長に差がでるわけ	○小さい種子が長いつるを伸ばしたりひまわりのように大きく成長し、たくさん種子をつくること、いくつかに切られたいもにもたくさんいもがつくことなど、生命力の強さに気づかせる。 ○日あたりや肥料、世話のしかたで成長に差がでることを話する。	るもの)
○こん虫のふえ方・育ち方	3 ちょうはどのように育つのであったか話し合う。 ○卵-幼虫-さなぎ-成虫 ○いろいろなこん虫の一生	○ちょうと同じように育つもの、ちょうとちがった成長をするものなど知っていることを話させる。 ○こん虫の種類によって成長のしかたや活動のようすがちがうこと、短い一生にたくさん仲間をふやすことなどに気づかせる。	○こん虫の一生を示す絵図
○生きものの育ち方	4 生きものはどのようにして生まれ育っていくか話し合う。 ○卵からかえって育ついきもの ○子どもでうまれて育つ動物 ○ひとりで育っていくいきもの ○親からかわいがられて育っていく動物	○フェアブル昆虫記など参考になる話を読んできかせる。 ○こん虫とちがって卵をあたたためてかえす小鳥、ひとりだちできるまで親が育てる動物など、いろいろな育ち方、生き方があることに気づかせる	○フェアブル昆虫記のいくつかのお話を用意(親の愛情・苦勞・喜び)
○成長する喜び	5 自分たちが成長してきた喜びについて話し合う。 ○元気に育ってきた喜び ○父母への感謝 ○生命の大切さ	○ひとりひとりが大事に育てられていることに感謝し、生きものの生命を大切にしていこうとする気持ちを喚起する。	

1 主 題 ぼくのからだ・わたしのからだ(からだの成長)

2 指 導 領 域 体 育

3 指 導 の ね ら い

からだはしだいに成長してくるが、成長には個人差があり、男女差のあることを理解し、自分のからだにあった生活をする事、また男女それぞれの特性を知って協力する気持ちを喚起する。

4 指 導 過 程

指導内容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資料・その他
○成長するからだ	1 1年から4年までの身長・体重・胸囲について成長のようすを話し合う。 ○1年から4年までの成長 ○特に成長のよかった年齢 ○発育の個人差	○成長をあらわすグラフは事前につくっておく。 ○成長には個人差があり、病気でなければ心配することがないこと、体格は小さくとも元気なからだをつくることの大切さを話する。	○成長を示すグラフ 個人のグラフ
○発育の男女差	2 年齢別・男女別の発育について調べる ○男女の身長の変化 ○ " 体重 " ○ " 胸囲 " ○ 交又する年齢 ○ 交又するわけ	○身長・体重とも4年生頃に交又し、女子の成長が目立ってくること、しかし13才頃に再び交又するなど男女は一樣に成長するのではないことに気づかせる。 ○交又するわけは、くわしく扱わないが次の「体型」「内部の発育」と関連させ、ホルモンのはたらきによることを話する。	○全国平均のグラフ(交差グラフ)
○男女の体型のちがい	3 男女の体つきのちがいについて話し合う。 ○女…胸のふくらみ 全体のみ ○男…筋肉、ごつごつ、かたさ ○体つきのちがいのおこるわけ ○大人のからだへの近づき	○体つきのちがいは、写真や模型などをみせる。 ○男女の体型は、子どもの場合と大人の場合を比べさせて、男女の体型をはっきりとらえさせる。 ○男女の発育のちがいは性ホルモンの作用により、大人への準備がはじまっていることを簡単にふれる。	○人体(男女)の写真模型 スライド等
○からだの内部の発育	4 からだの内部も発育していることの話聞く。 ○内臓の発育	○精神面の発達も含めて内部の発育を話し合わせる。	○内臓器官の絵や図、模型、スライド等
○精神の発達と男女相互の尊重	5 男女相互のいたわりあい、協力のしかたについて話し合う ○異性意識 ○男女の協力	○からだと共に考えや行動もしたいに変化し、性差も目立ってくるが、お互いに男女の特性を理解し、仲よく協力しながら心身が健康に育っていく途中にあることを話す。	

- 1 主 題 きまりある生活（社会への適応）
- 2 指 導 領 域 学級指導
- 3 指 導 の ね ら い

学校や家庭生活できまりある生活をしているかどうかを反省させ、すすんできまりを守り、安全な生活のためにいろんな被害を防止する方策を考えさせる。

4 指 導 過 程

指 導 内 容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資 料 ・ そ の 他
○ 学校生活でのきまり	1 学校にはどんなきまりがあるか話し合う。 ○ 時刻を守るきまり ○ 遊び場所 ○ 通学路 これらのきまりはどんな役目をしているか考える。	○ 守られていないきまりはないか、自分が守っていないきまりはないかを発表させ、守らないわけや守らないとどうなるかなどについて考えさせる。 ○ きまりをつくる意味について考えさせ、きまりは進んで守ろうとする意欲を喚起する。	
○ 家庭でのきまり	2 家庭ではどんなきまりをつくっているか話し合う。 ○ テレビ視聴時間 ○ 起床・就寝時間 ○ 計画的な家庭のくらし	○ 家庭ではどのようにしてきまりがつけられているか、守られているきまり、守られていないきまりについて考えさせる。	○ 事前にアンケート調査でまとめておく。
○ 校外でのきまり 被害事例 被害の防止 マスコミへの正しい判断	3 校外生活で注意することについて考える。 遊び、交通安全 ○ いろいろな被害事例を出す。 ○ どうすれば被害を防止することができるか考える。 知らない人への応待 ひとり歩き ○ テレビ、雑誌などに対する見方、考え方を話し合う。	○ 校外でいろいろなきまりや約束を守っているか、身近かな遊びや交通関係から話し合わせる。 ○ 校外において、自分の不注意によっておこる事故、注意しておってもおこる事故の例を出させる。 ○ 恐ろしい被害事例も話し、被害を他人ごとと考えず、適切に対処しようとする姿勢に導く。 ○ 知らない人への応待、ひとり歩きなどにおいて注意が必要であることを話す。 ○ テレビや雑誌、まちの中でみられるいろいろなかんぱんなどから、影響をうけていると思うし、正しい見方判断をあやまらず、自己抑制が安全に結びつくことを話す。	
○ 明るい生活	4 きまりを守り、安全な生活をするために、みんなが力をあわせることの大切さについて話し合う。	○ 明るい生活はひとりだけの力で作られるものでなく、みんなの力が必要であることに気づかせる。	

- 1 主 題 男女のからだの成長（からだの成長）
- 2 目 標 男女のからだの成長し変化していくことを理解し、男女相互が信頼し協力しあう態度を養う。
- 3 指 導 に あ た っ て

- (1) 主題設定の理由
発育に男女差がしだいに目立ち、第二性徴が現れる時期である。学級において望ましい人間関係をつくり、心身の健全な発達のためにも、男女の特性を理解させ、異性への思いやりや慈しみ合う心を育てる。
- (2) 生徒の実態
男 21 名、女 16 名中、からだの成長でとくに変化がみられると答えたのが男 17 名、女 5 名、男女とも性的な関心は芽生えている。
- (3) 留意事項
男女のからだや心の変化を「エッチ」や「いやらしい」という興味本位に考えさせるのではなく、大人へ近づく成長の一時期であるという正しい認識を育て、発育面の悩みに伴う心理的葛藤も生じやすく気をつけていきたい。

4 指 導 過 程（保 健）

指 導 内 容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資 料 ・ そ の 他
○ 男女の体力	1 スポーツテストの結果をみて、男女の運動能力のちがいについて話し合う。	○ 体力については男子は女子より勝っていることに気づかせる。	○ 運動能力テスト表
○ 男女のからだの外見上の変化 ・ 体格のちがい ・ 体型のちがい	2 男女のからだはどのように変化しているか話し合う。 ○ 身長、体重の変化 ○ 男女の体型 男子…筋肉、ひげ 女子…胸のふくらみ まるみ	○ 男女の発育の交叉に注目させる。 ○ 体つきはどのように変わってきているか話し合わせる。 ○ 体つきのちがいは、将来、父として母としての役割に深くかかわりあっていることを知らせる。	○ 発育の交叉図 ○ OHP ○ 子どもと大人の体型（模型・写真）
○ からだの生理的変化	3 そのほか変化していることとはないか話し合う。 ○ 変声 ○ 月経（メンス） ○ 乳房のふくらみ ○ にきび、発毛	○ 外見上の変化だけでなく、内面的にも男女にちがいがでてきていることを知らせる。また、発育し、変化していくことは望ましいことで、不安をもたないようにすることを話す。	○ テープ（心とからだの成長）
○ 発育の個人差	4 からだの発育に個人差のあることを話す。 ○ 個人差 ○ 不安、悩みの除去	○ 素質や生活環境などから発育には個人差があり、心配ないことをわからせる。特に月経、乳房、発毛などについての不安を除去する。 ○ 不安なときには悩んでいないで信頼できる大人に相談するよう念をおす。	○ 月経のはじまる年齢のグラフ
○ 男女の協力	5 男女の特性をいかしあつての協力のあり方について話し合う。	○ 男女はからだだけでなく、心の状態や行動においても違いがあることから、男女相互の理解や協力が必要であることをわからせる。	

5 授業の記録

(1) 男女の体力差

T₁ これはみなさんのスポーツテストの結果です。(50m走, ボール投げ等のスポーツテスト成績表)練習がたりなかつたので, よい成績とはいえませんが, これをみて何か気がつきませんか。男の人と女の人ではどちらがよい成績でしょうか。

C₁ やはり, 男の方がよい。

C₂ 私も男の方がどの種目もよいと思います。

T₂ 男の人が女の人より特別にがんばったとも思えませんが, 男の人と女の人では, こんなに運動能力に差があるのはどうしてだと思いますか。こんなことについて, 考えてみたことはありませんか。

C₃ 私の弟はまだ2年生ですが, 一緒に走ると私と同じくらいの速さで走ります。不思議に思います。

T₃ 先日の全校マラソン大会では, 5年生として, A君とBさんが優勝しメダルをもらいましたが, その記録をみると, やはり, BさんはA君に追いつけなかつたようですね。このように, 男の人と女の人とは運動能力に差があるのはどうしてでしょうか。私たちの体に関係がないか。きょうは「男の人と女の人のからだ」について勉強しましょう。

(2) 男女のからだの外見上の変化

T₄ 男の人と女の人では, 運動能力に違いがでているが, 体格や体つきについてはどうか考えてみましょう。まず, 男子と女子ではどちらが体格がよいと思いますか。

C₄ 女子の方がよい。男子より女子の方が背が高い。

C₅ 保健の学習で調べたとき, 女の方がよかった。

T₅ これは4月からずっと, 身体測定の結果をグラフに表したものです。(男女別の身長体重平均のグラフ)これをみると, やはり, 女子の体格はいいようです。それでは赤ちゃんのときも, これから大人になっても, 男子は小さいのでしょうか。そのことについてもっと知りたくて, 小学校入学から中学校までに, 身長体重がどんなふうに成長していくのか, 調べてみました。(各学年毎の身長体重平均のグラフ)何か気がつきませんか。

T₆ (グラフの男女の交差点を示し)この辺で, 女子がこんなに伸びて, 男子が越される時期があります。

T₇ 今, 男子と女子の体格がどのように違うかを見たのですが体力では男子が圧倒的によく, 一方, 体格では男子が劣りますね。それはどうしてなのでしょう。

C₆ 男の人の体つきは見たところがちりちりしているが, 女の人にはひよろひよろとか, なよなよという感じがするので, 体力では劣るのではないかと。

T₈ 今, C₆さんはよいことを言いました。体つきに違いがあるのではないかと。じゃあ, いつ頃から体つきに違いがでてくるのだろうか。

C₇ 9歳頃からだと思う。

T₉ (OHPで後ろ向きの男女のイラスト)これは幼稚園児です。どっちが男か女か分かりますか。分からないね。前を向いてもらいましょう。(前向きのイラスト)こんどは, 男か女か分かりますね。次に, 大人の体つきをみましょう。(男女大人の後ろ向きのイラスト)どちらが男ですか, 女ですか。

C₈ 男はそっちの方です。(男の方を指す)

T₁₀ これは前向きにしないで, 男か女かわかるね。このように, 大人になると体つきに違いがでてきます。

C₉ 男の人の脚は, 膝の下あたりに筋肉がついています。

T₁₁ 筋肉がついているのね。いいところに気がつきました。それでは, 大人の男女の体つきにはどんな違いがあるか考えてみましょう。(男女の彫像のスライドを写す)これは有名なミロのヴィーナスです。どちらが男か女か分かりますね。これをみて, 男子と女子の体つきの違いをあげてみましょう。(児童は男女のからだの特徴をいろいろと話す……発言内容は略)

(3) からだの生理的变化

T₁₂ いま, ふたりから女子の腰がちりちりしているという意見がでましたが, 男子と女子の体の中に何か違いがあるのでしょうか。男の人にないものが女の人にあるのだろうか。

C₁₀ 体重測定の際に, 保健の先生から女の人は生理になると聞きました。(略)

T₁₃ 生理になるのですね。(これは男子と女子の体の内ですとって, OHPで身体の解剖図と内性器の図解を示す)男と女の体はほとんど同じですが, ここの一か所だけ違います(女の内性器図を指し)これを子宮と言います。一緒に言ってみましょう。(一斉に)これは子供の宮殿, 赤ちゃんを入れておく所です。王様が住んでいる宮殿と同じように, 子どもを大切に住まわしている宮殿が子宮で, こういうものが, 女の中にあるのです。(男の内性器図をOHPで指し)男の人にもこういうものがあります。体の中の性器の違いによって, 男の人は肩幅が広くちりちりしており, 女子のは狭くなめらかになります。このことについて, テープでくわしく聞いてみましょう。

(テープの主な内容, ①男性ホルモン, 女性ホルモンと大脳の働き ②女の第二次性徴に伴う乳房のふくらみ, 月経の始まる過程, 回数 ③女性に対する男性のいたわりの必要 ④男の第二次性徴, 声変わり, 発毛 ⑤性器の清潔 ⑥発達の個人差, 大人になる心がけと責任 — スライド「月経について」約5分)

T₁₄ 男子と女子の体つきの違いがでてくるのは, ホルモンの働きですね。男の人は成長してくると, どういうことになるかというところ…(略)(声変わりや発毛について, 児童から身近かな事例発表があった。)

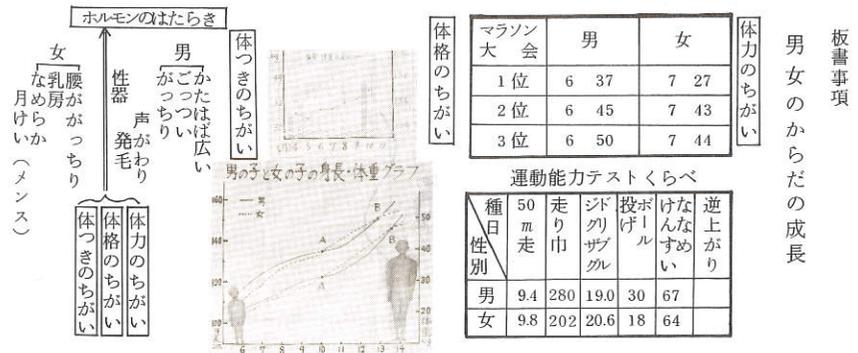
(4) 発育の個人差

T₁₅ 自分は大人になりはじめたと思う人, 手をあげて。(大部分挙手)これは早い人も遅い人もいます。 (OHPで年齢別初潮経験者のグラフ)52年度の初潮になった年齢で, 11歳から12歳, 5年から6年にかけて増えていますね。しかし, 早い人は9歳ぐらいもいるし15歳で初めてなる人もいます。個人差があるのですから, 心配することはありません。早くなったから偉いんだとか, いばる必要もないし, 遅いといって心配して小さくなることもあります。成長している私たちの体の中で, 変化が徐々におきつつあるのです。(略)

(5) 男女の威力

T₁₆ こういうふうには, 男子と女子は体力も体格も体つきも内部も違うのですから, 考え方に違いがでてくるのは当然です。これは, この間, みなさんに書いてもらったアンケートの一部です。(OHPでアンケートのグラフ)一緒に読んで下さい。「男女一緒に仕事をしたり, 遊んだり勉強したりするとき, あなたはどう思いますか。」

T₁₇ 「お互いに助け合ったり, 理解しあえてよい」というのが, 少ないのに反し, 「意見がなかなか合わないで, 別々の方がよい」というのが, こんなに多いですね。(略)



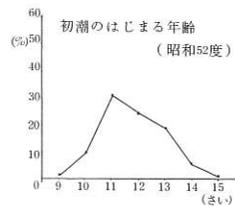
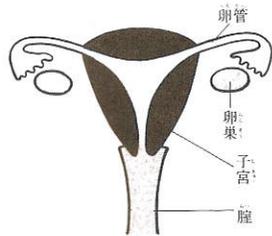
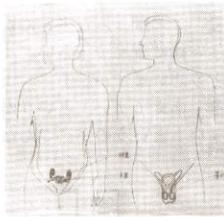
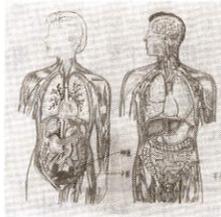
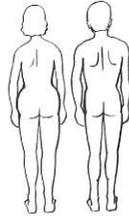
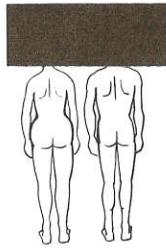
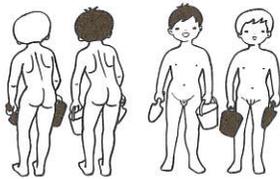
6 児童の感想

- A 男性ホルモンや女性ホルモンがあり，女子は10歳頃から働き出すことがわかった。
- B 今まで読んだ本に出てきたことばの「生理」ということの意味がわかった。
- C 昨日，メンスになって困っていたが，今日勉強して，こわいことでないことがわかった。

7 考察

性に関する指導に興味本意なものにさせないためには，適切な資料の準備と教師のき然とした指導姿勢が大切である。資料の準備には，特に気を配った。第二次性徴をどう説明するかで苦心したが，テープレコーダーで流して聞かせることにした。女兒はそろそろ，興味関心を持ち始めているが，みんなの前で本音を出したがる。個々の児童につきささしてみると，悩みもあるので答えてやる意味でも，授業にとりあげてよかった。問題点の一つとして，学級指導と特設時間での取扱いの違いがある。学級指導ではクラスの実態を基に課題解決に重点がおかれるのではないかと思う。一方，特設では，体の生理過程や体つき，体力の違いなど，知識を重点にして，計画的に扱っていくことになる。従って，男女の協力などの問題解決に関するものは学級指導で扱うのが適しているように思う。

授業に利用した資料（OHP）



1 主 題 男女の心の変化（心の変化）

2 指 導 領 域 学級指導

3 指 導 の ね ら い

男女の心も大きく変わってくることを知り，互に認めあい，協力的に生活しようとする態度を育てる。

4 指 導 過 程

指導内容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資料・その他
○男女間のトラブルの原因	1 男女の協力がうまくいっていること，困っていることについて話し合う。 ○うまく協力ができている例 ○協力がうまくいかず困っている例 仲よく協力できないわけを考える。	○具体的な事例をもとに話し合わせるが，個人攻撃にならないようにする。また男性優位・女性優位という傾向にならないように留意する。 ○男女それぞれ発育してくると興味や考えることも違ってきて，自分の立場だけ考えると，対立がおこりやすくなることに気づかせる。	○アンケート（対立の内容と原因） ○作文
○第二次性徴と心情の変化	2 第二次性徴期には，心も大きく変わっていることについて話を聞く。 ○異性を意識しはじめる ○性にかかわる悩み ○心の不安と反発心	○からだの成長と同じように心も大人へ向かって成長していることを知らせる。 ○理由のあさい接触拒否や反発は異性への関心のあらわれであること，仲よく協力できる段階まで成長していることに気づかせる。 ○不安や悩みがあったら信頼できる大人へ相談することが大切で，ひとりで悩み心配することのないよう指導する。	○男女の興味調査 ○遊びの調査
○男女間のトラブルを少なくする方法	3 男女間のトラブルを少なくするにはどうすればよいか話し合う。 ○相手の立場を理解 ○自分の行動を反省	○視野は広まり，考えることも大人へ近づいているのだから相手の立場を理解し，利己的な行動を反省するよう話をする。	○事例紹介
○自分を高める努力	4 自分の考え，行動をいっそう高めることについて話し合う。	○心もからだも大人へ近づいているのであり，男女，それぞれ心も変化しているし，お互に理解しあい協力しあって，明るい生活をめざして努力することの大切さを話する。	

- 1 主 題 男女のからだの成長 (からだの成長)
 2 目 標 男女のからだのつくりや成長について理解させ、第二性徴からくる不安を解消させ、情緒の安定を図り、性に対する健全な態度を養う。

3 指導にあたって

(1) 主題設定の理由

高学年になると、からだの変化に関心をもち、疑問や不安をもつようになる。第二性徴を正しく理解させ、男女のからだのつくりの違いや発達の個人差を理解し、大人へ近づく自覚と異性に対する思いやりの心を養う。

(2) 生徒の実態

男 10 名、女 13 名、計 23 名。身体の発育は県平均にくらべて男はプラス、女はマイナス、初潮は 6 名。

(3) 留意事項

男女の性器やそのはたらきが主な指導になるので興味本位に受けとめることのないように雰囲気や反応をみながらすすめる。また、からだの発育には個人差があるので不安や劣等感を与えないよう配慮していきたい。

4 指導過程 (保健)

指導内容	学習活動	指導上の留意点	資料・その他
○男女のからだの外見上のちがいがい	1 男女の体力・体格・体型のちがいについて話し合う。	○資料を手がかりに既習の事柄を復習的にとりあげ、男女のからだのちがいをとらえさせる。	○スポーツテスト表 身長・体重のグラフ
○からだの生理的変化	2 男らしい、女らしいからだの変化について話し合う。 ○第二性徴 ○ホルモンの働き	○外見的な第二性徴は既習のことがらが多いので、なぜその違いが出てくるかに視点を向けていく。 ○性ホルモンのはたらきに気づかせ、そのはたらきが男女によってそれぞれ異なることを理解させる。	○OHP 性ホルモンのはたらきの図
○男女のからだの仕組みとはたらき	3 男子の性器、女子の性器の仕組みとはたらきを比べながら、月経と精通について説明を聞く。 ○月経(メンス・生理) ○初潮 ○卵子(卵巣) ○精通 ○精子(精巣)	○身体各部の名称は正しい用語で正しく使うよう指導する。 ○月経や精通は病気でなく、男女の大切な機能であることを指導する。 ○性器のはたらきは生命誕生と結びつくことを理解させる。	○OHP 初潮・変声のおこる時期のグラフ
○成人への道	4 りっぱな大人になるためには、どんな心構えが必要か話し合う。 ○男女の認めあい ○心豊かな大人へ	○男女のからだの特性を理解し、男は男らしく、女は女らしく成熟し、人間尊重の精神を相互に認めあうことの大切さを話し合わせる。 ○よい父親・母親になるため、知識と共に心豊かな大人になるよう考えさせる。	

5 授業の記録

(1) 男女のからだの外見上のちがいがい(復習)

- T1 スポーツテストやマラソンの記録(グラフ・表)で、どんなことがわかったのでしょうか。
 C1 どっちも男の記録の方がいいです。
 T2 男の方がよいのは、何か女と違うところがあるからでしょうか。
 C2 体力に違いがあるからだだと思います。
 T3 では、身長や体重のグラフからどんなことがいえますか。(クラス全員の身長・体重の棒グラフ)
 C3 身重・体重とも女の方がいいです(T 体格は女の方がよいことを話す。……略)
 T4 では、全国的な平均グラフを見るとどうですか。(10歳~16歳までの身長・体重の折れ線グラフ)
 C4 身重も体重も10歳位まで男子がよく、10歳~13歳位までは女子がよく、14歳位からは男子の方の体格がよくなる。
 T5 こういう発育のしかたを表したグラフを何というのでしょうか。
 C5 発育交差といいます。
 T6 次に、このスライドからどんなことがわかりますか。(幼児・大人の男女のからだの後ろ姿の絵)
 C6 小さい頃は男か女かわからないからだつきで、大人になると顔がみえなくとも後ろからみて男女の区別がつくし、からだつきも変わってくるのです。(T からだつきを体型ともいうことを話す)
 T7 男らしい、女らしいからだつき(体型)とは、どんな感じですか。
 C7 女はやわらかい感じ、男は筋肉がついていて、がっちりした感じ、特に肩の筋肉。
 C8 女のからだつきはまるまるとして、男はがっちりした感じ。
 T8 女はどうして、まるまるとしているかという、皮下脂肪がたくさんあるからですね。
 T9 大人に近づくと、男も女もどんなところが変化してくるでしょう。
 C9 女は胸がふくらみ、乳房がでてきます。 C10 男は筋肉が発達してきます。
 C11 声がわりします。 C12 発毛があります。
 C13 にきびがでてきます。 C14 女は腰のところが細くなって骨盤がでてきます。
 C15 性器がちがう。(性器も発育することを話す)
 T10 このように男は男らしく、女は女らしく発育し、変化してくることを何といたしましたか。
 C16 第二性徴。
 T11 第一性徴はいつをいうかという、あなた方が生まれは時、お医者さんが男か女かという時です。

(2) からだの生理的変化

- T12 これまで、男女のからだのちがいを外側からだけ見てきたけど、からだの中は同じだろうか。
 C17 違うと思う。
 T13 どんなふうに違うか、男と女の大きな違いは?女の人は大人になると赤ちゃんを産む、これが大きな違いですね。この違いを引き起こすのは何かというホルモンの働きなのです。聞いたことありますか。
 C18 (約半数挙手)
 T14 脳の下の方に脳下垂体というのがあります。女は10歳位になると脳から性器に伝わって女性ホルモンを出す。それで女らしいからだになる。男は女より1~2年遅れて脳から命令が出て性器に伝わって男性ホルモンが出る。これがからだに変化を起こすともなるのです。性ホルモンは小さい時は動かないので男女の差がありません。

(3) 男女のからだのしくみと働き (写真、ロダンのアダムとイヴ)

- T15 性器がちがうだけで、男らしいからだ、女らしいからだになるのです。そこで性器のしくみと働きを勉強しましょう。男の性器はからだの外にあるが女の性器はからだの中にある。まず、女の性器から見てみよう(OHP、女性の性器)お医者さんが使っている言葉でいいますからそれで名まえをおぼえてください。

<女性の性器の説明>

- 両側に二つの卵巣……卵をつくる場所
- 卵を卵子という
- 壁の厚いところ……子宮（子供が休む宮殿）
- 赤ちゃんの通り道……膣
- 子宮の中で卵が育つための栄養を含んだ血液でベッドを作る。ベッドができて赤ちゃんが
できないと古いベッドになり、体外へ出る。そして新しいベッドを作る。この変化が月に1回
おこる。これを月経（メンス・生理）という。はじめて月経になったことを初潮という。その
初潮がいつからに現れるかをグラフで示す。（OHP、初潮の起こる時期）

T16 このグラフを見てわかったことは？

C19 12歳あたりが一番多い。

C20 11～12歳にかけて急げきにふえる。

C21 発育交差とも関係あるようで、女の方は10歳位から発育がよくなるので、その頃からメンスになる人が多い。

C22 12～13歳頃に多い。

T17 「わたし12歳だけど、まだならない」と心配する人もいると思うのが心配なくともいいので
す。からだの発育のよい人が割合早くなるし、発育のしかたも一人ひとり違うわけです。

生理になると、このような現象が起きるので、普通の状態とは違い、頭がいたくなったり、腹
がいたくなったりするのです。だから、男の人も理解して、いたわってあげることが大切です。

みなさんも、お母さんのおなかの中で過ごしてきたのですよ。どれ位だと思っ？それは約10
か月です（児童おどろく）生まれてからも、長い間、お母さんの世話になって大きくなっている
のです。

T18 つぎは、男の人のからだを見てみましょう。（OHPで男性性器を示す）

<男性の性器の説明>

- こり丸……精子をつくる場所
- 精子がいっぱいになると小便をするところから出てくる。これを精通現象という。
- 精通現象は月に一回とは決まっていない。この精通現象の時期は、だいたい変声の時期と似
ている。（OHPで変声時期のグラフを示す）

T19 このグラフを見てわかることは？

C23 13歳頃に多い。

C24 10～11歳、16歳は少ないが、12歳頃から多くなる。

C25 発育のグラフから、女より男の方が少し遅れて発育することがわかったが、それと同じように
初潮より1年位おくらせて精通現象がある。

(4) 成人への道

T20 大人、つまり、父の準備、母の準備をする性器を大切にしなければなりません。風呂にはいっ
て清潔にしたり、下着の清潔もだいじですね。

T21 からだの違いをくわしくみてきましたが、からだだけが違うのですか。

C26 考え方も違うと思います。

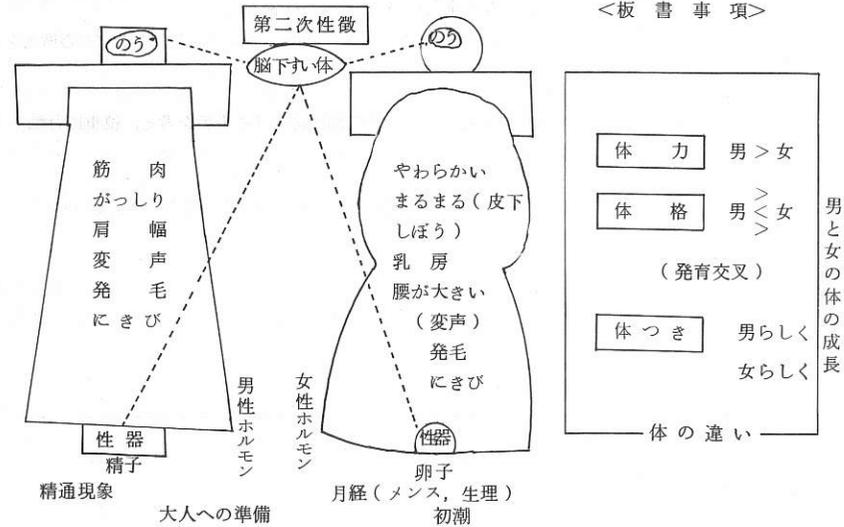
C27 わたしもそう思うし、からだが違うからといってけんかばかりしてないで協力しあわなけれ
ばならないと思います。

T22 両方の考え方の違いを認めあうことが大切です。

T23 では目をつむってください。みなさんはお父さんに似ていますか、お母さんに似ていますか？

C28（挙手）〔父……9人、母……13人、どちらも似ている……1人、似ていない……0人〕

T24 みんなは、親からいろんなものを受けついでいるし、みんなが産んだ子どもにもからだばかり
でなく考え方も受けつがれていくのです。だから、みんなも、これからからだも考え方（心）も
成長していかなければなりませんね。中味まで受けつぐのですから親になるかまえがだいじな
のです。



(5) 児童の感想

- A 男性ホルモンとか女性ホルモンというのは、どういものかわからない。
- B 女子が男子より発育がよくなる時期があることなど発育交差のことがためになった。
- C 性器のしくみや精子と卵子、月経のおこるわけなどわかった。女子のからだにそんなことがおこるとは知らなかったし、いたわってあげることが大切だと思っ。
- D 脳下垂体から性器に命令することを聞いたが、どこを伝わって命令し、どのようにしてホルモンがでるのかももっとくわしく教えてもらいたかった。
- E 成長に個人差のあることはわかったが、からだは平均より小さいので、どうすれば大きくなるかの話もききたかった。

(6) 考察

「からだの成長」については、2年を除き各学年で扱っているが、5年までの内容を理解した上での6年の学習であり、復習をいれたことは学習内容を系統づける意味で効果があった。

6年の指導内容としては、中学との関連において、どの程度まで指導するかが問題になるが精通現象や月経のあるしくみまで扱うことにした。児童の発育の実態から、学習内容はむずかしいし、早すぎるとも思ったが、まじめに学習したし、男女とも「からだの内部でそういうことが起こるとは知らなかった」といい、女子へのいたわりの気持ちがみられたことも学習効果といえる。

ただ、「性ホルモン」とか「脳下垂体」ということばが何となくわかったものの、その機能が充分理解できず「もっとくわしく知れたかった」といっている。しかし、中学で扱う内容であり、6年生には、この程度の扱いでよいのではないかと思う。

6年だけの内容を見ると、「寝ている子を起こすよだ」と、いえないこともないが、一般に子どもはすでに目ざめており、正しい知識を教え、男女の相互理解、協力的な態度を育てることが必要であり、学年の段階をふんで導いていくことが大切である。

- 1 主 題 性被害の防止（社会への適応）
 2 目 標 性被害の実態を把握させ、誘惑にまけず被害を防止する心構えを養う。
 3 指導にあたって

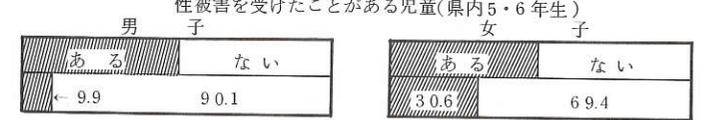
- (1) 主題設定の理由
 小学生の性被害は増加の傾向にあるので、この時期に防止する方策を考え、慎重に行動しようとする心がけを養うことが大切である。
 (2) 生徒の実態
 男21名、女18名、計39名。男子は一般に幼稚、女子はかなり発育し性に関心があっても表面には出さない。
 (3) 留意事項
 被害は女子に多いが女子中心の防止策だけでなく、加害者にならないように自覚を促す指導も大切にして。また男女それぞれ、あまゝ誘惑にまけないという、しっかりした態度と判断力を養うようにしたい。

4 指導内容（学級指導）

指導内容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資料・その他
○性被害の意味	1 性被害のこぼの意味を聞く。	○被害、性被害、誘惑… というこぼの意味をわかりやすく説明して、本時のめあてをはっきりつかませる。	○OHP 被害の実態・被害の種類と割合を調べた表(グラフ)
○誘惑や被害の事例	2 小学生がどんな誘惑や被害を受けている知っている事例を出しあう。 ○性被害や誘惑された事例を聞く。	○自分たちが知っていたり、新聞やテレビで知った事例もできるだけ多く出させたい。 ○児童が気づいていない、知らない事例も出し、被害の実態をあからさまにする。	
○被害を受けた場合のようす	3 どんなとき、どのようにして被害がおきているか話し合う。 ○時期、時間 ○場所 ○被害者、加害者	○どういう状態で被害がおきているか特に小学生が注意すべき点を中心にとりあげる。	
○被害の防止法	4 被害を受けないようにするにはどうすればよいか考える。	○できるだけ児童の考えを出させるようにし、気づかない点は補足していく。	
○加害者にならないために	5 加害者に対してどう思うか考えを出しあう。	○いくつかの被害事例から加害者をどう思うかについて話し合わせ、加害者の性格や態度について話す。	
○安全なくらし	6 本時についてまとめ、安全なくらしについて話し合う。	○誘惑にまけず、被害・加害のない安全なくらしへの自覚をうながす。	

5. 授業の記録

- (1) 性被害の意味
 T1 今日「性被害と防止」について勉強します。「防止」というのはわかりますね。「性被害」というのはわかりますか。(性被害の意味を事例によって説明し理解をはかる)
 (2) 誘惑や被害の事例
 T2 では、今まで聞いたことでもいいですから、害をうけたり、誘惑(さそわれること)されたという例を知りませんか、新聞やテレビなどで知ったことでもいいです。(反応ない)
 それでは、グループごとに話し合ってください。
 C1 はっきりわかりませんが、幼稚園の女の子が男の人に誘われたのか、どこかへ連れていかれて、しまいには殺されたということを知ったことがあります。
 T3 そういう被害を受けたのを調べたグラフがあります。みてください。(OHPで示す)
 性被害を受けたことがある児童(県内5・6年生)



- T4 このグラフを見て、どんなことが考えられますか(男9.9%、女30.6%被害を受けているのです。)
 C2 5.6年生でこんなに被害を受けているというのは知りませんでした。
 C3 私もびっくりしました。
 T5 では、私たちの学校でこういう被害(いたずら)をうけたということはありませんか。
 C4 聞いたことがありません。
 T6 ここに、どんな被害(いたずら)を受けたのかを調べたのがあるので見てみよう。

小学生が受けた性被害(県内5・6年生) (OHPで示す)

被害内容	男子		女子						
	20	10	10	20	30	40	50	60	70
1 手をにぎられた	5.4		6.3						
2 胸をさわられた	10.7							51.7	
3 おしりをさわられた	5.4							44.9	
4 抱きつかれた	1.5		7.3						
5 キスをされた	1.0		2.0						
6 性器をさわられた	3.9		4.4						

- T7 これを見てどんなことがいえますか、感じたことなどありませんか。
 C5 私はおどろきました。男の人より女の人が被害にあうのが多いということがわかります。
 C6 女の人だけでなく、男の人だって被害を受けることがわかります。
 T8 ここに、6年生だけを調べたのがあります。みてください。(OHPで示す)

6年生の性被害の内容

被害内容	男子					女子				
	50	40	30	20	10	10	20	30	40	50
手をにぎられた				14.3		1.6				
おしりをさわられた				21.4		36.0				
むねをさわられた				28.6		49.6				

- T9 この表を見て感ずるのはどんなことですか。
 C7 男も女も、だいたい同じような被害が多いということです。

C8 6年生だけでこれだけいるのですから、小学校全体ではもっと多いのではないかと思います。

(3) 被害を受けた場合のようす

T10 どんな場合に被害を受けやすいか考えてみよう。

C9 人通りの少ないところとか、ものすごくこみあっているところなどだと思います。

T11 人通りが少ないと、なぜおこりやすいのだろうか、みんなはおこりやすいと思いますか？

C10 (全員拳手)

T12 では、時間はどうだろう。

C11 夕方や暗くなったところおこりやすいと思います。

(4) 被害の防止方法

T13 このような被害を防ぐにはどうしたらよいか考えてみましょう。

C12 暗くなったら1人歩きをしない方がよい、それから知らない人にはついていけない方がよいと思います。

T14 ことばづかいなどはどうでしょう。

C13 まじめに話します。あまい言葉などにのらないようにします。

T15 服装はどうでしょうか。

C14 はでにならないようにすること。きちんとした服装がいいと思います。

(5) 加害者にならないために

T16 つぎに被害を受けるということは、だれかがするということですね。これを見てください。



C15 同級生でも、そういうことをする人がいるので気をつけなければならないと思います。

T17 なぜ、そういうことをしていけないのかな。

C16 被害を受けた人はいやな思いをするし、傷がついてしまうからです。

(6) 安全な暮らし

T みなさんは、あと8年もすると成人になります。そして立派な大人になるのです。男の人はお父さんに、女の人はお母さんになります。立派なお父さんお母さんになるからだなのだから、みんなだいにしなければなりません。

6 児童の感想

A 被害にあったとき、どうすればよいのか、くわしく教えてもらいたい。

B 加害者は小学生の低学年にもいるし、大人だから、子どもだからと区別できない。

7 考察

調査によると、子どもたちもいろんな被害を受けている。しかし、実際は、それらを自分たちの問題として捉えていないのが実状である。単に子ども同士のいたずらとかたづけておけば、やがて大きな問題として発展する恐れがある。被害を防止することはだいたいなことであるが、同時に一人ひとりが加害者にならないという自覚をもたせることはとくに大切である。この点充分理解できたかどうか具体的な事例を出しにくいだけにむずかしい。

また、被害を受けた場合、子どもたちは「傷がつく」と答えているが、この点も具体的にどう傷つくのか、みんなにわかったのかどうかである。6年生のからだは大人に近づいている。性被害の指導は必要であるが、やはり身近かな、子ども同士の事例があれば効果的であったと思う。

VI 中学校の展開例

1 中学校の指導目標

- 1 人間の成長発達段階を理解させ、健全な心身を培う能力と態度を養う。
- 2 生命の誕生とその尊さを理解させる。
- 3 人間としての自覚と誇りを認識させ、いかなる誘惑にも負けない強固な意志と正しい判断力を養う。
- 4 男女の特性と人間としての平等性を認識させ、相互敬愛と協力的態度を養う。

2 指導にあたって

- 1 前記の中学校目標を達成するために必要と思われる指導内容を、「生活習慣」「生命の尊厳」「身体の成長」「心の変化」「男女の協力」「社会への適応」の項目の中から、18の展開例をまとめて集録してある。その中の三つは授業実践例である。「生活習慣」については、どの学校でも年度初めに指導しているのでは本誌からは割愛した。
- 2 学年ごとの展開例の指導時期については、各校の実状に応じて適宜考えていただくこととし、特定の項目だけを特定の時期に集中させないで、それらをバランスをとりながら指導することが望ましい。
- 3 どの領域で指導するかについては、各学校の事情によるので一概には言えないが、一応の目安として指導内容にふさわしい領域として、次ページに記載してあるように考えた。略称は次のとおりである。
保…保健体育 学指…学級指導 道…道徳 社…社会学
理…理科 家…家庭 国…国語

4 展開例の指導領域は、学級指導、道徳が比較的多くなっているが、これらの指導には次の点に留意されたい。

- (1) 生徒の自発的な活動を助長するようにつとめ、教師の一方的な押しつけを排し、内面的な指導に心がけ生徒とともに人生を追求する態度を堅持する。あることがらについての防止や禁止を直接に呼びかけたり、当為だけを訴えるような「説教」に終わったりするようでは、かえって生徒の反発を招き期待される効果は望めないからである。
 - (2) 生徒一人ひとりの性向や能力・友人関係・家庭事情について正しく理解し、あくまでも共感的態度で接して、生徒自ら考えさせる指導でありたい。この意味で学級担任が指導者として望ましい。
- 5 教師は深い愛情をもって公平に生徒に接し熱心な態度で指導にあたり、生徒の不安や悩みに答えられるような信頼される教師となることが大切である。
- 6 補助教材としては客観的に取り扱える視聴覚教材を多く取り入れることが望ましい。とくに生理的な面などについて説明するのに、言語表現がむづかしく、しばしば不安や迷いなどが生じやすい。この問題を打開し、スムーズに授業を進め、効果をあげるためには、次のような視聴覚教材は欠かせないと思われる。
- (1) スライド・解説吹込テープ・生徒吹込テープ・教師吹込テープ
これらを利用する場合には、タイミングを工夫することが大切である。一通り見せたり、聞かせたりしたから指導できたと考えられない場合があり、とくに補足説明に利用する場合等は一時停止して更に説明を加えるなどが望ましい。
 - (2) 掲示物 …… アンケート調査結果の集計・統計表・図解
 - (3) 読物・プリントなど
適当と判断される生徒の作文・論説文・文学作品等を用意して、具体的に身近かなものを教材化する。
- 7 性についての知識を与えるだけが、性教育の目的でなく、人格教育そのものであることを常に念頭に置いて指導にあたるのが大切である。それには綿密な計画のもとに、教師相互の連絡を強化し共通理解の上に立って、同一態度での指導が望まれる。

3 指導内容

学年 項目	1 年	2 年	3 年
生活習慣	※ きまりよい日常生活	※ 健康な生活設計	※ 最高学年の心構えと態度
生命の尊厳	① 人命の尊重	② 生命の連続性と尊厳	③ 伝染病の予防
身体の成長	④ 大人に近づく私たち	⑤ 心身の発達にともなう悩みと不安	⑥ 受精と遺伝
心の変化	⑦ からだと心	⑧ 異性への関心	⑨ 人間らしさ ⑩ 欲求と行動
男女の協力	⑪ 男女の理解と協力	⑫ 男女の特性と役割 ⑬ 異性との交際	⑭ 男女交際
社会への適応	⑮ 父母とわたくしたち	⑯ 性被害の防止と情報の選択	⑰ 性病の予防 ⑱ 結婚の意義

- 凡例
- ：授業実践例を示してある指導内容
 - ：指導展開例を示してある指導内容
 - ※：各校の実状に合わせて展開する指導内容

1 主 題 人命の尊重（生命の尊厳）

2 指導領域 道徳（学級指導）

3 指導のねらい

かけがえない一人ひとりの人命を大切にするとともに、一人は万人のために万人は一人のためにという社会連帯の中に自分を正しく位置づける態度を養う。

4 指導過程

指導内容	学習活動	指導上の留意点	資料・その他
○健康の増進	1 健康な生活を送る条件をみんなで話し合う。 ○きまりのある生活 ○スポーツの励行 ○節制 ○睡眠 ○清潔なからだ	○意識的に増進につとめている具体例があれば発表させる。 ○達成可能な生活日課表を作成させる。 ○部・クラブ活動への積極的参加をよびかける。 ○暴飲暴食による失敗例を出させて注意を喚起する。 ○疲れをとる最大の休養は睡眠であることを指摘する。 ○からだの清潔に心がけさせる。	
○心の健康	2 何人かの作文（アンケート）を読みあげて整理する。 ○正直 ○思いやり ○謙虚さ	○(1)相手をおこらせた失敗例 ○(2)相手に感謝された例 ○(3)相手を不快に感じた例の3つの項目について単文をまとめておく。 ○心にわだかまり、邪念やしつとなどがあると、心が落ちつかなかった具体例があれば発表させる。	○生徒作文（アンケート）
○からだの安全	3 生命にかかわる危険の防止について話し合う。 ○交通安全 ○劇・毒・麻薬 ○冒険（無鉄砲）	○具体的に気づかせ話し合いを活発化させる。 ○交通ルールのじゅん守をよびかける。 ○無免許運転等の防止 ○暴走族・植物人間にもふれる。 ○シンナー遊び等の危険性にふれる。	
○かけがえない命	4 少年の自殺・心中等についての話を聞いて、人命の大切さを自覚する。	○少年の自殺の原因等について説明する。 ○不安や悩みがあれば、常に信頼できる人に相談するよう指導する。 ○「健全な精神は健全な肉体に宿る」という西洋の古諺にもふれる。	

1 主 題 大人に近づく私たち(身体の成長)

2 指導領域 保健体育

3 指導のねらい

思春期における身体的変化を知り、こどもからおとなへの過渡期にあることを気づかせ、心身の鍛錬、明るい生活への将来の基礎をつくる意欲を育てる。

4 指導過程

指導内容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資料・その他
○からだの発育	1 中学生になって身体にどんな変化がおきたかを発表する。 ○身体検査の統計表を見て急激な発育状態を知る。 ・身長 ・体重 ・胸囲	○健康診断の統計資料によって、身体が急速に発達したことを知らせる。 ○第二次性徴により、おとなの身体に近づいてきたことを知らせる。 ○中学生の時期は、おとなへの過渡期にあたることを理解させる。 ○無理な発育の抑制・促進をさけるようにさせる。	○保健統計 ○ホルモンの分泌腺の図解 ○男女の掛図(美術)
○第二次性徴による身体的特徴	2 思春期の肉体的特徴について理解する。 ○骨格・体格・筋肉・ニキビ ○皮下脂肪・初潮・夢精 ○変声・体毛・乳房	○発育差に配慮する。 ○しゅう恥心をもたせない。 ○不潔感やひやかしの感情が起こらないように配慮する。	
○男らしさと女らしさ	3 思春期の精神的特徴について理解する。 ○男子-大胆・勇敢・果敢 ○女子-感傷的・忍耐強い・従順・小心 母性感情	○心とからだのアンバランスに気づかせる。 ○からだや心の変化はおとなへの準備であることを知らせる。	
○ホルモンの働き	4 成長の原動力は、ホルモンによることを理解する。 ○男性ホルモン ○女性ホルモン	○あまり深入りしないで、成長に関係のあるのは、内分泌腺であることを強調する。	
○心身の鍛錬	5 立派なおとなになるために不足しているものを話し合う。 ○学 習 ○スポーツ ○余暇の善用	○立派なおとなになるための準備として、中学生時代の自己を大切にさせる。 ○暴力否定の態度を身につけさせる。	

1 主 題 からだと心(心の変化)

2 指導領域 学級指導

3 指導のねらい

心理的離乳期にあたる中学生のからだと心のアンバランスからくる不安や不満を除き、常に清らかな心と清潔なからだを保てるように指導する。

4 指導過程

指導内容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資料・その他
○清潔なからだと心のきれいな人	1 清潔なからだと精神について話し合う。 ○自分の家・部屋 ○頭髪・顔・手足・爪 ○衣服・からだのよごれ ○清潔と華美 ○心の清い人	○清潔にしておかなければ気持ちが悪くという意識をもたせる。 ○からだの内からのよごれは、生理的なもので正常な発達の過程であることを理解させる。 ○きれいなからだや身なりは、きれいな心をつくるのに大切な要素となっていることに気づかせたい。	○作文「このごろの私」
○からだの成長	2 からだの成長について話し合う ○身長・体重・胸囲 ○変声・骨格・体毛・ニキビ・乳房など	○統計資料を見せながら、からだの発達状態ともなる変声、発毛などについて話す。 ○個人差に留意する。	○OHP(発育統計)
○心の発達(思春期の心理)	3 2・3人の生徒の作文発表をもとに、心の発達について話し合う。 ○心の発達の特色 ・他人を意識する ・鋭い感情 ・悩み・不安 ○行動面の変化 ・異性発発 ・粗暴 ・反抗 ・あこがれ ・英雄(スター)崇拜	○作文の内容を項目ごとに整理しておく。 ○異性発発やおしゃれ等については、異性への芽ばえであることを知らせる。 ○粗暴や反抗を正当化しないよう配慮する。 ○「性欲求の発生」「理想主義的考え方」「現実を見通し得る知恵」これらがぶつかり合って調和できない悩みが、思春期の心理的特徴で、おとなへの成長過程でだれでも通過することを理解させる。 ○男女差について偏ったみかたをしないようにする。	
○清らかな心の保持	4 心を清らかにする努力について話し合う。 ○交友関係・家族関係 ○マスコミに対する正しい判断力 ○芸術・スポーツ・読書	○調和のとれた人間になることの大切さを強調する。 ○おたがいに、正しく清らかな心で接することを指導する。 ○「作文」は、事後指導にも活用していきたい。	

- 1 主 題 男女の理解と協力(男女の協力)
 2 目 標 男女がたがいにその特性や立場を理解し、協力し合ってよりよい人間関係をつくらうとする態度を育てる。
 3 指導にあたって

(1) 主題設定の理由
 学級生活における男女の協力や異性ととの交際のあり方などについて考えさせ、明るく健全な集団生活を築かせる。

(2) 生徒の実態 男子20名、女子20名、男子は活動的、女子は温和である。

(3) 留意事項

中学生のこの時代は、青年期の一時期としての特徴(異性への関心、異性反発など)が如実に表れて、男女の仲がうまくいかない場合が多いが、決して強制や叱る方向での指導でなく、このような行為を成長の一過程としてとらえ、それぞれの特性を正しく理解させ、男女の協力を高める方向で指導したい。

4 指導過程(学級指導)

指導内容	学習活動	指導上の留意点	資料・その他
○男女共学のはじまり	1 わが国における「男女共学」のはじまりについて先生の話をおきく。 ○戦前と戦後のちがいを。	○男女共学への歩みをとおり、男女の相互理解と協力の重要さに気づかせ効果的に授業が展開できるようにする。	OHP
○男女の意識のちがいを	2 学級の男女間の実態についてみんなで話し合う。 ○協力し合っている点 ○対立している点 ○「女子から男子に望むこと」「男子から女子に望むこと」についてみんなで話し合う。	○日常生活における具体的事例を発表する。 ○具体的な生徒の発言から少しずつ深まっていくように導いていく。 ○批判に終始しないように配慮する。	
○男女の特性の理解	3 調査資料「望ましい男性像」「望ましい女性像」について発表し合う。 ○男女の特性をまとめる。 ・身体的 精神的特性	○男子と女子は同じでないことに着眼させる。	OHP (男性像と女性像)
○男女の協力	4 一人ひとりがどんな点に注意して学校生活を送ったらよいかをみんなで話し合う。 ○男女の協力についての反省 ○男女の協力し合う気持ちや態度の確立	○これまでの話し合いが、充分生かされるように資料を提示する。 ○男女の特性を正しくとらえさせたい	OHP (身体的特性) OHP (精神的特性)
	5 一人ひとりがどんな点に注意して家庭生活や社会生活を送ったらよいかをみんなで話し合う。 ○男女が協力し合う態度 ○美しい人間関係と明るい社会づくり	○これまでの自分の行動を素直に反省させ、おたがいに協力すればもっと明るい学校生活を送ることができることに気づかせる。 ○真の協力は、男女がそれぞれの特性を認め合い、補い合う思いやりの心と責任感から生まれることを家庭生活、社会生活の実態から理解させ、実践する態度を育てる。	

5 授業の記録

(1) 男女共学のはじまり

- T1 いままで10年以上も教師をしてみても、このクラスは一番か二番男女の仲がよいクラスだと思っているが現在と小学校時代と比べてどうでしたか。(指名)
 P1 小学校6年生のときが最高でした。
 P2 6年生のときはさわがしかったが、いまとあまり変わりありませんでした。
 P3 私たちのクラスはまとまっていて協力し合っていました。
 T2 父母たちの時代の男女共学はどうでしたか。話を聞いたことがありますか?
 T3 親の年令が40才代の人は? 50才代の人は?(それぞれに挙手)
 (男女共学についての教師の経験を紹介する。)
 T4 男女共学がよいか、それとも男は男だけの、女は女だけのクラスがよいかどうか。(指名)
 P4 僕にとっては男だけのクラスがよい。
 T5 いまのような形で勉強できるようになったのは、いつ頃からだと思いますか?(指名)
 P5 たぶん第二次大戦が終わったあたりからだと思います。
 T6 いまから何年ぐらい前になるかなあ。
 P6 (複数) いまから30年前。
 T7 昭和22年頃から男と女が勉強できるようになったが、一緒にした方がよいのかみなさんはどう考える。
 P7 僕は男だけや女だけのクラスの経験がないので分かりません。
 T8 別にしては体育とか技術と家庭だ。それは体力的な面でちがうとか、勉強の内容がちがうからで英語や数学とかはみんな一緒でしょう。共学ができたというのは、なぜかという男と女が平等だからである。平等といっても何から何まで全部同じという訳ではなく、本質的に大事なことで平等ということだ。

(2) 男女の意識のちがいを

- T9 自分たちの学級をみてみよう。男女お互いに協力しているかどうか考えてみよう。(挙手)
 P8 掃除の時間なんかあまり協力的でない。
 T10 みんなは認めるか?
 P9 (複数) 認める。
 T11 P10を指名
 P10 P8と同じです。(挙手)
 P11 給食のあとしまつとか、準備なんかでは意外と協力しています。
 T12 遊びの時などは?
 P12 (半数) 全然
 P13 (若干) バレーの時など一緒にする。サッカーはしない。
 T13 昨日やった大掃除の場合などはどうですか。(指名)
 P14 力仕事の時はやっぱり男の人がしているようですが、日課表を書くのは男の人も女の人も協力していると思います。
 T14 全体的にみた男と女はわがクラスでは協力しているといつてよいか。
 P (大部分) いる。
 T15 いないと思う人?
 P15 (2名挙手) T(P16を指名)
 P16 清掃の時などはそういないが、自分たちがやってもやらなくとも、ほかの人がやってくれるという場合は協力しないような気がします。

板書事項
 男女の理解と協力
 男女協力
 1 協力している点
 給食
 2 対立している点
 掃除の時
 男子の特性
 女子の特性

- T16 男の方から女にこういうことをして欲しいとか、女の方から男にこういうことをしてくれれば協力し合えるのではないかというようなものがあつたら出してくれ。
 T17 それではいまのままで満足しているのか。(3名に指名 P満足している。)
 T18 (指導者の家庭の例を出して)男女相互に要望はないか。男が女に対して望むことや、女が男に対して望むことを互にやれば世の中はすばらしくうまくいくのではないだろうか。

(3) 男女の特性の理解

- T19 (男女相互に求めるものについてのクラスのアンケート結果をOHPで示して説明し)感想は？(指名)
 P17 男の人はやっぱり勇気、女の人はやさしさで自分の考えたとおりです。
 T20 (肺活量・皮下脂肪・赤血球・筋肉量の男女の比較グラフをOHPで示して説明)
 T21 肺活量とは何だか知っているか。(指名)
 P18 (答える) T (正しく説明する)
 T22 (肺活量の男女差のグラフを示しながら)これからみても男と女がマラソンを同じ距離を走れない理由がわかるだろう。身体だけでなく、気持ちの違いは何かないか。(指名)
 P19 女子の方が恥ずかしがったりして、男の方がやれといわれればさっさとやる。
 T23 問題解決力は男の方がすぐれている。数学の問題なんか理路整然と解く方は、女の人に悪いが男の方が少しすぐれている。数学の勉強で男ができないというのはおかしい。みんなどうだ。
 T24 女の方は夢が多くロマンチックである。男は気が短く、女の方は男に依存する心が強い。しかしこれはどちらかと言えば絶対という訳ではない。何か違うと思うことないか？(挙手)
 P20 男の方が気が短いということはあると思うが、女でも気が長いとは必ずしも言えないと思う。
 T25 このクラスではどうだ。(指名)
 P21 全部比較した訳ではないが、自分たちの仲間はそんなものでもない。

(4) 男女の協力

- T26 自分たちのいまの学校生活や家庭生活で、男女が一緒に生活して反省しなければならないことは何かないか。とくに家庭ではどうだろうか。父や母の生活についてお互に良いことを認め合って生活しているか？
 P22 (反応なし)
 T27 身体と心では男と女では異なる。学校生活・家庭生活では、これらの違いをお互に認め合わないと対立がおきる。特性を認め合おうとまよくいく。自分の家庭生活で自分を含めて男女の協力がうまよくいっている人？
 P23 (大部分挙手)
 T28 ちょっと考えなければならないという人は？ P (1名挙手) T (指名)
 P24 食事において男に対する女の配慮に欠けるところがある。(笑い)
 T29 男女それぞれの特性を認め合い、大事なところで平等なのだということを家で話し合ってみよう。

6 生徒の感想

- A 校内マラソンで走る距離が男女で違う理由がわかったような気がする。
 B 良いクラスを作るには、やはり男女の特性を生かした協力が本当に大切なことが分った。
 C 戦前までは男女別学であることが分ったが、それが何となく不思議である。

7 考 察

クラスの掃除分担等で男女協力ができない理由の一つには、異性への意識(異性反発)などがあることを発達心理学的立場から具体例で説明する必要がある。また、家庭での男女の役割分担、男女の特性の職種への反映、ひいては社会で果す男女の役割に目を開く具体的指導もあればよかったと思う。

- 1 主 題 父母とわたくしたち(社会への適応)
 2 目 標 父母に対する理解を深め、尊敬と愛情を養い、家庭における自己の立場を自覚し、好ましい親子関係を育てていく態度を養う。

3 指導にあたって

- (1) 主題設定の理由
 中学1年になると、日常生活のなかで親に対した家庭に対しいろいろな不満や反感を持ち、親子関係がやや固苦しくなる。そこで、親子関係のあり方を考えさせ、楽しい家庭を築く態度を育てていきたい。
 (2) 生徒の実態
 男子 20名、女子 17名、(父親のないもの 1名)
 (3) 留意事項
 家庭は人間生活のもっとも基本的な集団であり、社会を構成する土台である。かたい信頼によって結ばれ、あたたかい愛情に満ちた家庭の一員としての自分の役割を自覚させたい。

4 指導過程(道徳)

指導内容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資料・その他
○父母の愛情と反抗期	1 父母のことばに素直に従えなかった事例について話し合う ○原因 ○そのときの状態	○生徒作文の事例を準備して、話し合いが表面的にならないようにする。	○生徒作文 ○「母とぼく」
	2 資料を読み作者の心の動きについて話し合う。 ○母の言動とそれに対する作者の心の動き ○作者に共感する部分	○資料が長文なので、生徒に事前に読んでくるように指示しておく。 ○特に「なんとなく反抗してしまふ。」ということのうらを感じとらせる。 ○同質・異質のものをとり上げ、授業を深化させる。	第1学年 (文部省資料) 第2集
○父母の言動への共感的理解	3 母の言動について考える。 ○母の作者に対する気持ち ○母の言動の原因	○母の作者に対する気持ちは、強い愛情であることをつかませる。 ○作者の心を刺激した母の言動を明確にする。	
○家庭における自分の立場と役割の自覚	4 家庭における自分の立場から考える。(問答) ○家庭を暗くしているもの ○作者の心を救ってくれたもの ○家庭の明暗と生徒自身の言動	○作者の思いやりのなさが楽しい家庭を暗くしてしまったことに気づかせる。 ○母のちょっとしたことばが作者の心を明るくしたことに気づかせる。	
	5 家族それぞれの立場と明るい家庭生活の在り方について整理する。(話し合い)	○指導者の一方的押しつけでなく、生徒とともにまとめていくようにしたい。	

5 授業の記録

(1) 父母の愛情と反抗期

- T1 お父さんやお母さんあるいは家族の人とけんかをしたとか、反抗したことなどがあれば作文に書いてくるようにしたら、ほとんどの人が書いてくれました。代表の2~3人に読んでもらいましょう。書いた本人だと都合が悪いので、別の人に読んでもらいましょう。(指名)
- P1 この前の日曜日、テレビを見てから勉強をやろうと思っていたら、母から「計画も立てずに何しているの。お母さんを見てみろ、掃除も洗濯もしてからテレビを見るんだ」と言われた。ぼくも勉強する気持になっていたのに、こんなことを言われてやる気を無くし自分の部屋へ戻るなり、思いきり戸を締めて「馬鹿」と言ってマンガを読んだ…。
- P2 「明朝は6時半までご飯を作って」と言っていたのに、約束の時間に台所に行っても全然できていなくて他の仕事をしていた。「早く早く」と催促すると、母は「そんなに急がなくてよい」と言った。ぼくは「駄目だ駄目だ」と大声で叫ぶと「母は何のためだ」と聞き返した。「クラブ活動」とだけ言って6時40分頃家を出た。途中時間におくれなかと不安でたまらなかつたが、丁度間に合ってほっとした。早朝から母へ対して大声をはりあげたりあわてて飛び出したりしたが、本当はもう少し早く起きて自分も母へ手伝えよかつたと思いました。
- P3 なにげなしにチラシ広告を見ていると自分の好きなおもちゃがあつた。中学生にもなつておもちゃなんていうけれど大人の使うテレビゲームなのだ。私は母に向けて「クリスマスプレゼントに買って!」と言つたが、母は「中学生にもなつて、クリスマスプレゼントなんて子どもっぽい」と言つて聞き入れてくれない。私が中学生にもなつて子どもっぽいというのはおかしいが、何でも「中学生になつて」と二言目には口に出す。ほんとうにいやなものです。クリスマスプレゼントから大げんかになつて一日中母と口をきかなかつた。
- T2 こういう経験はみんなもっているな。(3人に確認)なぜお父さんやお母さんに反抗してみたり、言う必要のないことを言つてみるのだろうか。言われたお父さんはどんな気持だろうか。
- T3 先日渡しておいた「母とぼく」という資料を参考にしながら、今日は「父母とわたくし」を勉強してみたいと思います。
- T4 この資料を読んだ人は手を挙げてください。(大部分の生徒挙手)それではここでもう一回静かにして読んでもらいます。その際作者諄君の言つた言葉、とつた行動、それに対するお母さんの気持といったものがたくさん書いてあります。そのへんをもう一度確かめながら下線を引いて読んでください。(全員黙読 10分間)
- T5 さあそれでは読んでの感想を発表してもらおうか。(挙手10数名)
- P4 諄君は悪いと思う。お母さんに「なぜ、お母さんもおあがりなさいといえないの」と聞かれているのに知らないふりをしているのは悪い。でも諄君は二階にあがっていてもラジオを聞いても面白くないのでベッドのなかにもぐると母の顔が映つてしまいどうもうまくいかない。それは多分諄君が母をおそれているからだと思ふ。
- P5 諄君はとてもわがままで思う。反抗期のせいもあるだろうが、お母さんに文句を言つてい争っている。でもそれはだれにでもあつたと思う。この人のいいところは、あとで少し反省しているところがあることです。
- P6 諄君はベッドにもぐると母の顔が映つてしまい早くあやまりたいと思つているように思う。僕は諄君の母にあやまる方法を考えた。
- P7 心に思つていることを母に打ち明けようと思つますが、私だったら全部を父母に打ち明けられない。
- P8 僕も兄弟けんかから始まつて最後に母とけんかになる。あとになつて、なんであんなになつたのかと反省して母にあやまる方がよいと思ふと心苦しくなる。でもそれ以上に母も苦しいのだと思ふ。

- T6 先生も読んで諄君から教えられることがあるし、同じだと思つたりもする。諄君がお母さんに反発したところがあるように思うがどこかな。見つけた人?
- P9 はじめに「お母さんいつものようにつづいてくればよいのに」とあつて、その後で「意地でも黙つてこのスイカを平らげなければならぬ」とあるのが反発しているところ。
- P10 『おふろに行つてきなさい—洗濯することを考えてごらん』と言われると返事ができない。
- P11 「ぼくのほうなど目もくれずせせとアイロンの手を動かしている」それが意地悪く見える。
- P12 「ええい、食べてしまえと思つてまたスプーンを動かしてはじめて」というところ。
- P13 「『シャツとパンツを取り返さなさい』と言われたがよごれたのはわかるが、こじきだとはおおげさだと反発し、こんな時は必ず『あすでいい』とつづいてとりかえようと思ふ」というところ。
- (2) 母の主張への共感的理解
- T7 これまで指摘してくれたように、なぜ諄君がお母さんに反抗するようなことを言つたのか。その原因は?自分のお母さんとよく比べて考えて見て。なぜ諄君が反発したのか。(挙手)
- P14 僕の場合は、何べんも同じことを繰り返して言われると一回でわかるのにと反発する。
- P15 母に頼んでいたことをやつてもらえず、自分がかまつてもらえないとき—。
- T8 自分のことだけでなく、諄君の立場から考えて言つてもらえる人は?(挙手)
- P16 わたくしたちは反抗する年頃であるから、ちょっとしたことで大げさに考えてしまう。
- P17 母から何か言われると自分は「はい」などと言うと心の中で気持悪く反抗の原因となる。
- T9 お母さんやお父さんなどの言葉や動作が反発の原因なのか。自分は悪くないのか。どうだろう?
- T10 それでは作者の気持に賛成人は?(17人挙手)。お母さんの気持に賛成人は(18人挙手)
- P18 作者は母に不満をいっているのだから、作者に賛成する。
- P19 中学生にもなつているのにパンツやシャツを取り替えるなどと母がかまひ過ぎるので作者に味方する。
- P20 いや、お母さんにもおあがりなさいと、はっきり言えない諄君が悪い。
- (3) 家庭における自分の立場と役割の自覚
- T11 お母さんの気持もわかるし諄君の方がいいと思ふ人もある。諄君はお母さんを大好きだし、尊敬もしている。それでも反抗したくなる。どうしてだろう?
- P21 お母さんは作者の気持を考え、作者もお母さんの気持を考えたい。
- P22 両方で反省ばかりしていないで、直接言えよ。そして素直になればよい。
- P23 お互にずばり言い合うのもいいが、相手の方に尽すという心構えが大切だと思います。
- T12 なぜお父さんお母さんがみんなに注意するのか、それを逆に聞くということも大切だと思う。また、父母から「勉強しろ」「テレビを見ないで手伝いしろ」と言われたら、「ありがとう」と言つたらお母さんはどうなるだろうか。今日は作者とお母さんの間のいろいろな出来事を中心に勉強したが終りにします。

6 生徒の感想

- A どこの家でも親と子の対立などあることがわかつて安心した。こんど対立したら今日の解決案を実行したい。
- B ぼくたちと母がうまくいくには、相互理解、思いやり、愛情などが必要であることがわかつた。
- C 反抗をどう解決したらよいのか分らない。父母とやり合うとき父母の気持はどうなるんだろう。

7 考察

微妙な母と子の心の動きを正確に把握するには、「資料」が長文すぎたきらいがないでもない。しかし、資料を中心にして、生徒同士が活発にいろいろな意見がかわされる過程で母と子に対する共感的理解が大いに深められたのではないかと思ふ。欲を言えば、せつかく生徒から提出された具体的な家庭の事例を授業展開の中に有機的に取り入れられればよかつた。母の言動を反抗の対象としてでなく、愛情の発露と理解する指導が大切であらう。

- 1 主 題 生命の連続性と尊厳（生命の尊厳）
- 2 指導領域 理科
- 3 指導の観点 生命誕生のしくみを知らせ、生命の尊重と人間平等の精神を培うとともに、人間は文化を創造しこれを後世に伝える点で、他の動物と根本的に異なることを理解させる。

4 指導過程

指導内容	学習活動	指導上の留意点	資料・その他
○植物のふえ方	1 種子植物のふえ方を知る。 ○種子 — 花粉, 卵細胞 ○めしべ ○おしべ ○花粉管 ○受精 ○胚	○卵細胞は、めしべの根もとの子房にある胚珠に含まれていることを図によって説明する。 ○受精した卵細胞は、分裂をくり返して成長することを理解させる。 ○胚も細胞のかたまりであることを理解させる。	○スライド ○OHPなどを使用する。
○動物のふえ方	2 単細胞動物と多細胞動物のちがいを知る。 ○精巢 — 精子 ○卵巣 — 卵子 ○受精 ・体外受精→両せい類 魚類 ・体内受精→は虫類, 鳥類, は乳類 ○受精卵 ・は虫卵, 鳥類 — 卵 (から) ・は乳類 — 雌の体内	○動物の種類によって卵子や精子の形状や大きさが違うことをスライドなどで説明する。 ○多細胞動物には、雄と雌の区別のあるものが多いことを理解させる。 ○多細胞動物では雌雄から一つの細胞が合体して新しい個体が生ずることを理解させる。 ○自然界の神秘に畏敬の念を持たせる。 ○身近な具体例で説明する。 (はや, 鮎, にわとり, 家畜など)	
○ヒトと他の動物の生殖のちがいを	3 異同点について、自由に考え、みんなで話し合う。 ○養育期間 ○胎内 ○出生数	○外面的に数字で表現できるもの以外に、成長、成熟期間が長期にわたることに気づかせる。 ○人間は文化を創造し、これを後世に伝えることで、他の動物と根本的に異なることに気づかせる。 (言語, 宗教, 法律, 社会制度など)	○資料 Ⅷ 8 P 75 参照

- 1 主 題 心身の発達にともなう悩みと不安（身体の成長）
- 2 目 標 人間の成長発達段階を理解させ、健全な心身を培う態度を養う。
- 3 指導にあたって

(1) 主題設定の理由

中学生時代は、性に関する悩みや不安を持つものが多い。これらの悩みや不安は、成長期特有のものや成熟のわりに無知によるものが多い。そこで身体の機能や構造の基本的な知識を与えて悩みや不安の軽減や解消をはかる。

(2) 生徒の実態

女子のみ。小学生のとき、生理の手当等の指導を受けただけの生徒であり、悩みというより無知による不安を持っている生徒が多い。

(3) 留意事項

- 1 身体的な悩みとか不安は、人前に公表したがるので、個人名を出さないで指導する。
- 2 発育については個人差があることを充分注意する。
- 3 感想文を書かせ、継続して指導する資料とする。

4 指導過程（保健体育）

指導内容	学習活動	指導上の留意点	資料・その他
○思春期にある自分	1 「おとな」と「こども」とそれぞれに考える立場からの話し合い。	○おとなとこどもの中間にあることを理解させる。 ・入場料・乗物運賃・選挙権等	○県教育センター研究報告書 第10号
○不安や悩みの実態	2 からだについての不安や悩みの集計結果について説明を聞き、話し合う。	○身体の発育にともなって生ずる心理的变化に気づかせる。 ○性についての不安や悩みは身体の発育と密接に関係することを理解させる。	○クラスアンケート ○スライド 「中学生のからだ」 「中学生のこころ」
○心身の発達と身心の発育のしかた	3 性についての不安や悩みの実態を知る。	○クラスと県内の中学生の資料を提示してやり、どこの中学生も似たような不安や悩みをいっていることに気づかせる。	
	4 スライドを見ながら理解を深める。 ○心の発達 ・第二反抗期 ・異性への関心 ・性への関心 ○身体の発育 ・身長, 体重の急増 ・第二次性徴	○自分を客観的に見ることによってよりよい人格形成に役立つことを意識させる。 ○月経の起こる理由を正しく理解させる。 ○性は不潔でいやらしいものという意識を改めさせる。	
○ホルモンの働き	5 スライドを見て理解を深める。 6 本時の学習の感想文を書く。	○第二次性徴の発現は、性ホルモンと密接に関係していることを理解させる。 ○成長のはげしさは、性の発育と関係が深いことを理解させ、心の変化のはげしい中で、自己を見出し、立派なおとなになるよう努力させる。 ○気楽に個別相談できるように配慮する。	

5 授業の記録

(1) 思春期の理解

- T₁ はじめに私たち中学生は、大人だろうか、子どもだろうか。大人だと思ふ人は？(挙手なし) 子どもだと思ふ人は？(大部分挙手)
- T₂ 子どもだと感ずるのはどういふときか？(指名)
- P₁ お母さんやお父さんから世話を受けたとき。
- T₃ そのほかには？(指名)
- P₂ やっぱり子どもだと文句をいわれたとき。
- P₃ ごはんを作ってもらい食べているとき。
- P₄ 親から子どもは勉強だけしていればよいといわれるから。
- T₄ 大人だと思ふ人はいないか？(指名)
- P₅ お母さんと言ひ争ってけんかをしたとき、私だって大人だと思ふ。
- P₆ バスなどの運賃を支払うときは大人で選挙権などは私たちにないから…子どものようだし。
- T₅ なるほど、大人だと感ずるときもあるし、子ども扱ひされるときもある。つまり、大人と子どもの中間にある時期なんです。この時期にはだれにでも不安や悩みがあるんです。子どもと大人の中間なのです。

(2) 不安や悩みの実態

- T₆ この前、みなさんに書いてもらったアンケートを集計して表にまとめてみました。(悩みや不安を県教育センター資料の数字と対比した表を示す。)
- T₇ 「からだについて悩みや不安がありますか」という質問にクラスで「ある」と答えたのは、92.1%で、なんらかの悩みがあると答えている。センターの資料では65.2%でみなさんの方が高い割合を占めている。また、「どういふ悩みがあるか」というのを集計したらこのようになった。一番多いのが「背が低い」で、つぎに「肥りすぎ」「やせ過ぎ」などである。何か表を見て感ずることがありますか。似たような結果です。
- T₈ 背がもう少し高ければと悩んでいる人は手を挙げてみて(10名以上挙手)理想の高さほどのくらい？(指名)
- P₇ 160cmぐらい。
- T₉ なぜそのくらいあるといひんだ。
- P₇ ほかの人が高いのに自分だけ低いといひだから。
- P₈ 部活動にも関係してくるので不利だし、少し太ってもそんなに目立たないから。
- P₉ 友だちが背が高くて、中学になるとちびっこくさいから。
- T₁₀ かつこがよくないということですか。
- P₁₀ いままでもいいんだけど、ただ部活動のときみんなが背が高いのに、自分だけ低いとみじめだ。
- T₁₁ 部活動もあるかも知れないが、それよりも異性を意識しているからでないか。小学校のときは肥っているとか、背が低いことをあまり気にしなかったのではないか。中学生になってから気にしたのではないか。
- (3) 身体の発育のしかた、身体の構造と機能、第二次性徴
- T₁₂ 性に関する悩みや不安が、「ある」割合は21.1%でセンターの資料でもだいたい同じくらいである。一番多いのは生理について、二番目は陰毛や性病についてで、性病については悩みというよりもっと詳しく知りたと思ひている人が多かったようです。それからまだメンスがないんだけれどもいままらあるのかと心配している人がいる。そういうことをいままらスライドを見て勉強しましょう。発達のところです。
- スライド「中学生のころ」「中学生のからだ」(学研)
- T₁₃ 悩みをもっている人は少しは解消といふか、軽くなりましたか。なつたと思ひ人手をあげて(挙手なし)
- T₁₄ ますます不安になつたか。スライドを見ての感想は？(指名)

P₁₁ からだの発達のうえでからだのなかに、いろんな名前の器官があつてそういうものが第二次性徴と作用していることがわかりました。いろんなことが説明され過ぎてむずかしく分らないことも多くあつた。

T₁₅ 少しむずかしかつたですか。(指名)

P₁₂ からだの成長の方で8~9才頃からは女性らしいからだに成長しているといふのでびっくりしました。私も最近お母さんとお父さんにすごく反抗したくなるのですが、それは私だけでなく私ぐらしい年齢になるとそういう気持になるといふことで安心しました。それからからだにはたくさん器官があつて、私たちがなにもしなくともその機能が自然に女性らしいからだにしてくれるといふことと、私は別に性に関しては悩みはないんですが異状があつて心配している人がいるといふことで、私は何もないので安心しました。

P₁₃ 私も親とけんかしたくなる時があるんですが、このスライドを見て自分だけではないことがわかりました。

T₁₆ いろんな悩みや不安があつたわけだけれど、いまのスライドを見てなんとか解決にむかえばと思つてスライドを使つた。反抗期とはこのいふのだとわかつてよかつたといふ意見もあつたようだ。

T₁₇ みなさんは近い将来赤ちゃんを生み母親になる。だから腰幅が広くなり脂肪が増え、乳腺が発達してきて乳房がでけるとともに女らしくなる。すらすらとしたといふのは理想的でないです。

T₁₈ いまもみなさんから出てきたように、ますます不安になつたといふ人もいた。それらの不安を気軽に信頼できる人に相談すること。誰だといふ一番いいですか。親とか先生がよい。養護の先生はよく知っている。医者だつてよいだろう。

T₁₉ 調べてみると雑誌とか週刊誌から知識を得たといふ人がいた。週刊誌は一般に面白おかしく書いている場合多いし誇張して書いている場合もある。できるだけ売れるように書いてあるわけだ。したがつて、まじめに相談にのってくれる信頼できる人から聞いたり教えてもらつたりすることが大切だ。

今日の授業を受けた感想を意見をとりまぜて来週まで提出してください。

(資料) 「中学生のころ」「中学生のからだ」(学研)

1 大人子ども	7 読書の範囲	13 異性への関心
2 アンケート	8 けんかの原因	14 幼児期(男女の未分化)
3 法律では20歳まで保護	9 第二次反抗期	15 小学校高学年(対立)
4 思春期、心の発達	10 第二次反抗期の特徴	16 中学生(交際)
5 心と体の発達	11 同上(精神的なものへのあこがれ)	17 性についての関心
6 心一知能	12 同上(容観・服装への関心)	外 略

6 生徒の感想

- A 私たちの年頃になるとみんな一つや二つの悩みや不安を持っていることがわかつた。また、身体の方は、ある時期に達すれば成長するけれども、心の方は自分で育てていかなければならないこと。ただ、スライドが多すぎて説明が早くよくわからなかつた。
- B 私だけでなく、みんな父母に反抗したい気持があり、それが自然だと先生が言つたのでうれしかつた。
- C 体の成熟や発達に個人差があることを聞いて安心した。しかし成長などになせ差がでるのかわからない。
- D 体の働きや機能についてもう少し時間をとつて詳しく教えてもらひたい。
- E 男の人にもこのスライドを見せてもらひたいかつた。性について純粋な気持で知つてほしいから。

7 考察

もう少し焦点をしばつて、スライドを取捨選択してゆつくりと説明すればよかつた。音声に合わせて指示棒で示しながら進めればよかつたと思ひます。また、スライドの説明は、音声にたよるよりも、生徒の理解や反応に応じて、画面について直接教師が進める方がよいと思ひられる。悩みや不安についても生徒同士の話し合いにもっと時間をさくようにすればよかつたと思ひます。

1 主 題 異性への関心(心の変化)

2 指導領域 道徳(国語)

3 指導のねらい

文学作品(川端康成-雨傘)に登場する少年・少女の心の動きを追わせながら、自分たちの心情と重ね合わせてふたりの心の動きをとらえさせ、共感の心情を養う。

4 指導過程

指導内容	学習活動	指導上の留意点	資料・その他
○作品を読み感想を話し合う	1 テープを聞く。 ○印象的な場面や表現についてみんなで話し合う。	○気分を落ち着かせて聞くようにする。	○プリント(雨傘)(川端康成)資料62 ○テープ(生徒吹込)
○心情をとらえる	2 少年少女の心理の動きを追う。 ○場面ごとに区切る。	○頭に残っていることを発表し合う程度とする。 ○グループにわかれて話し合わせる。 ○男女のグループにする。	
○心の変化	3 ふたりの心を変化させたのは何かを見つける。 ○「夫婦のような気持ちにさせた」に直接結びつく行動は何かを話し合う。 ○ふたりの心理のよくわかると思う点、疑問に思う点を発表し合う。	○文学作品だから、てれずに意見を発表させる。 ○できるだけ多くの生徒に発表させた。 ○ストーリーを完全に理解させた上で心の動きを追わせるようにする。	
○共感(登場人物)	4 場面場面における少年と少女の心の動きと自分の考えとを重ね合わせる。	○本時の学習事項を想起しながらもう一度読ませたい。	

資料 2

雨 傘

濡れはしないが、なんとはなしに肌の湿る、霧のような春雨だった。表に駆け出した少女は、少年の傘を見てはじめて、

「あら、雨なのね？」

少年は雨のためよりも、少女がすわっている店先を通る恥ずかしさを隠すために、開いた雨傘だった。

しかし、少年は黙って少女の体に傘をさしかけてやった。少女は片一方の肩だけを傘に入れた。少年は濡れながらおはいりと、少女に身を寄せることができなかった。少女は自分も片手を傘の柄に持ち添えたいと思いつつ、しかも傘のなかから逃げ出しそうにばかりしていた。

ふたりは写真屋へ入った。少年の父の官吏が遠く転任する。別れの写真だった。

「どうぞおふたりでここへお並びになって。」と、写真屋は長椅子をさしたが、少年は少女と並んですわることができなかった。少年は少女のうしろに立って、ふたりの体がどこかで結ばれていると思いたいために、椅子を握った指を軽く少女の羽織に触れさせた。少女の体に触れた初めだった。その指に伝わるほのかな体温で、少年は少女を裸で抱きしめたような温かさを感じた。

一生この写真を見るたびに、彼女の体温を思い出すだろう。

「もう一枚いかがでしょう。おふたりでお並びになったところを、上半身を大きく。」

少年はただうなずいて、

「髪は？」と、少女に小声で言った。少女はひょっと少年を見上げて頬を染めると、明るい喜びに眼を輝かせて、子供のように、素直に、ばたばたと化粧室へ走って行った。

少女は店先を通る少年を見ると、髪を直す暇もなく飛び出して来たのだった。海水帽を脱いだばかりのように乱れた髪が、少女は絶えず気になっていた。しかし、男の前では恥ずかしくて、後毛をかき上げる化粧の真似もできない少女だった。少年はまた髪を直せと言うことは少女を辱しめると思っていたのだった。

化粧室へ行く少女の明るさは、少年をも明るくした。その明るさの後で、ふたりはあたりまえのこのように、身を寄せて長椅子にすわった。

写真屋を出ようとして、少年は雨傘を捜した。ふと見ると、先に出た少女がその傘を持って、表に立っていた。少年に見られてはじめて、少女は自分が少年の傘を持って出たことに気がついた。そして少女は驚いた。なにごころないしぐさのうちに、彼女が彼のものだと感じていることを現わしたのではないか。

少年は傘を持とうと言えなかった。少女は傘を少年に手渡すことができなかった。けれども写真屋へ来る道とはちがって、ふたりは急に大人になり、夫婦のような気持ちで帰って行くのだった。傘についてのただこれだけのことで――。

(「掌小説」川端康成 旺文社より)



- 1 主 題 男女の特性と役割 (男女の協力)
- 2 指導領域 学級指導
- 3 指導のねらい
男女の特性を理解させることより、性非行の防止をはかりながら、現代社会における男女の人間関係や性役割などについても知らせ、社会生活を営む人間は基本的に平等であることを理解させる。

4 指導過程

指導内容	学習活動	指導上の留意点	資料・その他
○「愛すること」と「好き」のちがいは	1 テープを聞いて「love」と「like」のちがいをみながら整理してみる。	○思春期には、異性の美化、理想化あこがれの時期であることを理解させる。	○県教育センター研究報告書第10号
○男女の心理の違い	2 性心理の進行は、男女間に大きな違いがみられることを理解する。 ○男子-直線型、衝動的 ○女子-段階的	○性心理の連鎖作用を図解して説明を加える。(教師のための性教育 P186) ○「男はみんな狼よ」というのは、この性差による。	○テープ (生徒吹込資料 63)
○男女の身体的特性	3 脳の略図から人間に特有な部分(新しい皮質)を理解する。 4 感覚的な刺激と反応のちがいを資料をもとにして考える。 ○性的興奮の男女差 ○被害の防止	○女性はその段階で満足するが、男子は、次の段階に進む刺激になることが多いことを説明する。 ○性交は男性にとって終着駅であるが女性にとっては出発点であることに気づかせる。 ○特性を理解させることにより防止をはかるようにさせる。	○県教育センター研究報告書第10号
○男女の役割	5 女性には、子どもを産み育てるといふ尊い使命があることを自覚させる。 6 職業と家庭からみた男女の役割分担がどのようになされているかを発表し合う。 ○家庭での父母の役割分担 ○職業からみた男女の役割分担 ○男女の平等	○女性における営巣本能や、受胎・妊娠・出産・育児などの役割について理解させる。 ○男女の役割分担から、社会や国家の男女に期待しているものを感じとらせる。 ○親のいない場合について配慮する。 ○そのときどきの社会の変化につれて役割分担も異なることに気づかせる。 ○男性の独占分野とされている職種への女性の進出にもふれる。	

資料 3

like と love

中学時代の異性に対する感情や意識は、好意と反発という矛盾した形で高まって来るものです。そして心の中では異性を美化し、理想化して、たとえようもなく美しく尊いものとしてあこがれる時期でもあります。こうした時に異性ととの交際が始まると、まるで夢のような気持ちが出て、みずからを必要以上に優越視したり、また逆に卑下したりして、極端に動揺することがあります。



また、わけもなく不安と焦燥にかられたりするのも、自分自身を冷静に客観視することが、まだじゅうぶんでないからかもしれません。

異性に興味をもつのは男子として自然なことだとしても、それをどんな形で行動してあらわすかが問題です。

例えば like と love の区別がそれです。自然な良識ある男女交際が続けられているうちは、友情で結ばれた美しい人間関係が成立して、互いに好ましい友だち関係で満足できます。しかしややもするとその感情は、単なる友情から恋愛感情にまで発展することがあります。

日本語では「好き」という感情と、「愛している」ということが混同されやすく、明確な区別はないようです。しかし中学時代から男女交際の場における like と love は、はっきり区別する必要があります。このことは両性とも共通ですが、男子にとくに注意が向けられるのは、次のような理由にもよるからです。

性と脳

男子には異性と接触したいという気持(接触欲)が強くはたります。こうした性の中枢は脳の中にあります。これは人間だけではなく、犬、猫など高等動物にはみな共通なのです。ただ人間以外の動物は、季節的な要素があり、性ホルモンの周期にしたがって行動します。

人間の場合は他の動物と違って、性の中枢がある古い脳(これは動物と同じ脳)をとりかこんで、大きな新しい脳があり、これが人間の価値を高めているのです。

新しい脳はことばを話したり、物事を判断したり、意志の力を発動したり、複雑なことや抽象的な考え方をしたりなどして、文化を創造する脳です。だから性の中枢が活発に働いても、意志の力や判断する力、つまり理性の力によってみずからをコントロールできるのです。

衝動的な男子の性

世間では性を商業化し、街に出ればいかがわしい看板やポスター、週刊誌やあやしげな雑誌など刺激的なものが多くみられます。こうした環境はけっして望ましいものではありませんが、悪影響を受けるような弱い理性ではいけません。ごくまれですが刺激に負けて自らを汚すと同時に、女性を傷つけるような行動をとる男子もいます。

これらは人間だけが持つことのできる能力を放棄して、動物と同じ状態になりさがったといつてよいでしょう。いわば人間の仮面をつけた野獣です。しかしこの野獣はいつもただけしいかというところではありません。ふだんは何でもないのですが、非常に衝動的に行動をおこします。何か刺激があると、新しい脳の制禦力が弱い場合、すぐ行動をおこしてしまうのです。そして、多くの男性(おとな)には衝動的な行動をとる要素を、大なり小なり持ち合わせているのです。これがエッチなことを考えたり、させたりする原因になっています。

女性の使命

一方、被害者となる女性について考えてみましょう。



万葉の昔から「しろがねもこがねも珠もなにせんに まされる宝子にしかめやも」とうたわれ、いつの時代でも新しく生まれてきた小さな生命は、未来をつくり出す尊い宝として育てられているわけです。この小さな生命は古い祖先より受けつがれ、未来への希望とともに永遠にひろがっていくものです。次の時代をにない、よりよい家庭、社会、世界をつくりだしていくこの新しい生命を、産み育てるのは女性です。この尊い使命をもった女性を男性は正しく理解することが大切です。

(「おとなへの扉を開く」日本性教育研究会 文進堂)

- 1 主 題 異性ととの交際（男女の協力）
- 2 指 導 領 域 学級指導
- 3 指 導 の ね ら い
男女交際の正しいあり方を知らせ、清らかな交際ができるようにする。
- 4 指 導 過 程

指導内容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資料・その他
○男女交際の昔と今のちがいがい	1 本で読んだり、父母から聞いたことなどを思い出し、発表する。 ○昔 ・男尊女卑、夫唱婦随 男女7歳にして席を同じうせず。 ・交際は認められない。 ・男女共学でない。 ○今 ・男女平等である。 ・男女交際は認められている。 ・男女共学である。	○歴史的背景を説明する。 ○今と昔を比較させることにより、それぞれの長短を理解させる。	
○男女交際の意義	2 男女交際には、どんな長短があるかを話し合う。 ○よい点 ・相手（異性）の長短が判明 ・趣味・教養が高まる。 ・視野が広がる。 ・相談相手になる。 ○悪い点 ・自由のはきちがえ ・非行	○異性の友人としてのつき合いで、恋愛でないことを留意させる。 ○異性の友人のいる生徒に配慮する。 ○男女交際の長短を公平に考えさせる。	資料464
○清らかな交際	3 男女交際のエチケットについて考え意見を発表し合う。 相手に誤解を与えない。 ・言葉・文通・贈り物・服装 ・紹介 ・話の内容 ○誤解を受ける場所へ行かない。 ・訪問の限界 ・散歩 ・旅行 ・海水浴 ・キャンプ	○交際の自由や性の自由を強調して異性を犠牲にすることのないよう強く指導する。 ○具体的例をあげて批判力を高める。 ○とくに女子が交際の犠牲になりやすいことを説明する。 ○家族の人を心配させることがないよう指導する。	

資料 4

性解放の軽薄さ

現代の日本に於ても法律は直接に個人的な性を拘束してはいない。結婚は男18、女16以後でなくては正式に認めていないが、親が承認をするならば未成年の子女の婚姻にも、法律は譲歩して当事者の自由にまかせている。戦後の刑法一部改正以来は姦通の罪というものも無くなったので、男性の相手は人妻であろうと未婚の娘であろうと未亡人であろうと、それが両者の合意による行為であるならば、何人もそれを法律的に阻止することはできない。女の保護者や良人や愛人関係に在るものが、相手方に対して抗議をすることは自由であるけれども、相手方が抗議を拒否することも自由である。要するに両当事者の合意による行為である限り、その人の性の自由は侵されることはない。

しかし、法律は完全な自由を認めているが、だからと言って個人の性行動が無秩序であっていいということにはならない。法律的な規制のないところではおのずから道徳的な規制が必要となり、あるいは自主的な規制が必要となる。婚姻ということが一つの秩序として存在し、一夫一婦制が社会生活の規準として存在している限り、一夫一婦制に反する行動は世間の批判を受けなくてはならない。しかし世間の批判を意に介しない人にとっては、性はやはり自由であるに違いない。

けれども、そのように人にとって性は自由であるけれども、彼あるいは彼女にとって、自由になったのは性だけであって、その性はまことに孤独である。あれもこれも、その他の一切のものを犠牲にして、僅に性の自由だけを手に入れた……とでも言うような、みすばらしい、独りよがりな性の自由である。

第一の疑問 ……彼は自由であるから、他人の妻、友人の妻、友人の娘との間に性関係をもつことを、意に介しないだろう。それによって他人や友人から抗議を受けても、更に意に介しないということもできる。しかし、彼は自分の愛する女と結婚することができるだろうか。また、その女を妻として信じることができるだろうか。

第二の疑問 ……彼は自分の妻について、性の自由を認めることができるだろうか。妻と彼の知人友人との性関係を黙って承認し得るだろうか。自分と共に妻の自由をも認めなくては、自由についての彼の信念は矛盾することになる。

第三の疑問 ……妻の自由については寛大な理解を持つことができると仮定して、その妻に対して永く愛情をもち続けることができるだろうか。その子を自分の子として認め、子供を愛育することができるだろうか。

結婚は、基本的には相互の独占契約であり、他人を介入せしめないという契約である。ところが性の自由は、2人の間に他人を介入させてもかまわないという、3人以上の関係を承認することであって、そこに根本的な矛盾があり、その結婚は一般常識から考えて、必ず短期間のうちに崩壊するものと思われる。性に関する独占欲は本能的なものであって、批判の余地はない。したがって性の自由という思想は独占本能と矛盾している。

人間は自由な交合を望む本能と、自分の愛する対象を独占しようとする本能と、矛盾した二つの本能をもっているが、その一つは性の自由という現代的な欲求となっており、もう一つは何千年来変らない独占慾として続いている。現代の風潮は表面的には自由への要求の方が強く現われてはいるが、上に記したように、それ自身が矛盾した二つの本能の上に立っていることであって、単純な解決は永遠にあり得ないことである。

（「生きるための自由」 石川達三 新潮社）

- 1 主 題 性被害の防止と情報の選択（社会への適応）
 2 指導領域 学級指導
 3 指導のねらい
 マスコミなどの刺激的な記事や写真等の性情報に対する正しい批判力と、ゆがんだ社会の誘惑に負けない自制心とを培い、冷静に行動しようとする態度を養う。
 4 指導過程

指導内容	学習活動	指導上の留意点	資料・その他
○中学生の性 非行の実態	1 非行の実態について説明を聞き感想を話し合う ○中学生の性非行の特色 ○非行原因 ・社会的理由 ・家庭的理由	○性に関する軽はずみな考えや行動については、きびしく批判する。 ○性非行と性犯罪を区別する。 ○純潔の尊さを教え、売春は本質的に人間性の破かいにつながることを指摘する。	○最近の新聞事例 ○生徒指導資料第14集(文部省) ○警察白書 ○県教育センター研究報告書第10号
○性被害・加害の防止	2 防止について意見を出し合う ○相手の立場の尊重 ○性差心理 ○具体例について考える ・異性からの手紙 ・知らない異性からの呼びかけ ・誘い(喫茶店などへ) ・心のすき ・服装・態度(歩き方・座り方・目の動き) ・余暇のすごし方 ・男女間のエチケット ・雰囲気	○自己中心的な生き方を強く否定し、相手の立場を常に尊重する必要性を自覚させる。 ○性差心理を一般的に教えるのではなく被害防止の立場から扱う。 ○できるだけ多数の生徒の意見を出すよう配慮する。 ○被害を受けた人などの具体的反省記録などを活用する。 ○すぐれた意見が出された場合は、特に取り上げて認めてやる。 ○資料にのっている被害者の反省を読みあうことにより、被害者にならないための心がまえを考えさせたい。	○県教育センター研究報告書第10号
○刺激媒体とマスコミ	3 マスコミの問題点をみんなで話し合う。 ○俗悪テレビ・ラジオ・映画 ○俗悪雑誌 ○性の商品化(性の商業主義)	○一つの事実について、異なる報道があり得ることを具体例をとって説明する。 ○同じ資料を見た場合にも、対処のしかたによって、受けとり方に違いがでてくることに気づかせる。	
○情報選択の心構え	4 情報をどのような観点から選べばよいかについて考える。 ○深夜放映(放送) ○自動販売機 ○白ポスト	○活字や映像を事実そのものと混同して受けとめることのないようにする。 ○一場面にとらわれず、作品等を全体的、総合的に鑑賞する態度が大切であることを知らせる。	

- 1 主 題 伝染病の予防(生命の尊厳)
 2 指導領域 保健体育
 3 指導のねらい
 病気を予防し、生命の危険から身を守り健康な生活を送るために、病気の予防法を理解させる。
 4 指導過程

指導内容	学習活動	指導上の留意点	資料・その他
○伝染病	1 伝染病について既知のことからについて発表する。 ○伝染病とは ○病原体のなかたち ・人・食器 ・ねずみ・はえ・ごきぶり・こん虫など	○病名などを板書する。 ○原因は病原体であることを理解させる。 ○なかだちにはいろいろなものがあることを理解させる。 ○清潔の大切さを理解させる。 ○人々の生命をおびやかすことが多いことに気づかせる。	○教科書(保健体育)
○伝染病の種類	2 分類の基準によっていろいろあることを説明を聞いて理解する。 ○経過-急性・慢性 ○病原体-細菌性・ウイルス性 ○臓器-消化器系・呼吸器系	○OHPを使って、それぞれの種類についてその特徴を説明する。 ○学校伝染病については、とくに詳しく説明する。	○OHP(法定伝染病)
○伝染病の現状	3 説明を聞き理解を深める。 ○種類別の発生・死亡率など。 ○環境の整備・予防の大切さ。	○伝染病患者数などをOHPで示す。 ○医薬・医療の進歩による減少を説明する。 ○患者数は文化程度に反比例することを理解させる。	○厚生白書
○伝染病の予防	4 説明を聞き理解を深める。 ○危険な感染源-健康保菌者 ○病原体に対する抵抗力 ○感染経路 ・直接感染 ・間接感染 ○予防接種 ○赤痢 ・感染と発病 ・病状 ○結核 ・感染と発病 ・症状	○感染源が存在しなければ伝染病にはならないことを理解させる。 ○感染経路をたちきれば流行を防ぐことを理解させる。 ○予防接種の免疫の効果を説明する。 ○赤痢については、予防接種がないことを説明する。 ○一年をとって最も多い消化器系伝染病であることをわからせる。 ○国民病といわれた事情を説明する。 ○からだをきたえることの重要性を理解させる。	

- 1 主 題 受精と遺伝（身体の成長）
 2 指導領域 保健体育（理科）
 3 指導のねらい
 性器の構造と働きについて学習させ、受精と遺伝のしくみを科学的に理解させるとともに、
 生命誕生の神秘性に気づかせる。
 4 指導過程

指導内容	学習活動	指導上の留意点	資料・その他
○ 生命の連続性	1種の保存（生命の限界を乗り越える）について既習事項を想起する。 ○ 植物（種子植物） ○ 動物（魚類）	○ 2年時での学習事項を発問で確める。 ○ 植物—おしべ・めしべ・花粉 ○ 魚—卵・しらこ ○ 人間にも、種族を保存し、子孫が絶えないようにする使命を果たすため生殖器官があることを理解させる。	○ OHP（スライド） 掛図
○ 男子の性器	2図解（スライド）をみながら説明を聞く。 ○ 精のう ○ ころ丸（精子） ○ 副ころ丸 ○ 輸精管 ○ 射精管 ○ 前立腺 ○ ペニス ○ いんう	○ 基本的なことから限定する。 ○ 精子が体外に出るわけを説明する。 ○ 夢精は、決して不潔なものではなく、大人に近づいている証であることを理解させる。 ○ はずかしい・いやらしい・けがらわしいなどの感情を除くようにする。 ○ 科学的用語を用いる。 ○ 構造だけでなく、働きについても理解させる。	
○ 女子の性器	3図解（スライド）を見ながら説明を聞く。 ○ 卵巣（卵子） ○ 輸卵管 ○ 子宮 ○ 膣（ワギナ）	○ 性的好奇心だけを満足させる結果にならないようにする。 ○ 月経の起こるわけや性ホルモンにもふれる。 ○ あくまでも科学的態度で指導する。 ○ 生命誕生の厳粛な事実を率直に説明する。	
○ 受精のしくみ	4精子と卵子が結合して受精することを図解（スライド）を見ながら説明を聞く。 ○ 精子 ○ 卵子 ○ 子宮・受精 ○ 男子と女子のできるわけ（染色体）	○ 遺伝情報は遺伝子に含まれていることを理解させるがあまり深入りしない。 ○ ヒトの遺伝の特異性を理解させる。 ○ 優生学的なものにふれる。	
○ 遺伝	5子が親に似るわけを理解する。 ○ 遺伝子		

- 1 主 題 人間らしさ（心の変化）
 2 指導領域 学級指導
 3 指導のねらい
 動物では欲求と行動が直結しているが、これに対して欲求や行動をコントロールできる正しく強い心（自我）をもつことが人間の人間たるゆえんであることを自覚させる。
 4 指導過程

指導内容	学習活動	指導上の留意点	資料・その他
○ 人間と動物を区別する基準	1資料5の読後感を発表し合う。 ○ 人間の外観的变化 ○ 人間としての振舞—心 ○ オオカミ少女と人間の違い。 ○ 睡眠 ○ 食事作法 ○ 活動時間 など ○ 知能の発達	○ あらかじめ配布しておいた資料をもとに感想文を書かせる。 ○ 人間を自然の状態に放置しておけば、人間にならないことに気づかせる。 ○ 「生みの親より育ての親」ということわざにもふれる。 ○ できるだけ多数の生徒に意見を発表させる。	○ プリント （資料45・6） ○ 感想文
○ 脳の構造と人間の完成	2資料6での読後感を発表し合う。 ○ 新しい皮質と古い皮質 ○ 動物と共通な部分と人間に特有な部分	○ 新しい皮質は、動物が高等になるに従って発達するものであることを理解させる。	
○ 欲求と行動についての正しい態度	3スライドによる脳についての説明を聞く。 ○ 前頭連合野 ○ 新しい皮質：知・情・意 ○ 古い皮質：本能の欲求 4「食欲」の満たし方に対する人間と動物の違いについて討論する。 ○ 食物の入手方法の合法性 ○ 場所・時間の判断 ○ 健康への配慮 ○ 他人への配慮 ○ 経済的能力 ○ 礼儀作法 ○ 環境への配慮	○ 知恵や自我をつかさどる人間の新しい皮質は、すばらしく発達することを理解させる。 ○ 新しい皮質は、放っておいたのではうまく働かないことを理解させる。 ○ 人間の行動は、他の動物とちがって欲求とは直結させてはならないことを具体例をとおして自覚させる。 ○ 人間は、社会生活を営むものであることを自覚させる。	○ 脳の模型 ○ スライド ○ 資料46・9
○ 正しい判断	5正しく強い心を持する心がけについて話し合う。 ○ 正邪の判断 ○ 生活時間のリズム	○ 正しく強い意志は、正邪の判断が基礎にならなければならないことを理解させる。 ○ けじめのある生活の大切さを指摘する。	

人間とはなにか

その昔、ギリシャのテーバイの郊外のピーキオン山の頂上にてんとかまえた、顔は処女、胴体は獅子、そして翼をもった怪獣スフィンクスが、山の下を通る旅人に向かって、

朝は4本足で、昼は2本足で、そして、

夕方は3本足であるく動物はなにか

と問いかけ、答えられないものを、かたつぱしから食い殺していた。

そこへ、勇士オイディプスがあらわれ、

それは人間だ。赤ん坊は手足を使ってはい、成長すると2本足であるき、老人になると杖をついてあるく

と、ものみごとに答えたので、さしもの怪獣も山から飛びおみずから命をたつたという。

ギリシャ神話にでてくる「スフィンクスの謎」であるが、たしかにこの謎は、私たち人間の一生の外観的な変化をみごとにとらえている。しかし、形のうえだけで、人間の本质があらわされるものではない。

今から50年ほど前の1920年10月に、インドのカルカッタの西南110キロのゴタムリという村で救いだされたオオカミ少女がよい例である。(図1)。

シング牧師夫妻がこの村に伝道に行ったとき、村人から、人間の化物がオオカミの洞穴にいるという噂をきかされた。そこで、村人の助けをかりて救いだしてみると、まさしく、2人の女の子であった。シング牧師夫妻は、この2人の子どもを自分たちが経営している孤児院にひきとつ



図1 オオカミ少女(A. Gesell, 『狼にそだてられた子』生月雅子訳より)

て育てたのである。もちろん年齢はさだかでないが、2歳と8歳くらいだったという。アマラと名づけた2歳の子どもは間もなく死んだが、カマラと名づけた8歳の子どもは、9年間孤児院で生活して17歳のときに惜しくも尿毒症で死んでいる。

シング牧師が詳しくつけた育児日記によると、顔かたちは人間であるが、することなすこと全くオオカミであって、世によんでオオカミ少女という。

日中は、暗い部屋の隅で眠っているか、ウトウトしているか、顔を壁に向けたままほとんど身動きせずにじっとしているかであったが、夜になると、あたりをうろつきまわり、夜中には3度、オオカミのように遠ぼえまでしていた。手を使って食べることはしないでベチャベチャなめて食べていた。2本足で立って歩いたり走ったりすることはできず、オオカミのように、両手と両膝ではったり、両手と両足を使って走ったりしていた。ことばはひとつも話さないし、聞きわけすることもできなかった。牧師夫妻やほかの子どもたちに、いっこうなつこうとしなくて、ほかの子どもがそばに寄ってくると、歯をむきだしていやな声をたてるといった状態であった。

牧師夫妻は、このオオカミ少女をなんとかして人間の子どもにしてやりたいと、一生懸命に努力したのである。カマラは、3年ほどして、支えるものなしにひとり両足で立って歩くようになった。しかし、急ぐときには、4本足で走りまわっており、この習性は死ぬまでとれなかったという。3年ほどで、手を使って食べるようになり、4.5年して、喜びや悲しみの心を表現するようになった。シング夫人によって、ことばが教えられたが、死ぬまでに45語しか使うことができなかったということである。そして、知能は3歳半の子どもくらいだったという。

このように、動物に育てられた人間の子どもを野生児というが、顔かたちは人間でも、心は全く動物である。私たちがお互いに人間として認めあい、人間として振舞っているのは、お互いが人間の精神をもっているからである。(「人間であること」 時実利彦 岩波新書)

新しい皮質と古い皮質

ギリシャのアテネ空港を飛びたつて、紺碧の地中海を下に眺めながら1時間で、クレタ島のイラクリオンにつく、効外にあるクノソス宮殿の遺跡は、さすが4千年前のクレタ文明を象徴するにたる広大な規模である。この宮殿で、特に私の興味をひいたのは、皇后の部屋を飾っていたイルカの壁画である。みるからに、賢そうな目が画かれている。

イルカは人間につぐ賢い動物とされているが、体重に比べて非常に重い脳をもち、そのうえ、脳の表面に、シワが人間よりもたくさんあるせいであろう。

脳の表面にシワがあるのは、大脳半球の表層にある大脳皮質の面積を広くするためである。したがって、シワが多いほど、表面積が広く、なかにある脳細胞が多いから、頭の動きはよいということになる。

ところで、カエルやヘビの脳は小さいし、シワもないが、特徴的なことは表層の大脳皮質の性質が、私たち人間やイルカの表層の大脳皮質とは全く違っていることである。

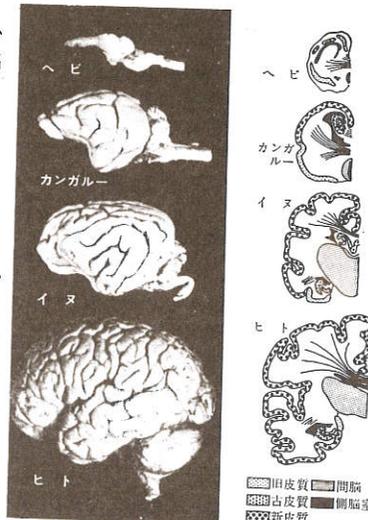
大脳皮質は系統発生的にみて、旧皮質と古皮質と新皮質の3種類に区別される。そして、カエルやヘビの脳では旧皮質と古皮質だけであって、新皮質はまだ発達していない。動物が高等になるほど、新皮質がどんどん発達してシワまで作り、そのために、表層にあった旧皮質や古皮質が、大脳半球の底へ押しやられたり、大脳半球のなかへ押しこめられてくるのである。

したがって、旧皮質と古皮質とは、脳の共通構造であり、脳の高等度は、新皮質の分化発達程度にかかっている。実際に、旧皮質と古皮質は、動物と人間を通じてみられる本能の欲求や情動の心の座であり、新皮質は、知・情・意で代表される高等な精神の座なのである。

普通、新皮質を「新しい皮質」といい、旧皮質と古皮質を「古い皮質」(学問的には辺縁皮質)とよんでおり、結局、私たちは、二重構造の皮質に宿る精神に操られて行動しているわけである。

しかし、2つの皮質は、ただ重なりあっているのではなく、「古い皮質」は「新しい皮質」によって、しょっちゅう監視され統御されているのであって、ここに、分裂しない正常な精神活動が期待でき、正常な人間として振る舞えるのである。

(「脳を考える」時実利彦・日本経済新聞社)



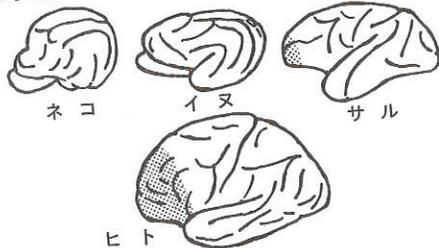
左図は人間といろいろな動物の脳(左側図)を示し、右図はそれを縦に輪切りにした切断面で、3つの皮質の発達の状況を示す。

人間の脳と人工頭脳

このところ情報とか情報化時代といったことばがはらんでいっている。情報処理をテキパキやってのけるコンピュータの開発が急ピッチで進められているためである。

なるほど、人工頭脳の名前をはずかしめないように、コンピュータはそのすばらしい威力を昭和44年夏のアポロ11号の月面着陸という世紀の壮事をなしたけた組織工学の立て役者として発揮したのである。

しかし、手放してはめたたえるわけにはいかぬ。なぜなら、着陸船が月面着陸の直前に、コンピュータの弱点がさらけだされたのである。コンピュータは、無限大の宇宙空間のなかの「静かの海」という一点に宇宙船を送り届けることはできたが、着陸直前に目の下にひろがるクレーターを見合わせるにはお手あげであつた。地球からの指令でアームストロング船長が手動で、自分の目でたしかめながらクレーターを避けて着陸に成功したのである。



人間といろいろな動物の大脳皮質のソフトウェアである前頭連合野(点をうった部位)とハードウェア(点をうっていない部位)。人間では前頭連合野がよく発達しているが、ネコイヌにはなく、サルにごくわずかにみられるが、この部位は訓練しないと働かない。

ソフトウェアがそなわっている。人間の脳だけに発達している前頭連合野が、思考し、創造し、意志し、喜び悲しみの情操の心を生みだすソフトウェアとして働いており、この前頭連合野の働きに、人工頭脳との間に決定的な違いをみる事ができるのである。(「脳を考える」 時実利彦 日本経済新聞社)

このように、コンピュータは数字のようなデジタル情報の処理は得意だが、図形認識のようなアナログ情報の処理はこよなく苦手である。おそらく、情報処理の基礎になる記憶の容量や精度の違いによるのであろう。

この違いは、これからの研究開発でなくなるだろうが、しかしなんといつても、コンピュータがどんなにすばしくなっても、しよせん、血の気の通ってないハードウェアである。それだけでは宝の持ちぐさであつて、ソフトウェアの働きをまわって、はじめて真価が生まれてくるのである。

それにひきかえ、私たちの脳には、情報処理と運動発現の働きをもった立派なハードウェアと、それを十二分に使いこなすすばらしい

欲望に対する人間の態度

空腹になれば食物を求めて食欲を充そうとします。動物なら自分に与えられたものであろうとなかろうと区別はありません。他の動物の分を奪っても、腹がふくれたらよいのです。ただ自分より力の強いものが抑えた時に限って、その行為を止めます。

ところが人間は違います。

第1に、食物は他人のものを盗むことは許されません。正しい方法で手に入れ、正しく分配しなければなりません。

第2に、どんな空腹であっても食べてよい時や、場所を考え、もし不適当と判断したら食べることを控えます。

第3に、どんな好物であっても、自分の健康に適当かを考えます。下痢をしている時には不消化のものは止めます。また、自分は健康であっても食物に健康を害する危険性がある時には止めます。

第4に、自分より他にもっと空腹な人が身近におれば、自分は止めにしてもその人に譲る場合もあります。

第5に、どんなに欲しいものでも、自分の経済能力を考えます。それをこえるものは手に入れることはむずかしいので止めます。

このように食欲を充すには、時と場合、収入、健康、周囲の人たちのことをいろいろ考えて、その中から最も適当と思う食物を、自分にとって最も適当と判断した方法で食べます。

動物でも選択するのはたつきがないことはありません。蚕は桑の葉と混ぜても桑の葉だけしか食べません。肉食動物は草食をしません。これらはたつきは、動物の本能がさせているので、人間のようにいろいろな条件を自分で考えて判断し、選び出すではありません。さらに人間には第6に、同じ食べるにしても他人に不愉快な思いをさせないように、礼儀を守ります。

第7に、より楽しく、豊かな気持ちで食べるためには、食堂を清潔にし、花などで美しく飾ったり、音楽を静かに流したり、美しい食器を用いたりします。

動物では、欲望のおもむくままに行動するのですが、この行動を抑えるものは自分より力の強いものが威圧した場合だけです。自分で判断して抑えることはありません。

人間は欲望に引きずられようとする自分を、理性によってブレーキをかけて、一旦ふみ止めます。そして欲望を充す方法は、数ある中から自分にとって最も適当と思うものを選びます。その選ぶよりどころは、社会の秩序を乱さないことと、許す限りの高い文化水準です。

欲望に引きずられる自分を抑え、最も適当な手段を選ぶ能力は、生れてから今日まで、学校・家庭・社会で受けてきた広い意味の教育です。それによって培われた教養です。教養に乏しいときは、欲望を抑え、最も適当な方法を選びだすはたつきが不十分で、動物に近い人間などと批判されることとなります。

人間が2人以上生活するところには社会生活が始まります。ただ1人と違って大勢の協同生活では自分の思うままにはならないことが多いものです。しかし、全体の平和や秩序を保つためにはお互いが譲り合い、法律や道徳も守らねばなりません。その代わりにお互いに助け合う生活が生まれてきます。

私たちが動物並みの扱いをされて、腹を立てるのは当然だということが分りました。しかし、それと同時に、常に欲望に対して自分は人間としてふさわしい行動をとっているかどうか、という反省をすることを忘れてはならない。

(「人と結婚」大島正雄 東山書房)

厄介な動物

なぜ人間だけは、一人前になるのにこころも手間ひまがかかるのか。ヨチヨチ歩きができるまで、1年もかかるような動物は人間以外にはないだろう。20歳で「成人」といわれても、名実ともに備わった大人とは言いにくい。なかにはヒゲを生やした大男が親に付きそわれて、就職試験を受けたりしている。

「人間はどうしてこころも厄介な動物なのでしょう」と、上野動物園の中川飼育課長にきいてみた。「そう、まれにみる効率の悪い動物です。丸1年たないと自分で動けないし、自分でエサを取ってくるまでには14年はかかりますからね。」エサ、なるほど、さすがに動物を扱う人だけあって人間を見る目に感傷がない。万物の霊長などと、特別扱いはしてくれない。

その話だと、キリンやシマウマは生まれて1,2時間もすれば、時速何10キロで走り出すそうだ。そのかわり妊娠期間は350日もある。弱い動物だから、生まれたらすぐ逃げられる力がつくように、おなかの中まで育っている。ライオンやトラの妊娠期間は100日前後しかない。生まれたときは目もみえず、耳も聞こえない。育てるのに日数がかかるわけだが、親は猛獣だからゆっくり育てても心配はない。

人間の場合はどうだろう。280日もおなかで育てたのに、生まれてからがまた大変だ。まず1年間は、母親が片時も目を放さない。そのあと十数年をかけて、社会生活に適応するための要領を仕込まれる。それだけの時間をかけねばならないのは、社会の仕組みが複雑なせいである。

昔は10歳から15歳程度で元服したのに、いま20歳で成人式をやるのは、人間社会がいつそう複雑になってきたことの反映だろう。若者は頼りないという大人の不満はいつの時代にも絶えないが、それは若い人が複雑な社会についていけないせいなのか、それとも社会の複雑さに大人の方が自信を失ったあけくのグチなのかは、議論の分かれるところだ。(50・1・15) (「天声人語」 深代惇郎 朝日新聞社)

- 1 主 題 欲求と行動(心の变化)
 2 指導領域 保健体育
 3 指導のねらい
 思春期に特有ないろいろな欲求について理解を深め、短絡的な行動をとらない強い意志をはぐくみ、心の調和を失わずに毎日の生活を向上させるようにする。
 4 指導過程

指導内容	学習活動	指導上の留意点	資料・その他
○欲求の意義と種類	1 欲求の意義を説明し、どんなものがあるか例挙させる。 ○独立を求める欲求 ○精神的な結びつきを求める欲求 ○高度な知識・技術の習得を求める欲求 ○価値あるものを求める欲求 ○性的ならびに他の生理的な欲求	○生徒の経験の中から、自由に具体例を出させるようにする。 ○生徒から発表された項目を板書し、整理してやる。	○教科書 (保健体育)
○行動の特徴	2 いくつかの具体例について話し合い、発表する。 ○強い態度-積極的行動 ○弱い態度-現実を運命視 ○調和的な態度-周囲の人との調和 ○逃避的な態度-孤独	○ある仮定した事例を提案し、率直に答えさせる。 ○行動のしかたには個人差があることを理解させるが、多くのクラスの人の傾向から、中学生に共通した行動があることを理解させる。 ○自我意識の高まりに気づかせる。 ○自分の行動に十分な自信がもてなくなることを理解させる。 ・親しい友人・虚勢・反発	
○自他の理解	3 失望や不満の例を思い出し発表し合う。 ○自己の立場・行動のしかた ○自分の能力 ○他人への思いやり(信頼関係)	○失望や不満に共通している原因に気づかせる。 ○自己の長短に気づかせ、悲観することなく積極的な生き方をしよう励ます。 ○社会は共同生活であり、互いに助け合って生活していることを強調する。	
○よい生活態度や習慣の確立	4 みんなで考え意見を出し合う ○当面の問題を解決しようとする態度 ○信頼感を持って他人とつきあう態度 ○目標をもって生活する態度 ○自己を表現する態度や能力 ○適度な自己信頼感をもって行動する態度 ○原則を守りながらも、状況に応じた行動がとれる態度	○人間の成長は、自分本位から抜け出すことを理解させる。 ○困難な問題に出合っても、それを避けてはならないことを自覚させる。 ○よい生活態度や習慣は、自分の能力を一層発揮できるようになることに気づかせる。 ○自己の持つよくない生活態度や習慣を反省させる。 ○悩みや不安があれば、どんなことでも信頼できる人に相談するように呼びかける。	

- 1 主 題 男女交際(男女の協力)
 2 指導領域 道徳(学級指導)
 3 指導のねらい
 中学生としての男女交際のあり方を考えさせるとともに、その意義やルールを理解させ、健康で明るい学校生活を送るようにする。
 4 指導過程

指導内容	学習活動	指導上の留意点	資料・その他
○男女の異性に対する関心のちがい	1 「異性に対する関心」のクラスアンケートを発表する。 ○男子と女子の関心の持ち方の違いについて考える。 ○「男女の交際について」のアンケートの結果を発表する。	○アンケートはすべて事前に集計し、図表等に表しておく。 ○関心の割合などを県や他県の調査と比較して特徴的なことをとり出すようにする。 ○関心の持ち方に男女差があることに気づかせる。 ○割合の高い回答項目をとり上げ、高率を示している理由を考えさせる。	○アンケートは、1枚の調査用紙に「関心」と「男女交際」の項目をとる。 ○県教育センター研究報告書第10号
○男女交際のあり方	2 男女別のグループにわかれて話し合う。 ○交際の強要の有無 ○相手の気持ちの尊重 ○言葉づかい・態度 ○交際の秘密 ○1対1の交際 ○グループ交際	○ふまじめな学習にならないようにする。 ○男女交際は、次のような効果を持たせるものであることを理解させる。 ・おたがいの人格をみがき、よい影響を与える。 ・異性を理解し、みる目を養う。 ○交際にはお互いに敬愛の心を以って守るべきエチケットがあり、限界があることに気づかせる。	
○友情と恋愛	3 友情と恋愛について、グループでの自由な話し合いをとおして理解を深める。 ○友情と理性 ○恋愛の盲目性 ○相手に対する価値判断の変化 ○友情 ・異性ととの友情 ・同性同士の友情 ○失恋	○恋愛に対する考え方を指導し、将来の問題についての心構えをつくらせる。 ○恋愛についての特徴をまとめる。 ・異性を好きになった理由や条件が判明せず、理性で割り切れぬ感情。 ・ただ1人の異性に限定され、独占的、排他的になる。 ・いつまでも離れがたい感情。 ○男女交際について生徒側で具体的悩みを持っている場合が多いことに留意する。 ○男女交際の目的をよい相手を選ぶという狭い意味に把握せず、民主的な人間関係の育成に向けさせる。	

- 1 主 題 性病の予防（社会への適応）
- 2 指導領域 保健体育
- 3 指導のねらい 性病の現状について知らせるとともに、性病の症状や感染経路について説明し性病の予防法を理解させる。
- 4 指導過程

指導内容	学習活動	指導上の留意点	資料・その他
○既習知識の調査	1 これまでの性病について教えてもらったり、自分で学んだりしたことを発表する。	○性病まん延の歴史と現状とについて知らせる。	○厚生白書
○性病の現状	2 患者数について知る。	○感染原因の特異性を理解させ、本能や自然のままの行動が、人間の幸福につながることを理解させる。	○スライド（アニメーション出版） ○教科書（保健体育）
○性病の種類とその症状	3 スライドを見て説明を聞きながら性病の概略を知る。 ○梅毒 ○りん病 ○軟性下かん ○第4性病 ○感染経路	○胎児への影響や中枢神経の障害、不妊の原因などになることを知らせる。 ○遺伝ではないけれども、子孫に影響することを教える。 ○家庭や社会への影響を考えさせる。 ○一種の亡国病であることを理解させる。 ○掛図を示す。	
○性病の予防	4 感染経路を絶つことが予防になることを理解する。 5 性病の恐しさと予防の方法についてまとめる。	○性病についての無知などによってまん延する原因となることを理解させる。 ○技術的予防にならないようにする。 ○必要以上の恐怖心を起こさせないように配慮する。 ○性病の恐しさがわかり、個人や社会の幸福のために心がけなければならないことを発問によって確める。	

- 1 主 題 結婚の意義（社会への適応）
- 2 指導領域 社会（公民）
- 3 指導のねらい 結婚は単に男女の結合ではなく、人類および社会に寄与する使命のあることを理解させる。
- 4 指導過程

指導内容	学習活動	指導上の留意点	資料・その他
○結婚の意義	1 「結婚の意義と家庭のやくわり」のテープを聞いて、板書項目の意味を具体的に発表し合う。 ○愛情をみよらせ、お互いの人格を高め合うこと。 ○夫婦、家族が協力して生活の基盤をつくる。 ○よい子を産み、育てる。 ○慰安と休息の場を得ること。 ○親から子、子から孫へと、よい文化や思想を伝える。	○周囲から祝福される結婚であることが望ましい理由を考えさせる。 ○最近、結婚についていろいろな考えが提出されているが、男女の問題だけでなく、子どもの幸、不幸にもかかわることを教える。 ○一時の感情やある時代の流行や風潮にまどわされないように慎重に考えさせる。	○テープ（カセット） （生徒の吹込） ○資料 610
○結婚の条件（一般的）	2 テープからの板書事項をみんなで考え、話し合ってみる。 ○本人の意志がはっきりしていること。 ○法律上の要件を満たす。 ○心身とも結婚できる状態にあること。	○一時の愛情は、うつろいやすいものであることを考えさせる。 ○からだの成熟が完了した状態にあるかどうかが大切であることをおしえたい。	憲法 24 条 民法の 731 条 734 条 737 条
○身体的条件	3 板書事項をよく理解する。 ○健康 ○遺伝因子	○優生学的な問題にもふれる。	
○精神的条件	4 テープを聞いたり、板書事項をもとにしたりして考えを深める。 ○純潔○愛情 ○性格○人柄 ○人生観 ○職業○経済力	○性の間違いは、将来のパートナーに強い疑問と不安を与えることにふれる。 ○離婚の原因の第1位を占めているものは、性格の不一致であることを知らせる。 ○愛情や信頼の基礎に経済力も無視できないことを理解させる。 ○平和で楽しい家庭からは人生の落後者ではないことに気づかせる。	
○平和な家庭	5 世代の交代のうまくいかない原因は、社会や家庭にもあることを理解する。		

結婚の意義と家庭のやくわり

人間の親と子のバトンタッチは、おもに家庭の中で行なわれますから、よい結婚をすることがまずたいせつです。では、結婚にはどんな意義が含まれているのでしょうか。また、どんな知識をもっていることがたいせつなのでしょう。よい結婚・よい父・よい子どもの条件を次に考えてみましょう。

結婚は心身ともに健全な二人が、周囲の人から祝福されて一緒になるようにしたいものですが、結婚の意義には次のような五つの意義があります。

1. よい家庭をつくり、その中で男女が愛情をみせあわせ、お互いの人格を高め合うこと。
2. 夫婦、家族が協力して、生活の基盤をしっかりとつくること。
3. よい子を産み、育てること。
4. 心安と休息の場を得ること。
5. 親から子、子から孫へと、よい文化や思想をバトンタッチする基礎をつくること。

最近結婚についてもいろいろの考え方がありますが、結婚は男女の間の問題だけでなく、子どもの幸・不幸にもかかわる大切なことですから、一時の感情やある時代の流行や風潮にまどわされずに、慎重に考えていくことが大切です。

結婚の条件 人生を70年と考え、結婚年齢を25歳とすると45年という長い

年月を、もともと赤の他人であった男女ふたりが、同じ屋根の下で暮らすことですから、考えてみれば、これはたいへんなことだと思います。人生の幸・不幸は、どんな結婚相手を選ぶかということできるといってもいいすぎではありません。したがって、結婚に必要な条件を考えておくことは、今からでもけつて早くありません。

1. まず本人同士の意志がはっきりしていること

憲法の第24条に「婚姻は両性の合意にのみ基づいて成立し、夫婦が同等の権利を有することを基本として相互の協力により維持されなければならない」とあります。これは当然のことですが、恋愛感情だけで簡単にきめるのではなく、結婚に対するお互いの立場や考えかたを確かめた上で、幸福な家庭をさずいていこうとする明確な決意をもつことが必要です。

2. 法律で認められる条件をみたしていること

年齢では男子18歳、女子16歳以上にならないと結婚できませんし、20歳までは親の同意が必要です。(民法第731条、第737条)。また、ある範囲内の近親結婚は認められません。(民法第734条)。

3. 心身ともに結婚できるような状態にあること

からだの成熟は中学生ごろからはじまりますが、じゅうぶんに完成するのは男子で23歳、女子で20歳ごろです。したがって、法律で認められている年齢は身体的にみても最低の年齢です。また、その年になっても、性病のような伝染病にかかっているような場合は、それが完全に治るまでは結婚すべきではありません。

この他にも幸福な結婚をするためには次のようなことを考える必要があります。

身体的な条件 まずなによりも健康が大切ですが、生まれる子どものことを考えて、遺伝的に悪い因子が子どもにあらわれないような注意も必要です。その他、血液型の組み合わせが悪いと、健康な子どもが生まれませんから、この点に注意することもたいせつです。

精神的な条件 精神面でたいせつなことは、まずお互いが愛情と信頼感をもっていることです。そのためには、結婚まで清潔で汚れない心とからだを保つよう努力することです。性の間違いは、将来のパートナーに強い疑問と不安を与えます。つきに、性格や人々が重要な条件です。離婚の原因の大きな理由が性格の不一致です。だから人生観のちがいがなども大きな問題でしょう。その他、職業や経済力も結婚生活に大きな影響をもっています。

この章のまとめ さて、この章も残り少なくなりましたので、人生のバトンタッチの意味を整理してみましょう。

人類は100万年以上の昔から、えいえいとして今日の現在をさずいてきました。今日宇宙時代にはいっていますが、これは現代人だけの努力で実現したものではありません。その反面、社会には犯罪や非行が多く、不幸な人生を送る人もけつて少なくありません。これはもちろん本人の心がけや努力の点で問題があるわけですが、彼らが育った社会や家庭にも原因があります。すなわち、親から子へ、人生のバトンタッチがうまくできなかったからです。平和で楽しい家庭からはけつて人生の落後者はでないでしょう。よい家庭をつくるために、親も子どもともに努力いたしましょう。



社会の条件

個人

家族の条件

将来の子どもの条件

相手の条件

親から子、子から孫へと、よい文化や思想をバトンタッチする基礎をつくること。

夫婦、家族が協力して、生活の基盤をしっかりとつくること。

よい子を産み、育てること。

心安と休息の場を得ること。

よい家庭をつくり、その中で男女が愛情をみせあわせ、お互いの人格を高め合うこと。

結婚の意義

結婚には次のような五つの意義があります。

結婚の条件

人生を70年と考え、結婚年齢を25歳とすると45年という長い

年月を、もともと赤の他人であった男女ふたりが、同じ屋根の下で暮らすこと

から、考えてみれば、これはたいへんなこと

だと思います。人生の幸・不幸は、どんな結婚相手を選ぶかという

ことできるといってもいいすぎではありません。したがって、結婚に必要な

条件を考えておくことは、今からでもけつて早くありません。

まず本人同士の意志がはっきりしていること

憲法の第24条に「婚姻は両性の合意にのみ基づいて成立し、夫婦が同等の

権利を有することを基本として相互の協力により維持されなければならない」と

あります。これは当然のことですが、恋愛感情だけで簡単にきめるの

ではなく、結婚に対するお互いの立場や考えかたを確かめた上で、幸福な

家庭をさずいていこうとする明確な決意をもつことが必要です。

法律で認められる条件をみたしていること

年齢では男子18歳、女子16歳以上にならないと結婚できませんし、20歳

までは親の同意が必要です。(民法第731条、第737条)。また、ある範囲内の

近親結婚は認められません。(民法第734条)。

心身ともに結婚できるような状態にあること

からだの成熟は中学生ごろからはじまりますが、じゅうぶんに完成するのは

男子で23歳、女子で20歳ごろです。したがって、法律で認められている

年齢は身体的にみても最低の年齢です。また、その年になっても、性病の

ような伝染病にかかっているような場合は、それが完全に治るまでは結婚

すべきではありません。

この他にも幸福な結婚をするためには次のようなことを考える必要

があります。

身体的な条件

まずなによりも健康が大切ですが、生まれる子どものことを考えて、

遺伝的に悪い因子が子どもにあらわれないような注意も必要です。その他、

血液型の組み合わせが悪いと、健康な子どもが生まれませんから、

この点に注意することもたいせつです。

精神的な条件

精神面でたいせつなことは、まずお互いが愛情と信頼感をもっていること

です。そのためには、結婚まで清潔で汚れない心とからだを保つよう

努力することです。性の間違いは、将来のパートナーに強い疑問と不安

を与えます。つきに、性格や人々が重要な条件です。離婚の原因の大きな

理由が性格の不一致です。だから人生観のちがいがなども大きな問題

でしょう。その他、職業や経済力も結婚生活に大きな影響をも

っています。

(「おとなへの扉を開く」日本性教育研究会 文進堂)

VII 高等学校の展開例

1 高等学校の指導目標

- 1 生命についての科学的な知識を与え、生命の尊厳を正しく認識させ、人間としての性に対する望ましいあり方を育てる。
- 2 人間の性に関する健全で豊かな情操を培い、現代社会における性情報に対する批判力や選択力を養い、性に対する価値観を高める。
- 3 性を社会生活との関連でとらえさせ、新しい世代の育成に対する責任と自覚を促し、民主的な社会の形成者としての態度を育てる。
- 4 男女の特性を理解させ、異性に対する敬愛の念と相互協力の態度を育てる。

2 指導にあたって

- 1 指導内容の編成にあたって、高等学校の重点目標及び指導目標を達成するために六つの共通項目(「生活習慣」～「社会への適応」)を設定し、各項目と学年配当を考慮し29例の指導内容を選定した。

この指導内容29例の中からとくに重要と考えられる18例を選び出し、現行学習指導要領に基づいて指導するという基本的な考えから、各指導内容を扱うのにふさわしい教科等を想定し、主題名を決定しまとめたのが次ページの一覧表である。表に示す教科等は絶対的なものではなく学校の実態に応じ他の教科等でも充分指導できるものと考えている。その際添印で示してある指導事項の取扱いを充分考慮していただきたい。

選出した18例のうち、各学年1例ずつ計3例については実際に授業を行い、その授業記録等を添えて提示し、他の15例については展開例のみを示してある。

- 2 各教科で扱う展開例には、性教育の観点からの指導事項が当該教科の指導事項とよく一致しているものと、うまく一致していないものがある。

前者は、一部性教育に必要な指導事項をそり入る程度で、ほぼ当該教科の指導理念で指導できる。P86にある、保健で扱う「欲求と適応」がその例である。

後者については、当該教科の各所に散在する指導事項に性教育の観点からの指導事項を加えて1時間の展開例を作成する必要がある。P84に示す生物扱いの「生命の連続性」がその典型例である。またP102にある「愛と人生」を国語科で扱う展開例では、性教育の観点からの指導が非常に強くなっているが、国語科の指導理念をそこなわない範囲において取扱いを工夫していただきたい。

性教育の指導理念を各指導内容ごとに完結させる必要上、多数の指導事項によって構成されている展開例が多くなっている。しかし、必ずしも、各指導内容を1時間で指導することを求めているものではない。展開例を構成する各指導事項の学習が終了した段階で、当該教科内に特別な時間を設定して指導することがのぞましいが、学校の実状に応じて各展開例をいくつか分割して指導してもさしつかえない。

- 3 ロングホームルームについては、グループ討論を中心にした話し合いによる展開例を多く示してあるが、指導内容や学校及び生徒の実態によっては、教師がリードする対話形式の方が効果的であることも考えられよう。P103の「幸福な家庭」はその実践記録である。
- 4 各展開例は男女共学校の生徒を対象にして作成してある。家庭一般、保育及び家庭経営等を履修する女子を対象とする場合には、既習事項を充分活用し、生徒にもっともふさわしい指導過程を作成していただきたい。
- 5 指導事項及び学年配当等はほぼ現行学習指導要領に基づいて作成してあるが、昭和57年度からは新学習指導要領が実施される。このため学年配当が変わる教科や、削除されたり取扱いが軽

減される指導事項がでてくる。性教育の指導理念と生徒の実態を考慮し、各学校の創意工夫を生かしていただきたい。

- 6 展開例に㊦とあるのは巻末の資料集に参考資料を載せてある。また「県教育センター報告書」とは、昭和54年3月、山形県教育センター報告書第10号「性教育に関する研究(1)」のことである。

3 指導内容

学年	1年	2年	3年
生活習慣	★高校生としての自覚 ※ 高校生活の意義 ※ 明るい高校生活	★自己を見つめる ※ 私とは何か？ ※ 自己と他人	★社会へ巣立つ ※ 社会人としてどう生きるか ※ これからの人生設計
生命の尊厳	★生命の発生 ※ 配偶子形成と受精 ※ 初期発生 ㊦生命の連続性 ※ 受精と発生 ※ ヒトと進化(系統発生)	★生命・人格の尊厳 ※ 自己へのめざめ ※ 基本的人権 ㊧高校生の悩みと自殺 ※ 青年期の悩み ※ 高校生と自殺	★人間の生と死 ※ 人間の一生 ※ 生の尊厳・死の尊厳 ★生命の誕生と尊厳 ※ 生命の発生〔科学映画〕 ※ 人間の誕生
身体の成長	㊦成長と成熟 ※ 第二次性徴・内分泌腺 ※ 性器の構造と機能 ㊦欲求と適応 ※ 欲求と行動 ※ 性欲と性行動	㊦受精と妊娠・出産 ※ 受精と受胎 ※ 妊娠の経過と出産 ㊦結婚と家族計画 ※ 受胎調節 ※ 人工妊娠中絶	★社会人としての性 ※ 好しい性のあり方 ※ 結婚・遺伝・優生 〔医学講話〕
心の变化	㊦第二次性徴と性生理 ※ 性器の分化と発達 ※ 性生理に関する悩み ★異性についての悩み ※ 男の心理・女の心理 ※ 性心理に関する悩み	㊦青年期の心理 ※ 青年期の精神発達 ※ 青年期の思考 ㊧高校生の友情と恋愛 ※ 友情と恋愛の違い ※ 恋愛と結婚	㊦愛と人生 ※ いろいろな愛 ※ 愛と人生
男女の協力	㊧高校生の男女交際 ※ 男女交際のエチケット ※ のぞましい男女交際	★男女の特性 ※ 身体的・精神的特性 ※ 男女の役割 ㊧結婚について ※ 結婚の意義 ※ 結婚の条件	㊧幸福な家庭 ※ 家庭の意義と機能 ※ 家庭づくり ㊦法の下での平等と両性の平等 ※ 男女平等と民主主義 ※ 真の男女平等
社会への適応	㊧マスコミと性情報 ※ マスコミの諸問題 ※ マスコミの本質と価値判断 ㊦性病の予防 ※ 性病の種類と症状 ※ 性病と性非行	㊦現代社会の家族生活 ※ 家族の機能 ※ 家庭における人間関係 ★職業生活と健康 ※ 職業病と労働災害 ※ 労働における女性の特性	㊧現代社会の性をめぐる諸問題 ※ 現代社会の特質 ※ 性非行・性犯罪 ※ のぞましい性のモラル

- ：授業実践例を示してある指導内容
○：展開例を示してある指導内容
★：その他必要と考えられる指導内容
※：指導内容を構成する主な指導事項
- 生：生物 I
保：保健
L：ロングホームルーム
現：現代国語
政：政治経済

- 1 主 題 生命の連続性 (生命の尊厳)
2 指導領域 生物 I
3 指導のねらい

ヒトの発生過程を学習させ、系統発生概念から、地球上において生物、とくにヒトがたどってきた進化の様子を理解させることにより、多くの生物とともに生きているヒトの存在意義を正しく認識させる。また、遺伝子が染色体により代々伝えられることを理解させ、生命の連続性と尊厳を認識させる。

4 指導過程

指導内容	学習活動	指導上の留意点	資料・その他
○生殖細胞の形成	1 ヒトの生殖腺と配偶子形成について調べ、雌雄を比較しながらその相違を理解する。 ○ 卵巣 — 卵子 ○ 精巣 — 精子	○ 卵細胞・精子形成という一般化した形で学習が終わっているため、ヒトの卵子・精子について、形態的生理的な面を中心にして理解を深めるようにする。	○ 精巣の構造図 ○ 精子の形成と成熟した精子 ○ 卵巣の構造図 ○ 卵子の形成と卵巣内部変化
○受精	2 受精を次の観点から考える。 ○ 無性生殖と有性生殖 ○ 体外受精と体内受精	○ 有性生殖の意義を正しく理解させるために、ゾウリムシの生殖法や単為生殖を例にあげて説明する。	○ ゾウリムシの生活史 ○ アブラムシの生活史
○遺伝子と生殖	3 遺伝子がどのようにして子孫に伝えられていくかを、染色体の動きを中心にして考える。 ○ 遺伝子と染色体 ○ 遺伝子の複製 ○ 受精と染色体 ・減数分裂 ・受精と両親偶子核の合体	○ 遺伝子こそが生命の本体であり、染色体により過去から受け継ぎ、未来へと伝えられていることを理解させる。 ○ 複製のメカニズムは深入りしない。 ○ 有性生殖における減数分裂の意義を説明し、染色体数が一定に保たれているメカニズムを理解させる。	○ 染色体地図
○胎生	4 胎生について次のことを調べ、生殖法としての意義を考える。 ○ 卵生と胎生 ○ 胎生と哺乳類 ○ 胎盤のはたらき	○ 性染色体異常にも軽くふれる。 ○ 受精から胚膜形成までの発生は前時で扱う。	○ XO, XXY など
○胎児の发育過程	5 ヒトの胎児が发育する過程を調べ、次のことを理解する。 ○ 脊椎動物の胚は発生初期ほど互によく似ていること。 ○ 胎児がヒトとしての形態と機能を備えていく様子。	○ 卵胎生の動物を比較例として示す。 ○ 卵生哺乳類の説明も入れる。 ○ 子宮胎盤についても軽く扱う。 ○ 母体との関係づけは他の時間に学習させる。 ○ 進化の概念に気づかせる。	○ カモノハシ ○ 胎盤模式図
○ヒトがたどってきた進化の連続性	6 系統樹を胚の発生過程(卵割の形式や胚葉形成)と関連づけて考える。 ○ 系統樹を見て、ヒトが分類上どこに位置づけられているかを知り、進化してきたみちについて話し合う。	○ 胎児の体内器官が分化する様子を図解などを用いて説明し、ヒトとして機能していることを認識させる。 ○ 分類上の位置づけには、ヒトがたどってきた過程も意味づけられていることを知り、時間的空間的に大きな広がりの中に存在していることを認識させる。今ある自分の生命は今だけの生命だけではない、ということを理解させ、生命の尊厳に対する認識をより一層深める。	○ 脊椎動物の胚発生を比較した図。 ○ 性器官の分化を示す図(性腺, 外性器) ○ 系統樹 ○ ヘッケルの進化再演説

5 授業の記録

(1) 欲求と適応(本時の導入及び次時と本時の関係をとらえさせる)

T₁ 今朝ごはん食べてこなかった人、いますか?

P₁ <1名挙手>

T₂ 先生も食べてこなかった。昨夜食べ過ぎたんでね。あなたはどのように食べてこなかった?

P₂ 朝おそ起きたので、食べる時間がありませんでした。

T₃ 先生は今朝は全然食べたくなかった。あなたは時間がなくて食べてこなかったんですね。同じく食べてこないのだけでも、ちょっと内容が違うようだね。

T₄ (『欲求と適応』と板書し、適応を英語では何というか、という話題で生徒と2~3応答しながら、本時の導入および本時と次時の関係を簡単に説明する)

(2) 欲求と行動

T₅ さて、空腹の場合はどうしますか? (指名)

P₃ ごはんを食べます。

T₆ うん。欲求というのは身体内部の欠乏を言い、何かほしい、食べたい、というかたちで出てくる。身体には生理的欲求に対しても心理的欲求に対しても、それを平衡にしておく機能がある。欲求を充足するという事は、行動というかたちになって現れます。

(3) 欲求の種類

T₇ 生理的欲求というのは生まれながらの欲求で、生存に不可欠のものである。さて、その生理的欲求にはどんなものがありますか? (指名)

P₄ 食欲とか排泄とか……。

T₈ ほかにもっとないかな? (指名)

P₅ 休息や渇き。それから呼吸や睡眠があります。

T₉ そのほかにはないかな? (少し時間をおいてから)性欲ということばを聞いたことはないかな?

P₆ <反応なし>

T₁₀ この性的欲求を生理的欲求に入れてもよいだろうか? 排泄とか睡眠と同じ範ちゅうに入れてもよいだろうか? ちょっと違うと思う人、手を挙げてみて?

P₇ <挙手多数>

T₁₁ うん、私も違うと思うけど、どういうふうに違うのかな? (指名)

P₈ 性欲は心理的欲求に入ります。

T₁₂ あなたは? (別の生徒を指名)

P₉ 私も、性欲は心理的欲求に入ると考えます。

T₁₃ 性欲は心理的欲求に入ると思う人は?

P₁₀ <挙手多数>

T₁₄ どう違うかという、性欲は成長するに従って芽ばえてくるということで、人間の成長に従い社会生活のなかからでてくる。つまり現れ方が排泄や睡眠とは違っているということなんです。この性欲は生理的欲求に入れられているんです。

では次に、欲求の代表的なものをノートに書いてみよう。教科書からでもいいです。

P₁₁ <ノートに欲求を分類しながらまとめる>

T₁₅ 生理的欲求とはそれを阻止すれば、たとえば体罰などで苦痛を訴えどこまでも阻止すれば死につながることもある。非常に大切な基本的な欲求である。

T₁₆ みんなの勉強部屋、寝る部屋と一緒にだと思いが、親からのぞかれるとうるさいと思う人は? 反抗したくなる人は手を挙げてみて?

P₁₂ <大部分挙手>

T₁₇ そういう人は正常に発育している人なんです。これを独立の欲求といいます。

(4) 青年期の欲求の特徴

T₁₈ 性的欲求が大切なので、これについて説明しよう。まず、性的欲求にはどんなものがあるだろうか? あげてみてください。(指名)

P₁₃ 異性を好きになるとか、好かれるとか。

T₁₉ 男の友人はいるかい? 特別の男性がいる人は? あるいはもちたいと思う人は?

P₁₄ <挙手なし>

T₂₀ じゃ、ほしくないとと思っている人は?

P₁₅ <挙手なし>

T₂₁ 性的欲求には、異性への関心、接近欲、接触欲、性交欲などがある。これらの欲求の現れ方は男子と女子ではかなりの違いがあります。まず、なぜこういう欲求が現れるのか、そのしくみについて説明してみよう。(ホルモンの働きを中心にして板書しながら説明する)

(5) 人間らしい生き方

T₂₂ 性欲をおさえようとする働きは、脳でいへばどこですのですか? (指名)

P₁₆ わかりません。

T₂₃ それは大脳新皮質だ。手ごころを加えているところはここなんです。(板書し説明する)

6 生徒の感想

A 私だけが悩んだりしているのではない、ということがわかりました。

B 欲求があるということは大切なことだと思いました。とくに心理的欲求が大切だと思います。

C 私は性的欲求は心理的欲求だと思っていたのですが、生理的欲求に入るということを今日の授業で初めて知りました。でも心理的なことを考えるとどうなのでしょう?

D 性的欲求については授業が始まる前にはみんなで「いろいろ話したいね」などといったのですが、いざその話になると恥ずかしいような気がしてとても困りました。

E 自分は正常なんだ、ということがわかりました。でもプライベートなことまではあまり聞かないでほしいと思いました。

F せっかく性的欲求のところまで性交までいったのに、急にホルモンの話になったのですごく残念に思いました。現在の性の混乱を直すためにも、そちらの方をもっと教えてもらいたかった。もしも他の先生達がうしろの方にいなかったら、私達をもっと違った反応をしたでしょう。

G あまりハッキリいすぎ!!

7 考察

本時において「欲求と行動」を指導し次時において「適応」を扱い完結する。生徒Fの不満は次時において解消すると考えられる。一つの指導案を分割して指導する場合、全体とのかかわりを充分考慮していただきたい。

授業記録において、生徒の大多数が、性欲を心理的欲求としてとらえている点が注目される。これは性に対する女子生徒の意識の特徴を示すものであり、教科指導に限らず他の指導においても参考にすべきことであろう。

生徒の感想Aと同一内容の感想を述べている児童生徒が小・中・高等学校を通じてかなり多かった。とくに性生理に関する授業後の感想に多かったことは、正しい知識を与えることにより、性に関する悩みや不安をかなり解消してやれることを示しているのではないだろうか。しかし一方においては、FとGにみられるような性意識の個人差が学習効果に大きな影響を与えることに注意せねばならない。このことは性教育における一斉指導のむずかしさを示すものであろう。一斉指導と個別指導の調和のとれた指導計画が必要とされるゆえんである。

- 1 主 題 第二性徴と性生理（心の変化）
 2 指導領域 保健体育
 3 指導のねらい

第二性徴による急激な身体の変化にともない、不安や悩みが多くなる時期である。とくに性生理に関する悩みは、確かに信頼できる相談相手が得にくく、悩みは深刻になりがちである。科学的で正しい性知識を与えることにより、性生理に関する悩みを解決させるとともに、不必要な劣等感を解消させる。

4 指導過程

指導内容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資料・その他
○第二性徴と性器の発達	1 第二性徴についてまとめる。 ○第一次性徴と第二次性徴 ○性器の分化と発達 ○性器の構造とはたらき ┌ 男性器 └ 女性器	○第二性徴については学習が終わっているので、復習としてまとめながら進める。 ○ホルモンの働きにより性器が発達し生殖機能が完成することを理解させる。	○成年男子と女子の外性器図 ○県教育センター報告書
○性器の異常	2 性器の異常について理解する。 ○先天的異常（奇形） ○形状の個人差	○男女合同の授業では、個人差があるという程度の説明にとどめる。 ○奇形については深入りしない。	
○第二性徴発現の個人差と疾病	3 第二性徴の発現について、各々最初と最後の年齢を比較し、その差を出してみる。 ○性に関する疾病の説明を聞き、自分の体の様子を考える。	○信頼できる統計資料を用いて、発育の個人差がいかに大きいかに気づかせ、不安を除く。 ○疾病については、必要に応じてふれるようにする。	
○男子の性生理	4 次の事項を整理し理解する。 ○精通・夢精・射精 ・射精のメカニズム ・射精と性機能 ○マスターベーション ・自慰の意味 ・自慰の実態 ・性衝動と自慰 ○性衝動とコントロール ・スポーツ ・サークル活動 ・男女交際	◎男子のみの授業では4を詳しく扱い5は補助的説明にとどめてよい。 ・精通は男性としての性機能完成を意味していることを理解させる。 ○統計資料を用いて全体の傾向を示し不必要な罪悪感を除く。 ○ただし、自慰行為をすすめるものではないことに留意する必要がある。 ○青年期になると急激に性欲が高まるが、それをコントロールすることの必要性を理解させ、健全な昇昇法を考えさせる。	
○女子の性生理	5 次の事項を整理し理解する。 ○月経の正常と異常 ・月経のメカニズム ・性周期の個人差 ・生理不順・生理痛と疾病 ○月経と性機能 ○妊娠と月経	◎女子のみの授業では5を詳しく扱い4は補助的説明にとどめてよい。 ○初潮が女性としての性機能完成に密接な関係があることを理解させる。 ○女子の自慰は他の機会に扱う。 ○妊娠のメカニズム、特に妊娠による月経停止について正しく理解させる。	
○悩みの解決法	6 悩みはどうしたら解決するか、そのためにどうしたらよいかを話し合う。	○正確で信頼できる相談相手や書籍を求めることが大切であることを強調する。	

- 1 主 題 高校生の男女交際（男女の協力）
 2 指導領域 ロングホームルーム
 3 指導のねらい

高等学校時代の男女交際における基本的態度を考えさせ、高校生として望ましい男女交際のあり方と男女交際でお互い守るべきエチケットについて理解を深めさせる。

4 指導過程

指導内容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資料・その他
○男女交際の実態	1 男女交際の実態についてクラスの調査結果を発表する。 ○県全体の集計資料を示しクラスの実態と比較してみる。	○前もってホームルーム委員を中心に、クラスの実態を調査しておく。 ○県全体の資料も用意しておく。	○クラスの調査資料 ○県教育センター報告書
○男女交際の意義	2 班毎に話し合い、まとめた意見を発表する。 ○男女交際の目的は何か ○高校生活と男女交際 ○同性の友人と異性の友人について、その違いを考える。	○次の事項が中心となって話し合いが深まるよう配慮する。 ・異性の理解 ・人間の性と男女交際（人格的なふれ合いの場として考えさせる） ○男女交際の根底にある人間の性を認識させながら、単なる性的な結びつきでない人格的なふれ合いが大切であることを理解させる。	
○男女交際の形態	3 グループでの交際と1対1の交際について話し合う。 ○両者の長所は何か。 ○両者の短所は何か。 ○お互いに気をつけねばならないことはどんなことか。	○グループ交際と1対1の交際について違いを話し合わせ、その時お互に心がけるべきことをまとめさせる。 ○興味本位的な発言が全体の雰囲気をこわすことのないよう、本時全体にわたり充分配慮する必要がある。	
○男女交際の限界	4 男女交際の限界について、調査結果を発表し、それについて話し合う。 ○県全体の傾向と比較する。 ○話し合いの発展として次の事項も考えてみる。 ・友人としての交際 ・恋人としての交際 ・高校生の恋愛について ・純潔について	○前もってホームルーム委員を中心に、生徒の考え方を調べさせておく。 ○高校生として望ましい男女交際のあり方とその限界について話し合いを深めさせる。 ○友情と恋愛については深入りさせずその違いを簡単に説明しておく。 ○余裕があれば「純潔」についても話し合わせる。	○クラスの調査資料 ○県教育センター報告書
○男女交際のエチケット	5 男女交際で、お互いが気をつけたり守り合わなければいけないことについて話し合う。	○男女交際のエチケットやルールについて、自分達の体験を通した具体例を挙げながら検討させる。	
○高校生としての男女交際	6 高校生として望ましい男女交際のあり方、心がまえについて話し合ったことをまとめる。	○男女交際は恋愛に変わる傾向にあるが、高校時代は共に学び励まし合う異性との友情こそ尊いものであることを理解させる。	

- 1 主 題 マスコミと性情報（社会への適応）
 2 指導領域 ロングホームルーム
 3 指導のねらい
 情報化社会に生きる人間として、どのような姿勢で生きていくことが必要であるかを考えさせ、多種多様な情報を的確に選択し処理する能力を育てる。
 4 指導過程

指導内容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資料・その他
○マスコミの種類と性情報	1 日ごろ接しているマスコミの種類を発表する。 ○各マスコミでは性の問題がどのように取扱われているか、またその内容の質的価値はどうであるかについて、班毎に話し合い、発表する。	○生徒が接するマスコミの種類と役割について前もって調査しておく。 ○班毎の話し合いは、以下の学習活動のための導入として扱う。班毎の発表はクラス全体の情報交換にとどめ、2 以下を考える素材にさせる。 ○余裕があれば分類整理させる。	○生徒が作ったマスコミの種類調査表 ○マスコミの分類（メディアの性質） 1 印刷物 新聞、雑誌、書籍 2 音、音と映像 ラジオ、テレビ、映画
○マスコミの意義	2 現代社会生活からマスコミがそのはたらきを停止したら、日常生活がどうなるか話し合う。	○ここは軽く扱い次に進ませる。 ○マスコミが無意識のうちに日常生活に密着し、大きな影響を与えていることに気づかせる。	
○マスコミの重要性と問題点	3 生徒の調査結果をもとに、マスコミが果たしている役割の重要性と問題点についてグループごとに話し合う。その結果を発表し全体でまとめる。 ・マスコミが文化発展に役立っている点は何か。 ・マスコミの問題点としてはどんなものがあるか。	○グループごとの話し合いに充分時間を取り、次のことに気づかせる。 ・役割として考えられる事項。 ・迅速性（同時性） ・公開性（文化の大衆化） ・大量性（同一性） ・世論の形成 ・問題点として考えられる事項 ・情報の一方通行 ・情報の画一化（無個性化） ・情報の商品化（商業主義） ・情報操作による世論操作	
○マスコミの報道と事実	4 情報の提供者によって内容の扱い方に違いがあることを理解する。 ○新聞記事にみられる相違 ○週刊誌などの記事と事実 ・興味本位的表現 ・事実の誇張とわい曲 ○一方的情報伝達 ・完全に受け身なのか？	○身近な出来ごとについて、新聞社により取り扱い方が違う例を具体的に比較させ、マスコミが伝える情報とは何であるかを考えさせる。 ○記事の内容によっては、生徒の実態に応じて、生徒が日常接する週刊誌を素材にすることも考えられる。	○同じことがらを扱った数社の新聞切りぬき。
○マスコミに対する態度	5 マスコミの本質とそれに対する正しい姿勢はいかにあればよいかをまとめる。	○マスコミは人々に豊富な情報を提供するが、それを的確に選択し処理することの重要性を自覚させる。	

- 1 主 題 性病の予防（社会への適応）
 2 指導領域 保健体育
 3 指導のねらい
 性病の種類と症状及び感染経路を科学的に説明し、性病が人格を破壊し、家庭や社会をも崩壊させている実状を理解させ、性病予防の必要性を、個人的な立場と社会的側面から認識させる。また性病が性非行と密接な関係にあることも理解させる。
 4 指導過程

指導内容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資料・その他
○性と性病	1 性病について知っていることをあげる。	○性病という言葉は知っているものの正確な知識のない生徒が多いことに留意する。	○性病に関するスライドや写真
○性病の種類	2 性病の種類と症状について、その病原体と感染経路を関係づけて理解する。 ・淋病-りん菌 ・梅毒-スピロヘータ ・軟性下疳-桿菌 ・第四性病-ウィルス	○各性病について、症状の病理的説明はあまり詳しくなくてよいが、スライド等を用いて、性病の恐ろしさを視覚的にとらえさせるとよい。 ○治療法については軽くふれる程度でよい。 ○性そのものに対する恐怖心や不潔感が起こらないよう充分配慮する。	
○性病による弊害	3 性病の弊害について、自分自身の身体だけでなく他に与える影響についても考える。 ・人格の崩壊 ・家庭の不和 ・社会人としての立場 ・先天的梅毒	○性病とは、単に病人自身の身体上の疾病だけにとどまるものではなく、家庭生活や社会生活にまで影響を及ぼすものであることを理解させ、性病の恐ろしさを認識させる。 ○子孫にまで影響を与える疾病であることを理解させる。	
○性病の実態	4 最近のデータからその実態を知り、そこに潜む問題点を探る。 ○青少年と性病 ○性病と性非行	○次の点を理解させ、身近な問題であるという認識を促す。 ・青少年層に増加傾向がみられる。 ・性非行と密接な関係がある。	○性病の種類と患者数を示す統計資料⑧
○性病の予防対策	5 性病を防ぐにはどうしたらよいかということを考える。 ○自分自身の問題として ○社会問題として	○単に性病にかからないためというだけではなく、性病の撲滅という点から考えさせる。 ○社会全体の性モラルの確立が急務であるが、その基礎は各個人の性モラルにあることを自覚させる。 ○性病予防法が制定されていることを知らせる。	○「性病予防法」昭和23年9月実施
○健康な性を育てる	6 人間の性にかかわる問題を、生物学的な面からだけではなく、人格と結びつけて考える。	○一時的な性衝動にかられて、生涯とりにかえしのつかない病根を残すようなあやまちをしないよう、性に対する正しい価値観と、しっかりした生活態度を育て上げることが必要であることを理解させる。	

1 主 題 高校生の悩みと自殺（生命の尊厳）

2 指導領域 ロングホームルーム

3 指導のねらい

近年、中高校生の自殺者が増加する傾向にあるが、心身発達のアンバランスから生じる青年期特有の悩みがその動機の一因として考えられる。人生における青年期の意義と特徴を理解し、悩みに対し積極的に取り組むとともに、明るい有意義な高校生活のあり方を考えさせる。

4 指導過程

指導内容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資料・その他
○高校生と悩み	1 悩みについてクラスの集計結果と県全体の実態を比較する。 ○いろいろな悩みを分類整理し悩みの全体像をとらえる。 ○高校生にとって悩みとは何なのかを話し合う。	○事前にホームルーム委員を通し、具体的な悩みを調査し整理しておく。 ○次のような分類項目が考えられる。 ・身体的な悩み ・学業関係 ・精神的な悩み ・性・異性関係 ・社会的な悩み ・交友関係 ・進路関係 ○自分だけが悩んでいるのではないということを充分認識させる。	○悩みに関するクラスの調査集計表 ○県教育センター報告書
○悩みと人生	2 悩むことは価値のないことなのかどうかをグループごとに話し合い、発表する。 ○悩む自分を責める必要がたろうか。 ○悩みから逃避する生き方はどんな人生になるだろうか。	○話し合いを通して次のことが理解されるよう配慮する。 ・悩みは人生を本気で見つめるからこそ生じるものであり、人間形成の原動力である。 ・したがって、積極的に悩みと取り組んでいく態度こそすばらしい生き方である。	
○高校生と自殺	3 自殺についてグループごとに話し合い、その結果を発表する。 ○自殺に関する統計資料から、実態や動機を調べる。 ○自殺者の手記を読み、自殺者の心の動きを追ってみる。	○悩みの調査と一緒に、自殺を考えたことがあるかどうかを質問しておく。結果の集計は全体に対する割合程度にとどめ詳しくなくてよい。 ○班毎の話し合いに充分時間をとり、発表は情報交換として扱う。 ○自殺者の手記から、動機や自殺に至った過程を明らかにし、自殺回避の方法がなかったかどうかを話し合わせる。	○青少年の自殺統計⑧ ○自殺者の手記
○自殺について	4 自殺がまわりの人々に与える影響について話し合う。 ○自殺する者と残される者（家族・友人など） ○自分の生命と社会の人々	○グループごとの話し合いの結果を発表させ、それを全員で討議させながら、生命の尊厳を認識させる。 ○他の人々とのかわり合いを中心に生徒自身を見つめさせる。	
○生命の尊厳	5 高校生は人間の一生においてどんな位置にあるか、また現在をどう生きればよいかを話し合い、まとめる。	○青年期の意義を正しく理解させ、悩みに積極的に取り組む姿勢を促し、自分の生命は何ものにもかえがたいことを認識させる。	

1 主 題 受精と妊娠・出産（身体の成長）

2 指導領域 保健体育

3 指導のねらい

妊娠・出産に関する科学的な知識を与え、母親がいろいろな困難や危険を乗り越えて新しい生命を産むことを理解させる。将来元気で丈夫な子供を産み育てるために父親と母親が果たす役割を認識させ、将来にむけて高校生活をどう過したらよいかを考えさせる。

4 指導過程

指導内容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資料・その他
○妊 娠	1 妊娠までの過程を卵子と精子の動きを中心にして理解する。 性交→射精→精子のペン毛運動→受精→受精卵の移動（胚の初期発生）→着床（受精） ○次の事項を正しく理解する。 ・受精（受精卵と精子の合体） ・受精（受精卵の着床）	○性交については言葉だけで説明する程度でよい。 ○受精の瞬間から新しい生命が誕生していることを理解させる。 ○受精卵・子宮内膜、卵巣黄体の三つの相互関係が理解できるように留意する。	
○妊娠の経過 〔受精〕	2 胎児の発育する様子をスライドや図版を見て理解する。 ○妊娠にかかわること ・妊娠と月経の停止（妊娠中のホルモン作用） ・胎盤の形成とそのはたらき ・胎児の発育過程	○視覚的に理解できるよう配慮する。 ・胎児はすでに人間としての生命を持っていることを理解させる。 ・妊娠を新しい生命の誕生という観点からとらえさせる。	○胎児の発育を示すスライドまたは図版
〔出産〕 〔分娩〕	○出産のメカニズム ・陣痛→分娩→後産→産じょく ・陣痛とホルモン作用の関係	○胎盤の重要性を、妊娠中の健康と関係づけて理解させる。 ○男女の協力的理解をはかる。 ○娩出は軽く説明する程度でよい。 ○女子に妊娠や出産に対する恐怖感を与えぬよう配慮する。 ○異常分娩については深入りしない。	
○母性保健	3 妊娠中の健康についてその重要性を考える。 ・母体の健康→胎児の健康 ・妊娠中及び出産前後の主な疾病について理解する。 ・妊娠中毒症 ・子宮外妊娠 ・流 早 産 ・産じょく熱	○妊産婦の疾病については、主なものについて軽く説明する程度にとどめた方がよい。 ○健康な子供を産むためにはまず第一に母体が健康でなければならないことを理解させる。 ○妊娠中を健康な状態で経過するためには今のうちから健康なからだづくりを心がける必要があることを自覚させる。 ○遺伝や特殊血液型によって起こる胎児の異常については扱わなくてよい。	
○妊娠・出産 と健康	4 将来の妊娠・出産及び健康な家庭生活のために、高校生として望ましい日常生活のあり方考える。	○妊娠・出産及び母性保健の意義を理解させ、それに備えて今のうちから有意な高校生活を送るよう心がけることの必要性を自覚させる。	

- 1 主 題 結婚と家族計画（身体の成長）
 2 指 導 領 域 保健体育
 3 指 導 の ね ら い

受胎調節の正しい知識を与え、人工妊娠中絶の弊害を充分理解させて、人間尊重の立場から
 明るい幸福な家庭を築くために必要な家族計画の意義とあり方を考えさせる。またその根底に
 ある優生思想を全人類の見地から正しく理解させる。

4 指 導 過 程

指 導 内 容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資 料 ・ そ の 他
○結婚の意義	1 結婚の意義を考え、好ましい家庭生活に必要な条件を検討する。	○結婚の意義を理解させ、好ましい家庭生活を営むために必要な家族計画に気づかせる。	
○家族計画	2 健康で豊かな家庭生活を営むにはどのような家族計画がいかを理解する。 ・夫婦の健康状態 ・夫婦の年齢 ・子供の数と年齢間隔 ・経済力 ・社会的条件	○両親の同胞数と生徒の同胞数を比較させるなど、身近な問題としてとらえさせる。 ○子供の数と年齢間隔については、家族の人間関係という観点からも考えさせる。 ○高齢出産の新生児に見られる異常等については深入りしなくてよい。 ○人口問題についてもグローバルな観点から簡単に説明する。	○世界の人口統計（人口の変化） ○教科書 ・大修館 ・講談社 ・一橋出版などによる。
○受胎調節	3 受胎調節の必要性を家族計画と結びつけてとらえ、その原理を科学的に理解する。 ○月経周期を利用する方法 荻野式、基礎体温法 ○器具を用いる方法 コンドーム、ペッサリー、避妊リング（IUD） ○薬品を用いる方法 錠剤、ゼリー、ピル	○受胎調節は、性のもつ快楽追求だけを考えただけの単なる妊娠回避手段ではないことを充分理解させ、避妊への興味をあおらぬよう注意する。 ○受胎調節についての技術的・操作的説明は必要ない。 ○教科書の扱い方にとらわれず、生徒の実態を考慮して説明する。	
○人工妊娠中絶	4 人工妊娠中絶がどんな手術であるかを知り、問題点を考える。 ・中絶の現状はどうか ・年齢別・既婚・未婚別 ・中絶した理由 ・中絶が招く弊害は何か ○中絶が認められる条件があり安易に行なわれるべき手術ではないことを理解する。	○中絶の原理を科学的に説明し、母体に及ぼす悪影響について充分理解させる。弊害として次の例を示す。 ・心理的・精神的ショック ・不妊・子宮外妊娠・習慣性流産 ○中絶に至った原因を調べ、望ましい性のあり方を考えさせる。 ○中絶が本質的には新しい生命を奪い取る行為であることを認識させる。	○中絶に関する資料⑤
○家族計画と受胎調節	5 受胎調節を優生思想及び家族計画と結びつけてまとめる。	○受胎調節とは優生思想にもとづく家族計画を実施するために行われるものであることを充分理解させる。	

- 1 主 題 青年期の心理（心の変化）
 2 指 導 領 域 倫理社会
 3 指 導 の ね ら い

精神の発達面に重点を置き、人間の一生において、青年期における精神の発達がいかなる位置を占め、どのような特徴をもち、そこに潜む問題点は何であるかを客観的に理解させる。

4 指 導 過 程

指 導 内 容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資 料 ・ そ の 他
○青年期の精神的発達	1 精神面のはたらきを次のように分類し、それぞれについて資料と比較しながら、自分達に見られる変化を確かめる。 ○知的発達 ・知能の発達 ・記憶力の消長 ○感情の発達 ・青年期の不安定な感情 ・情操〔美的・知的・道徳的・宗教的情操〕	○人生を次のように区分し青年期の位置づけを確認させる。 [乳児期・児童期・青年期・壮年期・老年期] ○生徒自身の変化だけではとらえにくいので、科学的な測定データを用いて理解を深める。 ○具体的な例をあげて説明する。 ・箸がころんでも笑いたい年頃 ・美的情操は異性へのあこがれに通じるものであることを理解させる。 ・子供の頃の道徳観と対比して考えさせる。 ・宗教については深入りしない。 ○発達心理学の見地から大まかに説明し、あまり比較に深入りしない。	
○青年期の思考	2 青年期の特徴を思考法の面から他の時期と比較してみる。 ・マージナルマン（境界人、周辺人） ・子供、青年、大人の違い ○青年期の思考特性としてあげられる次の点について、どのように対処すればよいのかを考える。 ・主我主義（長所と短所） ・過激主義 ・虚無主義（価値の滅却観） ・非合理主義	○集団所属意識の不安定な時刻であることを理解させる。 ○三者の思考の違いを説明し、青年期の動機論的思考が第二の誕生といわれる自我発見に当たることを理解させる。 ・長所例—大冒険など ・短所例—生徒の日常生活から ・自制心の自覚を促す ・劣等感、厭世感、哲学への関心等に関連づけて説明する。 ・自殺について注意を促す。 ・I・F・D型について説明する。 ・非行への注意を促す。	
○自己の確立と人間形成	3 自立の問題について考える。 ・自己を客観的に見つめる訓練 ・自己の社会的役割の認識 ・自己を社会的に生きるためのよき範例に同一視させる訓練 ・自己固有な内面的世界の発見	○青年期は、新しい価値体系が確立されようとしている時期であり、第二の誕生とまで言われている。この時期の心構えが今後の人生を大きく左右するものであることを充分認識させる。	○I・F・D型 I：理想主義 F：フラストレーション D：非行に陥る I→F→Dという一つのパターンがみられること。

1 主 題 高校生の友情と恋愛（心の変化）

2 指導領域 ロングホームルーム

3 指導のねらい

友情と恋愛の違いを理解させ、高校生としての男女交際のあり方を考えさせて、責任ある男女交際となるよう常に心掛ける態度を養う。

4 指導過程

指導内容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資料・その他
○友情について	1 どんな人が親友であるか具体的な要素を話し合いを通して整理してみる。 （全体的話し合い） ・同性の親友 ・異性の親友 ○友情を支えているのは何であるのかを、友情がこわれた時のことを参考にして考える。	○事前に、高校生の男女交際は、友人としての交際にとどめるべきか、恋人としての交際でもかまわないかについて、生徒の考えを調査しておく。 ○1,2は簡潔に扱い、3,4を考える素材になるような話し合いにさせる。 ○生徒のプライバシーにかかわることもあるので、具体例が出される時は話し合いの進行に充分配慮する。	○クラスの意識調査
○友情と恋愛	2 友情と恋愛の違いを各班毎に話し合い、まとまった意見を発表する。 ○異性との友情を維持するために、どのようなことに心がける必要があるかを話し合う。	○異性の親友があれば、恋人との違いを具体例で考えさせる。 ○話し合いの中で、友情と恋愛の違いを教師が説明する。この時、生徒達の考えを一方向的に否定しおさえつけてしまうことのないよう注意する。	
○恋愛と結婚	3 恋愛と結婚について「お互いの責任」ということに話題の中心をおいて全体で話し合う。	○恋愛が発展した場合、結婚に結びつくことを理解させ、相手に対する社会的責任があることを認識させる。	
○高校生としての男女交際と恋愛	4 高校生の男女交際は友情にとどめるべきか、恋愛にまで発展してもかまわないかについて、事前の調査結果を参考にしてグループごとに話し合う。 グループごとの意見を検討しながら、高校生としての男女交際と恋愛について考える。 ・高校生活の目的と意義 ・人生における現在の位置 ・人間形成と異性 ・責任のとれる限界	○恋愛と結婚は全く別であるという考えが出された時は、恋愛と結婚が自分の人生にとってどんな意義を持つか真剣に考えるよう助言する。 ○固定的閉鎖的交際になりがちな恋愛と流動的開放的交際のどちらが有意義な高校生活になるか考えさせる。 ○恋愛に対するムードの肯定論に話し合いが流されてしまうことのないように慎重な配慮が必要である。 ○「男女交際の限界」に見られる性意識の男女差を示し、恋愛観にも男女差があることを理解させる。	○県教育センター報告書
○高校生の友情と恋愛	5 高校生の男女交際を、人間形成という観点からとらえ、友情と恋愛についての考えをまとめる。	○友情は恋愛にまで発展することが多いので、その時高校生としてどこまで責任ある交際ができるかを充分考慮し、自己の感情をコントロールする必要があることを理解させる。	

1 主 題 結婚について（男女の協力）

2 指導領域 ロングホームルーム

3 指導のねらい

人生における結婚の意義の重大さを理解させ、健全で幸福な結婚をするための条件を考えさせる。結婚に関する種々の側面の中から、生物的、法律的、社会的な面を取り上げて、生徒に関心を持たせながら自分達の問題として真剣に考えさせる。

4 指導過程

指導内容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資料・その他
○結婚の意義	1 結婚はどんな意味を持っているかということについて、グループごとに話し合い、発表する。 ○精神的意義 男女両性による愛情、人格、教養の欲求充足 ○生物的意義 性欲の充足、子供を産み育てる。安息の場 ○社会的意義 経済生活、生産活動の基盤、社会的地位の確立	○ホームルーム委員を通し、事前に右のような調査を行い整理させておく。 ○結婚の意義を理解させ、特に異性と第二の人生を送る出発点であることを認識させる。 ○結婚のあり方を歴史的に見ると、精神的意義と社会的意義はその時代の影響を受けて変化するものであり、その時代にもっともふさわしい結婚のあり方を求める必要があることを理解させる。 ○一夫一婦制で、しかも永続的共同生活であることを充分認識させる。	○結婚に関する事前調査項目。 ・両親の結婚形態 ・配偶者選択の条件は何かあったか。
○結婚の形態	2 見合結婚と恋愛結婚の長所と短所を調べ、短所を補う方法についてグループごとに話し合い発表する。 ○見合結婚 長所－第三者の客観的価値判断 短所－結婚生活が先になる。 ○恋愛結婚 長所－精神的理解が先にある。 短所－感情的な判断の誤り	○二者択一の問題として扱わず、両者の長所と短所について、グループごとに十分な話し合いができるように配慮する。 ○現在では、両者の長所を取り入れて恋愛が成立しても冷静な第三者の意見に充分耳を傾け、見合いをしても婚前交際により愛情が芽ばえる可能性があるかどうか確かめてから結婚するケースが多いことを知らせる。	○両親の結婚形態〔クラスの調査結果〕
○幸せな結婚の条件	3 結婚の条件と配偶者の選択について話し合う。 ○客観的条件 ・肉体的条件－生理的成熟、遺伝病、性病、近親結婚 ・経済的条件－生活能力 ・精神的条件－判断力・行動力 ・環境的条件－自己の立場 ・法律的条件－法が認める結婚 ○主観的条件・相互の愛情	○調査資料を示し参考にさせる。 ○結婚が愛情だけで充分であるかどうかを、各条件について考えてみる。 ○離婚件数が増加していることを取り上げ、どんなことが離婚の原因になっているかを調べさせ、幸せな結婚の条件は何であるかを探らせる。 ○グループ毎に充分討議させ、まとまった意見を出し合いながら、幸せな結婚の条件を確かめる。	○両親の配偶者選択理由（クラス） ○離婚に関する統計⑧
○幸せな結婚のため	4 将来幸せな結婚をするために、現在の高校生活をどうすごせばよいかを話し合い、まとめる。	○結婚の意義が正しく理解されたか確認し、今の生活が将来の結婚に大きな影響を与えることを自覚させる。	○婚前交渉が招いた不幸事例

1 主 題 現代社会の家族生活〔社会への適応〕
 2 目 標 家庭における人間関係を学習させ、健全な家族のあり方について考えさせる。

- 3 指導にあたって
 (1) 主題設定の理由
 近年本校生徒の家庭においても核家族化が進んでいる。現代家族の成立について学習させることにより、その特徴と機能を理解させる。また現代家族生活に見られる問題を明らかにし、それに対する解決方法を考えさせ、現代社会における健全な家族員として生活しようとする自覚を促す。
 (2) 生徒の実態
 女子45名、ややひかえ目であるが、自分の考えを率直に発表する生徒が多い。
 (3) 留意事項
 ① 本時のテーマを事前に伝えておき、家庭で話し合いをさせておく。
 ② 夫婦が家族の主體的形成者であることを明確に認識させる。
 ③ 知的理解だけにとどまらず、現代家族の健全な一員として生活する態度を養う。

4 指導過程 (倫理社会)

指導内容	学習活動	指導上の留意点	資料・その他
<ul style="list-style-type: none"> 現代家族の特徴 現代家族の機能 	<p>1 今と昔の家族を比較し、現代家族の特徴を考える。</p> <p>2 家族が果たしている機能は何であるかを考え、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生殖的機能 <ul style="list-style-type: none"> 子供を生み育てる 教育的文化的機能 <ul style="list-style-type: none"> しつけ、人格形成 家族の情緒的安定を保つ機能 <ul style="list-style-type: none"> 夫婦・親子の愛情 経済的機能 <ul style="list-style-type: none"> 家族員の生活保障 	<ul style="list-style-type: none"> 近代家族が成立した歴史的背景を説明し、理解を深める。 家族がかつて果していた機能のうち社会の発達とともに家族から分離されていったものもあるが、現代の家族が今も果している重要な機能があることを認識させる。 おもに社会が果すようになった機能として次のものをあげる。 <ul style="list-style-type: none"> 生産的機能→職場 教育的機能→学校 娯楽的機能→娯楽施設 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 帝国書院
<ul style="list-style-type: none"> 家庭における人間関係 	<p>3 家族生活におけるさまざまな問題を取り上げ、具体的な対策を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 夫と妻の問題 <ul style="list-style-type: none"> 独善的、自己中心的対応 夫婦の対話不足 親と子の問題 <ul style="list-style-type: none"> 過保護、世代の断絶 子供同士の問題 <ul style="list-style-type: none"> 権利意識、過度の自己主張 	<ul style="list-style-type: none"> 問題の整理は大まかにし、具体的な対策をきめ細かに考えさせる。 考えられるおもな対策 <ul style="list-style-type: none"> 相手の立場を考える。 相手に協力を惜しまない。 話し合いの時間を充分とる。 子供の失敗に対して寛容である。 子供の独立能力を育てる。 相手の生き方を尊重する。 おたがいにゆずり合う。 	
<ul style="list-style-type: none"> 夫婦の愛情と結婚 	<p>4 両親が配偶者を選択した理由を調べ、現代青年の考えと比較し夫婦のあり方を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 配偶者選択の理由を考えることが、夫婦間の理解を深めるのに役立つことに気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 詫摩武俊著「現代青年の性意識」より「結婚にあたって重視する項目」 日本経済新聞昭和54年11月5日付「女性の晩婚化進む」[女の一生]
<ul style="list-style-type: none"> 女としての一生と自分の人生 	<p>5 次の資料を参考にして、今後の自分の生き方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 女性の結婚年齢上昇 女の一生、昭和10年と52年の比較 	<ul style="list-style-type: none"> 女性の結婚年齢上昇を女性の社会意識の変化と結びつけて考えさせる。 自分の一生において、家族生活とくに夫婦としての生活が重要な意義もっていることを理解させる。 	

5 授業の記録

- (1) 現在の家族の特徴
 T1 きょうは「現代社会の家族生活」のところを勉強します。まず、現在みんなが生活している家族と昔の家族を比べた場合、最も違っている点は何だろう？(指名)
 P1 夫婦と子供だけの少人数なのが今の家庭で、昔は家族の数がすごく多かったと思います。
 T2 そういふ、少人数の家族を何と言った？(指名)
 P2 核家族です。
 T3 核家族とか小家族あるいは夫婦家族などというのが現在の家族です。昔の家族は人数も多く複雑な場合が多く、大家族とか世代家族あるいは複合家族といわれるものであった。
 T4 では、現在の家族形態がどのようにして作られてきたかを、家族の機能と関係づけて説明します。
- (2) 近代家族の機能
 T5 現代における核家族とはどういうものか、それを知るにはまず現代社会がどういうものかがわからなければならない。ノートを開いて、この前「現代の思想」をやった時にふれた、そこをみてください。
 P3 <ノートの記録を復習しながら教師の説明を聞く>
 T6 封建社会においては生活が自給自足で行われていた。自給自足の時代にはほとんどが家族生活のなかで行われていた。家族の機能としていろんなのがあったけど、その中で基本的な機能が4つあった。生産的機能、生殖的機能、経済的機能、教育的文化的機能の4つです。
 T7 そのほかにもいろいろ、たとえば宗教的機能とか娯楽的機能というものがいますが、現代社会が発達し分業が進むと、本来家族の機能だったものを社会がやるようになってきた。そのなかでもっとも代表的なものが生産的機能です。自給自足の時代は全部家族で生産を行っていたわけですが、分業が発達すると生産の場が社会に移ってしまったのです。
 T8 このように、現代社会は家族本来のいろんな機能を果たすようになったわけですが、それでも最後まで家族に残されている機能がある。生殖的機能、経済的機能、家族の情緒的安定を保つ機能そしてややうすりいでいるが教育的文化的機能がそれです。なかでも、夫婦や親子の愛情と信頼を支えられて家族員に情緒的な安定を与えてくれる機能は、家族以外では果せないものでしょう。
 T9 それでは各機能について、もう少し詳しく考えてみよう。(省略)
- (3) 家庭における人間関係
 T10 先に説明したように、近代社会の人権思想の影響も加わって、核家族というものが生まれてきたわけですが、そこで核家族の人間関係だが、夫婦・親子・子供同士という関係がうまくいくと家族のあり方としてはいいわけだが、うまくいかないといろんな問題が起ってくる。あなた方の家族に問題があればそれを出してもらいたい。それを解明して家族のあり方を一緒に考えてみたい。お父さんとお母さん、親子の間、あるいは子供同士ではどうかな？グループごとに話し合ってください。
 P4 <グループごとの話し合い。約5分間>
 T11 じゃ、そちらの方から出してくれないかな。(各代表を指名)
 P5 夫婦も親子も子供同士もよくけんかするけど、けんかするほど仲がよいと思うので、円満だと思います。
 P6 お父さんが酔って帰ってくると母が叱る 私たち子供は「またはじまった、単純なことでけんかしている」と思って見てるんですけど。
 T12 どっちが原因だ？
 P7 やっぱお父さんの方が心配かけてるみたいです。(P6とP7は同一生徒である)

【生徒のノートに記録された学習内容】

現代社会の特徴
 1 産業革命による大量生産
 分業にもとづく協業
 2 政治革命 — 普通選挙法の実施
 3 近代的自我の自覚

- T13 親子の問題や子供同士のことも含めて、もっと何かないかな？
 P8 父と母では金や子供の教育のことで対立する。親と子とは金や教育のことで、子のためと思ってだろうけど口うるさく干渉して昔のことなど言い出すと口げんかぐらいになってしまう。子供同士ではテレビのチャンネル争いかなあ、でもあとまで残らず意外にうまくいっています。
 P9 仕事のことで父母が対立する時があります。親子では子供の教育のことで口うるさく干渉する時があります。
 P10 共働きで母がおそく帰り炊事がおろそかになると父がいじけてしまったりします。(他略)
 T14 いろいろ出たなかで夫婦の問題では仕事のことがあるみたいだね。お母さんが疲れた時はお父さんが手伝うとか相互理解が必要なんですね。親子の間では、どこの家でも過保護に原因があるね。親は子供のやることをもっと認めなきゃいけない。本質的なところでね。
 T15 不満をもっているということはそれだけ積っているということだから、それを話させるということ、相手の話をよく聞いてやるがお互いに必要なのではないかな。怒るというのは衝動的にかつとなるのだから、そこをおさえる。相手の気持を考えて怒りをおさえることが家族関係では大切だと思ふな。

(4) 夫婦の愛情と生き方

- T16 お父さんとお母さんがどうして一緒になったか聞いてきたかな？ (指名)
 P11 聞いてみたけど、まともに答えてくれなかった。 <数名同じことを答える>
 P12 うちでは見合なんですけど、昔は見合するとことわれなくて結婚したんだそうです。
 T17 あなたがたの先輩が書いた「母の歴史」をみるとやはり見合の人が多。ここにある資料を見てください。(結婚にあたって重視する項目) 男性が女性に求めていることと、女性が男性に求めていることがよくわかりますね。このことは夫婦間においてもほぼ同じではないかと思ひます。

(5) 女としての一生と自分の人生

- T18 次にこちらの資料を見てください。(「女性の晩婚化進む」) これをみると女性の結婚年齢が遅くなってきているのがわかりますね。これはどうしてだと思いますか？ (指名)
 P13 職業をもつ女性が多くなったからだと思います。
 T19 女性がどんどん社会に進出するようになってきた。その結果よく社会を見つめ、自分の生き方を考える女性が多くなったからだと私は考えます。最後の資料を見てください。(「女の一生」 <昭和10年と52年の比較>) これからもわかるように平均寿命が28年も延びている。昔は50歳位までが寿命でほとんどの女性は子供を育てると終りだった。ところが今は、子供を育て終ってから78歳頃までの約20年間の自分の生き方を考えてゆかねばならない。人生の最後の部分を夫婦だけで過すということであり、そういう意味において、夫婦の愛情とは自分の生き方と密接にかかわっているのです。

6 生徒の感想

- A どの家族でもけんかする時の原因などは同じようなことだなあと思った。
 B 視野が広がった感じです。自分のまわりの人々のこと、自分のこれから先の人生のことを考えたい。
 C 進み方がポンポン行った感じだったが、一番身近なことだったので今までの授業で一番楽しかった。

7 考 察

本時の指導過程は、倫理社会の既習事項を性教育の観点から総合的に再編成する、という立場で作成してあるが、実際には既習事項によってのみ構成することができなかった。そのため時間的にやや無理が生じ、生徒の感想Cの前半にあるような感じを与えたものと考えられる。学習活動4,5にもっと時間をかけて指導すれば感想Bの生徒などはもっと深まった学習ができたのではないかと思われる。高等学校の展開例中、各教科で扱うものの多くは、本時の指導過程作成と同じ立場で作成してあるので、使用にあたってはこの記録を参考にして充分検討していただきたい。

1 主 題 愛と人生(心の変化)

2 指導領域 現代国語

3 指導のねらい

いろいろな愛について認識を深めさせ、本当の愛とは何であるかを探らせることにより、人間としての生き方を考えさせる。

4 指導過程

指導内容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資料・その他
○愛とは何か	1 文学作品に描かれている愛がどのような愛であるかを、読後感を含めて発表し合う。	○事前に適当な文学作品を読ませておく。作品は生徒の実態(興味、読解力等)に合わせて選択する。 ○登場人物の具体的な行動や心の動きに愛がどのように描かれているかを読みとらせる。	○文学作品については、P133参照。
○愛と生きること	2 文学作品に描かれている愛を素材にして、人間にとって愛がどんな意味を持っているかを考える。	○愛の体験が少ない青年期では単なる情動を愛と思い込みがちである。本質的に両者には大きな違いがあり人間としてよりよく生きるためには情動と愛を自分の力で識別することが大切であることを認識させる。 ○人間はいろいろな形の愛にささえられて生きていることを認識させる。	
○いろいろな愛	3 いろいろな形の愛について、その意義を考える。	○いろいろな愛があることに気づかせ、愛という言葉を使う時には、充分その内容を検討し慎重に用いなければならないことを自覚させる。 ○愛は次のように大きく二つに分けて考えることができる。	
・自然的な愛(本能的な愛)	○自然的な愛について、例をあげそのあらわれ方を考える。 ・自己愛 ・性愛 ・育児愛(親子愛)	○自然の愛(本能的な愛) [大脳古皮質の機能による。自己保存、種族保存の欲求にもとづくものである。]	
・理性的な愛(人格的な愛)	○理性的な愛について、例をあげ自然的な愛とのかかわりあいを考える。 ・異性愛、恋愛 ・同胞愛、人類愛 ・隣人愛 ・社会愛(祖国愛)	○理性的な愛(人格的な愛) [大脳新皮質の機能による。]	
○愛と人生	○文学作品に描かれている愛はどの愛に相当するかを考える。	○自然の愛は、そのままでは動物と変わらないものであり、理性的な愛によって高められて初めて人間としての価値ある愛として働くことを理解させる。	
	4 人生における愛の意義を考え、人間はいろいろな愛にささえられて生きているということを理解する。	○単なる性衝動に従って安易な行動をとることのないよう、本能的な情動を真の愛にまで高め、有意義な人生を求め続ける態度こそ重要であることを理解させる。	

- 1 主 題 幸福な家庭（男女の協力）
 2 目 標 家庭の果たしている役割を理解させ、将来よき家庭人となるための心構えを自覚させる。

3 指導にあたって

(1) 主題設定の理由

家庭は愛情と信頼によって結ばれた夫婦を中心とする生活共同体である。それは人間存在の原点であり、社会生活の基盤となるものである。幸福な家庭を作り上げるための条件を理解させ、将来よい家庭人となるための今後の生活のあり方を考えさせる。

(2) 生徒の実態

女子 42 名 卒業後の希望進路は、進学と就職の割合が 3 対 1 である。
 落ち着きがあり、静かなクラスである。

(3) 留意事項

- ① 生徒が日常身近かに体験していることを素材にして展開する。
- ② 明るい家庭を作るためにはどのような心構えが必要であるかを考えさせる。
- ③ 近い将来の問題としてとらえさせ、よき家庭人となるための自覚を促す。

4 指導過程 (ロングホームルーム)

指導内容	学習活動	指導上の留意点	資料・その他
○家庭生活の重要性	1 青少年の意識調査「生活目標」と「人間のしあわせ」を見て感想や考えを発表する。	○両方の最多意見が、いずれも安定した家庭生活が前提条件になっていることに気づかせる。	○昭和51年青少年白書 (OHPで示す) ・生活目標 ・人間のしあわせ
○家庭の機能	2 自分達の家庭を考えながら、家庭が持つ機能をまとめる。	○夫婦を中心にして次のような機能が果たされていることを理解させる。 ・経済的機能 ・性的・生殖的機能 ・文化教育的功能 (人格の形成) ・憩いと安らぎの場	○倫理社会の授業を参照させる。
○幸福な家庭の条件	3 幸福な家庭の条件について話し合い、考えをまとめる。 ○円満な夫婦 ○夫婦の相互理解と信頼 ○親子間の信頼 ○職業生活と生きがい ○健康な生活	○生徒が家庭で経験する具体的なことを取り上げて考えさせる。 ○単に《好きだ》ということだけで結婚していかどうかを考えさせる。 ○家庭は夫婦の協力と努力によって築かれていることを、両親の日常生活などを参考にしながら理解させる。 ○親子の間に起こるいろいろな問題を取り上げ、親の愛とは何か、また子供はそれをどう受けとめたらよいかを考えさせる。 ○経済的条件、とくに安定した職業生活の重要性を充分認識させる。 ○家族が病気の時のことを考えさせ、健康であることの大切さを認識させる。またそのためには、家庭が憩いと安らぎの場として充分機能している必要があることを理解させる。 ○将来にむけての望ましい日常生活のあり方が明確に自覚できているかどうか確かめる。	
○よい家庭人の資格	4 よい家庭人となるには、これからどのように心がけていけばよいかをまとめる。		

5 授業の記録

(1) 家庭生活の重要性

T1 この前渡しておいた資料を見てください。上の方は生活の目標について、下の方は人間の幸せについてのアンケートです。この二つの資料を見てどう感じたかな？

P1 やはり毎日の生活を充実させることを目標にしているのが多いと思います。

P2 やりがいのある仕事と家庭を大切にするというのが多いのですが、男子と女子では順位が逆です。

T2 うん、どちらのグラフもやりがいのある仕事と家庭を大切にするというのが非常に多いね。このことから何かいえないかな？

P3 やりがいのある仕事ができるのも家庭あつてのことだから、結局みんなそういう平和な家庭をもつということを望んでいるんだと思います。

(2) 家庭の機能

T3 では家庭ということを考えてみよう。まず家庭の機能だが、どんなことがあるかな？

P4 子供を産んで立派に育てること。

P5 しつけとか生活に必要ないろんなことを教えてくれます。

P6 父や母が働きに出て私達を養ってくれます。

P7 帰って食事をしたり眠ったり、それから……わかりません。

P8 家に帰ると何か安心します。

P9 遠くに働きに出た兄さんなんか帰ってくる、ふるさとみたいなもの。

T4 あと外に何かないかな？ じゃあ、今まで出たものをまとめながら家庭の機能を整理してみようか。まず、経済的な活動だ。お父さんやお母さんが働いて家庭の経済を支えているね。次に性的な機能があげられる。子供を産んで育てますね。3番目に教育の機能がある。学校だけじゃないね、みんながいろんなことを教えてもらうのは、それから、憩いと安らぎの場である。家に帰るとほっとするでしょう？これも家庭のたいじな機能の一つだね。

(3) 幸福な家庭の条件

T5 次に幸福な家庭であるためにはどんな条件が必要であるかを考えてみよう。何があるかな？
 P10 家族みんなが仲よく生活することだと思います。

T6 うん、それはことばをかえると愛情だね。家族の中心は夫婦だ。だから夫婦が愛し合っている、つまり円満であるということが大切である。結婚した時は愛し合っている、3～4年も経つと慢性化してしまう。愛情と信頼をもって結婚しても努力と忍耐が必要なんです。

T7 さっきもいったように夫婦は愛情と性によって結ばれている。夫婦の性は戦争終了までは子供を産むということが強調されていた。ところが最近では性の快楽面だけを強調する風潮が強くなってきた。こういう風潮は、夫婦の性だけでなく、結婚前の性の問題にも影響を与えてくる。つまり純潔ということ。みんなは純潔ということはどう考えているかな？

P11 大切だということはわかるんですが、結婚まで守るということは必要ないんじゃないかと思えます。でもその時になってみないとわからないことですけど。

P12 私は守るべきだと思います。守ってこそ本当の夫婦の愛が育つんだと思うのです。(他略)

T8 なかなか難しい問題だね。性には快楽的要素だけではなく生殖的要素もある。むしろ生殖的要素の方が性本来の意義かもしれないね。この二つの要素は切り離せないんだ。ところがみんなの意見を聞くとどちらの立場の人も、性を快楽的要素でしか見てないんじゃないかな？ どうだろう？

P13 快楽的という意識からばかりじゃないけど、切り離して考えてもいいと思います。

T9 二つの要素がうまく働けるのは結婚した夫婦の場合だけだね。だから精神的に安定している。ところが結婚前では生殖的要素は困るわけ、妊娠したらどうしようとする精神的には常に不安定である。こんなことがあって結婚したのでは、お互いに信頼できないんじゃないかな。信頼でき

ない夫婦では愛し合うどころじゃない、円満じゃなくなるね。それにもう一つ大切なことは快樂ばかりにとらわれていると忍耐と努力ができない人間になってしまう。夫婦の愛は忍耐と努力によって永続するんです。

T₁₀ 純潔についてはみんなの中にもいろいろな考え方があろうけど、自分の性を将来の家庭生活すなわち一生の幸福にかかわっていることとして、また道具や手段としてではなく全人格にかかわる要素として、これからどうあるべきかを考えてほしい。

T₁₁ さて、幸福な家庭の条件についての話にもどろう。ほかにどんな条件が必要かな？

P₁₄ 家族みんなが丈夫なことだと思います。

P₁₅ 経済的に収入が安定している必要があります。

T₁₂ 家族の人間関係についてはどうかな？

P₁₆ 何でも相談できる親や兄弟だといいなあと思う。

P₁₇ 私も、何でも話しが通じる家族がすばらしいと思います。

T₁₃ ではみんなの意見を整理してみよう。〈生徒の意見を要約し整理する〉（略）

(4) よい家庭人の資格

T₁₄ この時間みんなと話し合いをしてみました。その中からぜひこれだけはと考えていることを最後に話します。まず純潔を守らなかったために一生をだめにした例が非常に多いということに目を向けてほしい。もう一つは、自分の感情をすべてに調和させる訓練を今から心がけ、一步一步前進することが必要だということです。あなたがたが将来幸福な家庭を作るためにはこれからどのような心構えで生活していけばよいかということを常に自覚してほしいです。

6 生徒の感想

A 確かに純潔は大切だが結婚まで守らなければいけないという意見には納得できない。なぜなら、本当に好きな人が結婚する相手とは限らないからである。結婚する相手の人も本当に好きな人だが、その人に会う前にも本当に好きな人がいるはずである。（類似意見なし）

B 純潔を守ることが旧式な考えでなく、人生の経験に基づく将来の幸福をもたらすための知恵であり、大変大切なことであることがわかった。（類似意見 13 名）

C 純潔とは女性だけに要求されるものなのだろうか？疑問だ。（類似意見 5 名）

D 幸福な家庭を築くためには結婚が重要な要素になることがわかった。

E 女性の仕事、家庭と仕事の両立、社会での職業婦人の立場について聞きたかった。

F これから社会人になるにあたって、家庭の重要さがあらためて認識された。それにこれから男性とのつきあいが多くなると思うが、知恵と強い意志をもって、対峙していかなければならないと思った。

7 考察

生徒の実態と指導内容の性質を考慮し、教師と生徒の対話形成で展開する指導案を作成し授業を行った。また授業にあたっては、倫理社会や家庭一般における既習内容についても充分配慮した。

生徒の感想 A,B,C は純潔に対する女子生徒の典型的な意識であろう。本時においては、純潔については補助的に扱ったのであるが、B の意見が多く述べられていることは、一つの成果であろう。ただし C に対する指導は、観念的、抽象的な説明にならぬように充分考慮し、このまま放置することのないよう配慮する必要がある。F の意見などは、本時のまとめとして発表させたかった。

ここでは教師と生徒の対話形成で授業を展開したが、グループ討議を中心にして実施することも可能である。その場合はホームルーム委員を通しクラスの意識調査や問題提起しておくことがのぞましい。生徒の感想 C や E についてはかなり深まった話し合いができるものと思われる。

1 主 題 法の下での平等と両性の平等（男女の協力）

2 指導領域 政治経済

3 指導のねらい

基本的人権の尊重を根拠にして日本国憲法の「法の下での平等」の意義を理解させ、両性の平等を例として、それがどう保障され、守られているかについて考えさせる。あわせて、男女両性の相互理解と相互協力の意識を育てる。

4 指導過程

指導内容	学 習 活 動	指 導 の 留 意 点	資料・その他
○差別と区別	1 男女の生理的条件の違いからくる差別と区別について考える。	○労働基準法における女子労働者の保護条項や民法において女子にのみ再婚禁止期間が存在することなどを参考にする。	○労働基準法第 67 条以下 ○民法第 733 条
○明治憲法の下における差別	2 明治憲法の下においてどんな差別があったか調べる。 ・家族制度 ・選挙権、被選挙権 ・華族制度、特権	○明治憲法や倫理社会での学習内容から、差別の例を調べさせ話し合わせる。とくに家族制度については家産相続や妻の地位など、男女に関係する差別に注目させる。	
○日本国憲法の下における平等	3 日本国憲法の下において平等がどう保障されているか調べる。 ○基本的人権の性質 ○個人の尊重 ○法の下での平等 ・人種、信条、性別、身分、門地による差別の禁止 ・華族制度、特権の否定 ○両性の平等 ・相続、離婚、夫婦の協力 ・労働条件 ・選挙権、被選挙権 ・教育を受ける権利	○憲法第 14 条にある法の下での平等が第 11・13 条によって根拠づけられ、徹底されていることに気づかせる。 ○基本的人権がすべての国民に保障されていることを理解させる。 ○個人の尊重の意義を基本的人権の享有と関連づけて理解させる。 ○法の下での平等は権力者の恣意を合理的基準によって制約するところにその核心があるが、私人間関係にも適用されることに留意する。 ○世界人権宣言をも参照させ、人権思想の歴史的背景を理解させる。 ○両性の平等の意義を理解させ、それがどのように具体化されているかを調べさせる。 ○現行民法や労働基準法などを明治憲法と比較しながら調べさせる ○各自の家庭での問題について話し合ったり、あらかじめ新聞などから問題を調べておき話題とする。 ・家族の役割分担など ・女子の若年定年制 ・男女の賃金差別	○日本国憲法第 11 条 ○日本国憲法第 13 条 ○日本国憲法第 14 条 ○世界人権宣言 2, 6,7,10,16,21,26 条 ○憲法第 24 条 ○民法第 4・5 編 ○労基法第 4 条 ○憲法第 44 条 ○憲法第 26 条
○両性の平等の実態	4 両性の平等が法的に保障されているが、実質的にどう守られているか話し合う。 ・家庭生活 ・社会生活	○平等の原則は法的保障があっても、それだけでは実質化せず、不断の努力が大切であることを強調する。	○昭 41.12.20 東京地裁「女子の結婚退職制」 ○日本国憲法第 12 条
○真の男女平等実現	5 真の男女平等を実現させるにはどうしたらよいかを考える。		

1 主 題 現代社会の性をめぐる諸問題（社会への適応）

2 指導領域 ロングホームルーム

3 指導のねらい

現代社会がかかえている性に関するいろいろな問題を明らかにし、その中における高校生の性非行や性犯罪および性被害の実態を正しく理解させ、健全な性モラルにもとづく生活はどうあればよいかを考えさせる。

4 指導過程

指導内容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資料・その他
○現代社会がかかえている性の諸問題	1 調査結果を参考にして、自分達が日常生活で身近かに感じている性に関する問題点を確認し、どう対処していけばよいかを話し合う。 ○主に次のテーマにそって話し合いを進める〔性情報の氾濫〕 ・マスコミによる性の商品化 ・興味本位な事実歪曲〔価値観の混乱〕 ・性の享楽性の異常な強調 ・性の尊厳性喪失〔性文化の問題〕 ・人間性喪失による性への逃避 ・ポルノ、フリーセックス	○ホームルーム委員を通じ、現実の社会現象の中で生徒達が問題として感じている点を調べさせる。その中から性に関する問題を選び出し、話題とし整理させておく。 ○具体的な話題として次のようなものが考えられる。 ・不純異性交遊、高校生売春 ・同棲、学生結婚 ・未婚の母 ・フリーセックス ・ポルノ、不良出版物 ○性の問題が単独に起っているものではないため、他の社会問題と関連づけた意見が出ることも考えられるが、ここではあまり深入りしない。	○生徒の調査資料 ○新聞きりぬぎ
○高校生と性非行	2 性非行とはどんな行為をいうのかを資料を見ながら話し合いを通し確かめる。 ・性非行の種類 ・性非行の実態 ○性非行の原因がどこにあるかを考える。 ・自己以外の問題点 ・自己自身の問題点 ○性非行を予防するにはどうしたらよいかを考える。	○性非行については「非行」という意識がない場合が多いので、性非行の実態と特徴および動機に関する資料を提示し、性非行の範囲や形態を認識させる。 ○社会的条件や家庭的条件に性非行の原因があると考えられる場合もあるが、究極的には各個人の生き方にかかわっている問題であること、性そのものへの興味というよりも他の非行が原因となっているケースが多いことを充分認識させる。	○性非行の統計資料
○性犯罪と性被害の防止	3 性被害の実態を調べ、被害防止について話し合う ・性被害の種類と件数 ・加害者の特徴 ・被害者に共通点はないか？	○性被害の内容、被害者の性意識をまとめた資料を示し、被害者にも原因がなかったかどうかを検討させる。 ○性生理および性心理の男女差を正しく理解しているかどうか確かめる。	○県教育センター報告書 ○新聞切りぬぎ
○現代社会と性モラル	4 現代社会に生きる人間として、性モラルはどうあればよいかを考える。	○現代の退廃的性風俗に押し流されることなく、健全な性モラルを育てる強い心構えを促す。	

指 導 事 例

Ⅷ 小 学 校 の 指 導 事 例

Ⅸ 中 学 校 の 指 導 事 例

X 高 等 学 校 の 指 導 事 例

Ⅷ 小学校の指導事例

1 男女交際のエチケット

個別指導事例 S小学校6年男子

担任指導

1 問題行動の概要

A児は5年の時、よく口にしていたことばは「おなごなんて大きらい」「おなごめら」などだった。今年5月はじめ同級の女の子に「つりにいこう」と電話する。一番好きな女の子がことわったので同級の他の4人にも次々に電話した。誘われた女の子は、発育のはやい比較的顔だちのよい者ばかりだった。同行するのは男の友達もいるが人数も名まえもいわなかったという。以前から自分の好きな女の子にはいつもやさしく、にこにこ接し、冗談をいい、肩やうでなどをたたいていた。反対に太っている女の子、器量のあまりよくない子には「ぶた・ぶす・おまえ・大きらい・ゲェッ」などと近づいただけで大声でけなした。性に関する用語も時々口にした。

2 児童の性格・家庭環境等

祖母・父・母・兄・本人・弟の6人家族。父は元暴力団員で耕地1ha位あるが働くのがきらいで日中から酒のみ妻子に暴力をふるう。兄も高2(昨年)で脅かつ、飲酒で退学処分を受け、その後訓練校にはいったが長くつづかず退学。この頃は兄も母に暴力をふるい、女友達とバイクなどで遊びまわっている。兄の影響も一番多くうけ、あきやすく何事にも長つづきしない。言動粗野、男の子には暴力をふるうことがある。プラモデル工作には熱中する。

3 指導の概要

A児だけでなく、個人面接として出席順に全員を呼んで学習面・生活面を指導する形をとり、特にA児には次のことがらについて指導した。

- (1) 自分の心身の成長に気づかせる。
急速にのびている身長、ふえつつづけている体重、異性への興味・関心がでてきたのは当然であること。
- (2) 学内の子どもたちは、みんな同じように心身が発達していることに気づかせる。
- (3) 自分の欠点を他人からいわれると、いやな感じがするし、とくに異性からいわれると気がかかる。自分がいわれたくないなら、自分もいわないという心がけがだいじであることに気づかせる。
- (4) 男女の敬愛について考えさせる。
学級集団の中でも家庭集団の中でも大切であること。
- (5) 家族関係のことで反省させる。
 - ① 兄はもう大人であるし、本人はまだ小学生である。大人である兄と同じ行動はいけないこと。
 - ② 暴力をふるい弱い者をいじめてはいけないし、とくに母や弟への暴力はいけないこと。
- (6) 男女交際のしかたを考えさせる。
 - ① 特別な場所へ行かないこと(ハイキングや自分の部屋・相手の部屋へ2人だけでいけないこと)
 - ② 学校ではみんなと仲よく遊び、勉強にがんばること。
- (7) 粗野なことばを使わないように話す。
けんか口調をつつしみ、エッチなことばを使わないこと。

4 指導の結果及び考察

2学期は好きな女の子と同じグループになったのでにぎやかにしゃべりあっているが異性に対して悪口はほとんどいわなくなった。また、電話でさそうことも少なくなっている。(電話があったとは全然きいていない)

肩や腕をたたくくせは、まだ直っていないが、家庭環境(兄の影響)から早熟であることは変わりない。週刊誌、テレビなどの影響もかなりうけており、今後も継続して指導する必要がある。

2 初 潮 指 導 (身体の発育が著しいA子)

個別指導事例 H小学校5年女子

担任指導

1 問題行動の概要

5年女子のA子……4年のとき初潮を迎えた。生理のたびに腹痛等の理由で学校を休む。自分の生理がいつ始まって、何日続くのかも全然無関心で覚えていない。身体の発育は著しいが、精神がそれに伴って発達していない。

2 児童の性格・家庭環境等

知能は普通だが反応がにぶくておとなしすぎる。家業はそば屋で、子どものしつけや教育まで手がまわらない。2年生の妹がいる。

3 指導の概要

(1) 3年のとき

A子は身体の発育が著しいので、A子の母親と他の児童1名を加えて初潮指導をする。

(A子は精神的な発達がおくれているため、何のことをいわれているのか全然理解できない状態であり、ようすを見ることにした。)

(2) 4年の春

保健室によんで、もう一度初潮指導をする。しかし、まだ理解できていない。

ひと月位して初潮があり、学校を休む(理由は腹痛)、母親に電話をして状況を聞き、次の日本人を呼んでようすを聞いた。べつに初潮がきて驚いたというようすもなく、ただ腹痛で休んだというだけであった。

(3) 4年の秋

腹痛を理由にして保健室で休んだり、学校を休むことが多くなった。

そこで、保健室によんで、からだの状態を聞いたが、腹がいたいということだけである。

(生理については、まだ関心がでない。)

(4) 5年になって

5年女子全員に初潮指導をした。A子はこの頃から生理に対し、少しずつ関心をもつようになった。また上級生になったためか、行動・言動面は今までよりは活発な様子が見えてきた。欠席もほとんどなくなった。乳房がかなり発達してきたので、体育のときはブラジャーを着用するよう本人・母親に話をする。

4 指導の結果及び考察

欠席が少なくなった理由は、5年になって周囲の友達も次々に生理になっていくのを見て、仲間が増え安心してきたようである。しかし、他児童に比較し、まだまだ性格の面で幼稚なところもあり、今後も担任と母親との連携を密にし指導にあたる必要がある。

今の子どもは身体は急激に発育しているが、精神面が追いついていけないという異常な発育のしかたである。その原因は生活環境(生活様式)等、いろいろ考えられると思うが、アンバランスにしてしまった原因は何かという追求と今後の個別指導のあり方を考えていかなければならない。

3 異常出血のあった児童

個別指導事例 Y小学校6年女子

養護教諭指導

1 相談事項の概要

現在は小学校6年の女子。3年のときに臍から異常出血があり、数日続いて止血し、その後、数か月して再び出血。まだ3年生だったので、生理なのか別の病気なのか親子ともに心配し、相談を受ける。

2 児童の性格・家庭環境等

非常におとなしい性格。成績よく、両親・妹・弟・本人と5人家族。家庭は明るい雰囲気でも母親に何でも話せるようである。母親も子どものよき相談相手になっている。

3 指導の概要

(1) 問診……出血時の随伴症状はないか、下腹痛・外性器の疼痛(とうつう)など。

(2) 視診……出血の程度

(3) 母親より事情聴取

(4) 婦人科へ相談(本人・母親・養教)

とくに診察はせず、しばらく様子をみていてさしつかえないとのこと。顔色すぐれないため、貧血の検査をしたが異常なかった。

(5) その後の様子観察

4 指導の結果及び考察

結局、3年のときだけで、4年生以降は異常出血はなく現在に至っている。出血は身体の発育からして月経とは考えられないし、婦人科の先生も「しばらくようすをみて……」ということは、はっきりしない出血であったと思われる。こういう例はあまりないことだと思うが、家庭と学校が連携を密にし、専門医に相談し、処置したという点でみんなが安心できた。この子どもはおとなしい性格で、出血のあったときは心配したが、出血がなくなったということで、そのことについては現在悩みは解消している。

4 初 潮 指 導 (母親の指導が欠ける場合)

個別指導事例 T小学校5年女子

担任指導

1 相談事項の概要

母親が入院のため初潮指導ができず、どのようにすればよいかと授業参観のとき父親から相談を受ける。父親も少しは話してあるが、なお具体的に本人に話してもらいたいということであった。

2 児童の性格・家庭環境等

からだの発育は順調で同学年でも発育はよい方である。父親も病気(肝臓)があり、母親は結核で前から入院、弟1人(小学生)、4人家族、要保護家庭である。

この子どもは、性格は明るく何でも一緒にやるが友だちの手助けがないと最後までやれないようである。精神的にややおくれのみえる児童である。

3 指導の概要

本人をよんで指導したことは、次のようなことである。

- (1) 女の子は身体がしだいに発育してくると生理というのがおこること。
- (2) 生理になったら、どんなことに注意すればよいか。
- (3) 生理帯、ナプキンの使用方法について
- (4) 生理カレンダーの記入のしかた。

なお、生理がおこったときは、家庭、学校にも話をするようにし、恥しくも不潔なものでもないことを指導。

4 指導の結果及び考察

上のような指導をして、まもなく初潮があったが、家庭でおこったので父親が話してくれた。手当は全部自分でできたということであった。

問題のある家庭には、学習面だけでなく、生活面でも積極的に指導にはいらなければならないと思った。これらの指導には、家庭とくに母親の協力がなによりも大切だと思う。

5 赤ちゃんはどこからくるの？

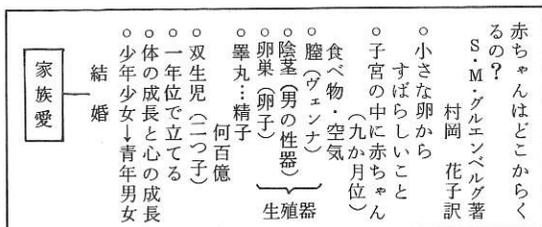
集団指導事例 O 小学校 5 年男女

担任指導

1 指導領域 道徳

2 指導の概要

- (1) S・M・グルエンベルグ著・村岡花子訳「赤ちゃんはどこからくるの？」を全文通読してきかせる。
- (2) 要点を板書し、ノートにかかせる。(下の枠内は板書事項)



3 児童の反応

陰茎とか卵丸といいながら板書したとき一部笑った者もいたが、しだいに真剣になり、うなずく者も出てきた。

4 指導の結果及び考察

性教育など勉強したこともないし、教えたこともないので、良い本を読み聞かせるのが無難であり効果があると思った。案ずるより産むが易しで、児童は素直に受け入れたように思う。今後、児童の考えや行動を観察しながら次の指導を考えたい。ただ、道徳としての位置づけがどうであったか疑問である。

6 初潮指導

集団指導事例 I 小学校 5 年女子

養護教諭指導

1 指導領域 教科(体育)

2 指導の概要

- (1) 発育に伴うからだの変化に気づかせる。
- (2) 「生理」ということばについて話す。
- (3) 生理になるわけについて話す。(神秘的であることも)
 - 月経のしくみ
 - どんなものがでるのか
 - 赤ちゃんをうむわけ
- (4) いつ始まるのかを話す。
 - 始まる時期を統計グラフにより説明し、個人差があって一定していないこと。
- (5) 月経の周期や月経血量を知らせる。
 - 個人差があり、とくに低年齢の時は不安定であること。
- (6) 生理になった場合の処置について話す。
 - 生理バンドとナプキンの使い方 (エチケットとして……ナプキンのもちあるき方・ナプキンのとりかえのとき・生理バンドの洗い方と干し方など)
 - からだの清潔と保温のこと
 - 運動をする場合
 - 薬について
- (7) みんなの協力について話し合わせる。
 - 女の子同士で協力し、お互いに教え合い気をつけあうこと。
 - お母さんも先生方も先輩であり、わからないことは相談すればよいこと。
- (8) 生理になった人を調べる。
 - (1名、恥かしそうに手をあげた……みんな拍手しおめでとうをいう)
- (9) その他、質問をうける。

3 児童の反応

「どこから血が流れてくるのですか」「いたくないのですか」「男の人はないのですか」「生理はいつまで続くのですか」「タンポンというのは何ですか」「赤ちゃんがうまれるときっていたいですか」などの質問があった。子どもたちは、いつになく目を輝かせて聞いていた。興味があるのだろう。恥かしそうな場面もあったが、自分たちに関することなので生理についてだけでなく、赤ちゃんをうむことについても考えていた。

4 指導の結果及び考察

自分の経験から初潮というのは陽的なものでなくてはならないと思う。そのためには、周囲の大人たちの手助けが必要であり、心から祝福するような態度が大切だと考える。「おかあさまへ」というプリントを配布して協力をお願いしているのもそのためである。ともかく、子どもたちの間だけでも協力し合えるようにと留意して指導してきた。数か月後、「先生〇〇と恥かしそうに、またうれしそうに話しに来たが隣りにいた子が「有美ちゃんも生理なったんだ。お互いに陽的なものとしてとらえてくれたことは確かだと思った。現在、性的な非行が云々されているし、このことについての指導も必要だったと思うし、今回女子だけに指導したが、男子にも知ってもらい、協力を養うことが大切であると思う。」

Ⅸ 中学校の指導事例

1 ポルノ写真の教室への持ち込み

個別指導事例 S中学校2年男子

担任指導

1 問題行動の概要

2年2学期のある日、Tの持ちこんだ十数枚のポルノ写真がクラスのグループの間でひそかに回覧されていた。その中の1枚を持っていたMが、放課後校内巡視中のA教諭にみづかりとり上げられた。それが担任のところへ届けられ問題となった。

2 生徒の性格・家庭環境等

- (1) 性格 成績は上位、お人好しでクラスのリーダー格の1人である。
- (2) 家庭 Tの家は、市内の商店街にあつてかなり大きな衣料店を営んでいる。両親、祖母、弟1人(小学5年)の5人家族で、ほかに4人の店員をやっている。経済的には豊かだがかなり放任されている。

3 指導の概要

担任は初めクラス全員を対象に指導しようと考えたが、逆に刺激を与えて性的関心をあおり変な遊びを潜行させることになることを恐れた。

そこで、主としてTの個別指導と家庭の啓蒙にとりくんだ。

まず、個別指導の観点としては、

- (1) 正しいリーダーシップのあり方として、明るく子どもらしい遊びを工夫してそのリーダーとなること。
 - (2) よいリーダーは、よいこと、悪いことのけじめをはっきりさせてリードすること。自分1人で決めかねるときは、グループ討議によってよい方向を見つけること。
 - (3) ポルノ回覧の是非を自己反省させる。ただし罪悪感を持たせないようにする。
 - (4) 今後の活動をあたたかく見守りはめたりはげましたりする。
- 家庭の啓蒙については、その月の学級PTAの席上、読書三悪追放「読まない」「買わない」「見せない」を呼びかけ、とくに、「見せない」配慮の徹底をうったえた。

4 指導の結果及び考察

Tは頭がよく理解力もあるので深く反省しているようである。

ただ深く心をくだいたのは、過重の罪悪感を持たせないことであった。回覧そのことはありがちなことで、異性への興味や関心を抱くのは、男性の自然な姿であることを教えた。

力説したいのは、正しいリーダーシップのあり方とこそそそした行為はやましい行為であるから、男らしくすすもうという励ましであった。

他の男生徒への指導は、Tの今後の指導をとおしておこなうこととしたが、現在まで問題は出ていない。

このケースは、Tが深く反省したことにより問題がすみやかに解決したと思われるが、個別に指導し処理したこともよかったように思う。

しかし、今後学級全員に対し「性教育」の機会をもつことが是非必要であると考えている。ポルノ写真に対する興味それ自体はある程度まで自然なことであり、それが不自然なかたちで現れないようにするためにこそ性教育が必要とされると考えている。

2 発毛のおくれに悩む生徒

個別指導事例 F中学校3年男子

体育担当教諭指導

1 相談事項の概要

中学1年の終り頃から右側の腋毛が生えて2年3年に至ったが、左の方の腋毛がなかなか生えてこない。そのために体育の時などランニングシャツ一枚になると体育指導者からみてとてもおかしい。片方だけだからと剃り落とすと女みたいになるので困っている。

2 生徒の性格・家庭環境等

- (1) 性格 明るく友人関係もよい。面倒見もよく、みんなから好かれている。
- (2) 両親と3人兄弟の長男。家業は農業であるが、家庭内は明るくなごやかなである。

3 指導の概要

発毛は、第二次性徴の発現の一つであつて思春期に起こる身体の変化であるが、それには個人差のあることを説明した。発毛には遅速があるし、濃淡があり、全く見えない場合もあることを具体的に説明した。また、発毛は変声よりも1年ぐらい早いといわれているが、本人は、声変わりもしていないことを指摘した。

他の生徒と比べて本人はかなり小さくやせていて発育が悪いが、身体についてどこが悪いということもないので、順調に発育が進めば自然に生えてくることを説明して本人を励まし、偏食をなくして、積極的に身体を動かすスポーツをやるよう指導した。本人も一方だけにしか腋毛が生えないのがはずかしいと悩んでいるので、しばらくの間半袖の運動着を着用させるようにした。

4 指導の結果及び考察

- (1) 本人が初めて相談に来たときは大変悩んでいた様子であったが、個人的に指導してからは負担がなくなったように、ほっとした表情に変わった。
- (2) このような事例は、本校でもあまり例がなく、どうなることかと心配であったが、3年生の後半になって身体がめざましく伸び、クラスの中位にまで体格が向上した。その後廊下などで声をかけてみると、「うん少々」という返答が返ってくるようになった。少しずつ生えてくるのだと思ひ指導者もほっとした。
- (3) 一見ささいなことのようにだが、特殊な事例については会って悩みや不安を軽減してやったり、解消してやることの重要性をこの例をとおして痛感した。
- (4) 発育が正常な生徒でこのような事例に出会ったら、やはり専門医に相談させる必要があると思う。
- (5) 精通のことや陰毛のことについて本人と話し合ったが、まじめに聞いて説明してやると、生徒は安心する。
- (6) 本人の申し出により、担任とは格別の連絡をとらなかつた。
- (7) 一般に性についての悩みや不安には、しゅう恥心がともなるものであるから、それを認め秘密の約束を守りながら生徒との接触の機会をできるだけ多く持つようにし、信頼関係の上に立って相談に応ずることがなにより大切であると思っている。
- (8) 性の個別相談に来るにはかなりの勇気が必要であったと思われる。それを認め励ましてやることが問題解決への道につながるように思われる。

3 月経期間が不順で出血量が多いことに悩むH子

個別指導事例 M中学校1年女子

養護教諭指導

1 相談事項の概要

担任は、この数か月間、なんとなく顔色の悪く元気がないH子のことが気がかりであった。そうしたある日、母親が来校してH子の月経のことについて相談した。担任は男子だったのでとまどったが養護教諭のところへ案内した。

養護教諭は、2人きりになったのをみはからって心配事を一部始終話そうにしたら、月経が始まると期間が長く出血量も多いことを心配しているとのことだった。また不順でもあるという。

これまでの経過では、初潮があってからの半年間は次の月経がなかった。その後は月2回るときや2か月間も間隔が開くことがあったりして、周期が一定しない上、量も多くとても不安がっているとのことであった。

2 生徒の性格・家庭環境等

- (1) 性格 どちらかというと消極的で沈みがちである。
- (2) 家庭 父母と兄の4人家族 問題点はみられない。

3 指導の概要

養護教諭に自分の悩みについてすべて話してしまった本人は、不安気な様子であったが、「H子さんのからだはまだ大人になり切っていないのだと思う。その時期にはよくみられることなので心配はないと思うが、校医に一度相談してみよう。」とあって安心させ、母親に事前に連絡のうえ、受診のため3人で校医宅に出かけた。

そこで校医からも初潮をみてから1年ぐらいは不順なことが多いから心配するには及ばないと説明された。念のために注射を打ったところ、本人もこれで安心したと胸をなでおろしていた。

その後も母親と連絡をとり、からだについて注意して見守るように依頼した。月経を「経過カード」に必ず記録するように指導し、心配なことが再びおきたらいつでも相談にくるよう話しておいた。

しかし、その後も以前ほどではなくなったが、生理が不順で出血量が多いということなので、こころは婦人科の専門医の診断を受けたが、そこで大学病院での検診をすすめられ、入院治療となった。

4 指導の結果及び考察

- (1) 比較的早期診断だったのが幸いして、H子はすっかり元気になった。
- (2) 校医だけでなく、場合によったら専門医の診断の必要性を痛感した。
- (3) 担任が男子の場合、生理などで悩む生徒の直接指導は養護教諭にしてもらわなければうまくいかないことを思いしらされた。学校全体での連携や役割分担をスムーズにしておく必要がある。
- (4) 初潮1年ぐらいは不順で一度きてもまたこなくなるが多いのは、医学的常識とされる。したがって初潮についての指導の際にはこの点にも留意すべきであると思っている。
- (5) 初潮をみたらカードへ経過を記入させ、健康管理の一つとして習慣化させることが大切だと考えている。
- (6) 異常に気づいたら、母親や教師に気軽に相談させるようにする。
- (7) 一般に母親がないという場合は、女同士の連帯感の中で心身の悩みを語り合う相手が最も必要な時期だということから、女子の教師または養護教諭が相談相手になってやることが望ましい。

4 からだの働きの発達

集団指導事例 T中学校2年男女

保健体育担当指導

1 指導領域 保健体育（保健）

2 指導の概要

(1) からだのはたらきの発達の中で、特に生徒の不正確な知識により興味本位に関心を持ちやすい第二次性徴の問題をとり上げた。

- ① 中学生の時期に下垂体から性腺刺激ホルモンがさかんに分泌されるので、性ホルモンの分泌量が増加すること。
- ② 男女の身体上にどのような変化が現われてくるか。
 - 精通がなぜみられるようになるか。 } 両者は男女とも大人の身体に成長してきた
 - 初潮はなぜみられるようになるか。 } ことを意味する。
- ③ 月経の正しい処置について。
- ④ 未成年男女の不純異性交遊について。
 - 現代の社会的状況の中から取り上げる。
- ⑤ 妊娠はなぜ起こるか。
 - 精子と卵子の結合について。
 - 結婚した健康な成人男女のみに許される行為であること。

(2) 中学時代の心の面の変化について

- ① 心の面でも男らしさ、女らしさが現われてきて異性に対する関心が強くなること。
- ② 男女のそれぞれの性を大切に尊重し合い協力していかなければならないこと。

(3) 中学時代に起こる体と心の変化をうまくコントロールする方法について。

- ① 自分の趣味を生かすこと。
- ② クラブ活動や部活動などで体をきたえること。

3 生徒の反応（質問）

各学級とも保健体育担当者が1年生の保健学習の中で取り扱っているが（男女別2学級合併授業）生徒は表面的に性の問題について興味を持っているだけで、科学的には無知に等しい。最初この内容の授業に入る前には「勉強」であるから、笑ったり、いかげんな気持ちで学習したりしないことを約束しておく、生徒は真剣なまなざしで学習についてくる。今まで全く知らなかったことを教えてもらって大変有意義だったと生徒は知っている。男子は殆んど質問をしないが、女子は個人的に初潮のまだないことを相談にくるものもいたが、早熟型・晩熟型のあることを説明し安心させている。

4 指導の結果及び考察

保健の教科書にのっているからだの発達の中の性に関する内容は、まだ不十分であり表面的で深まりが足りないと思う。指導者も若い人は取り扱いにくそうであるが、指導力の足りないところは録音つきのスライドや写真などの資料もあるので、それらを有効に活用すべきだと思っている。

とにかく、生徒に性の問題を指導する場合は、いたずらに生徒の興味関心を持たせないよう配慮する必要がある。

男女がたがいに協力し尊重し合い有意義な効果を上げるには、指導者のそれに立ち向かう姿勢と指導技術の向上をはからなければならないと思う。

5 女子の生理

集団指導事例 Y中学校2年

養護教諭指導

1 指導領域

学校行事(修学旅行前)女子のみ

2 指導の概要

- (1) 男女のちがい 性ホルモンの働きについて説明(OHPを利用)
- (2) 初潮年齢 卵巣の働き, 子宮の変化
- (3) 月経については, 次のような項目に重点をおいて指導している。
 - ① 周期, 基礎体温, 日数, 量, 体の変化, 起き易い症状などについて, OHPやスライドで説明する。
 - ② 生理用品の使い方を正しく教える。(スライドの利用)
 - ③ 生理時のエチケットとして清潔を第一としなければならないことや, 体の安静の必要性を教える。
 - ④ 生理時の精神衛生については, 個人差があり, 情緒が不安定であることを理解させる。
 - ⑤ 健全な成長のために, 悩みや不安をできるだけなくするようにするには, 信頼できる人への相談を積極的にすすめる。
- (4) 女性が, 将来母親として大切な役割を帯びていることを理解させる。そのために必要な条件などを生徒に話し合わせ, その中からいくつかの項目に整理し, 女性としての誇りと責任を自覚させるようにしている。
 - ① 身心の健康
 - ② きまりある規則正しい生活
 - ③ 自分の家庭での母親の役割
 - ④ 清潔(整理・整頓)
 - ⑤ 真・善・美へのあこがれ

3 生徒の反応(質問)

- (1) 母となるためには, 思っていたより何倍も大変だということがわかった。
- (2) 新聞や雑誌に出てくることばの意味や内容がどういふものであるかよくわかった。
- (3) 今まで知りたくても知らせてくれなかったし, わからなくて不安に思っていたことが多くあったが, これで安心した。
- (4) これからの人生を大切にしていかなければならないと思った。
- (5) 生理について, 小学生の時に習ったよりも具体的・科学的に教えてくれたので不安が少なくなった。
- (6) 生理になると何となく恥かしかったが, 母親となる準備ができつつあることがわかって, やっぱり女には女として立派に生きていく責任があるのだと信ずるようになった。
- (7) 生理時には気分が悪くなり, いらいらしてくるのだが, 体の変化が心にも影響してくることがわかった。

4 指導の結果及び考察

- (1) 生理については, 望ましい処置がいつでも可能なような具体例でやるのが効果的である。
- (2) できるだけ詳しく, 科学的に教えてやるのが, 生徒の知的好奇心を満足させるものであることがわかった。
- (3) 中学2年になっても生理がない生徒がぎわめて少数だが毎年いる。これらの生徒には個別に指導している。
- (4) 性については, 系統的・段階的に指導していないために, あれもこれもと内容を多くしてしまう結果, かえって混乱する生徒もいる。発達段階に応じた指導を系統的にやるのが課題である。
- (5) 生理の指導については, 女子についてだけ限っているが今後もそうしたい。

X 高等学校の指導事例

1 男女交際(父親との関係がうまくいかない女子生徒)

個別指導事例 M高等学校2年女子

担任指導

1 問題行動の概要

S子は積極的な学習意欲に欠け, 2年になってから学校生活全般にわたりルーズな生活態度が目立つようになってきた。とくに服装や頭髮に変化が現れてきた。ちょうどこの頃, 親からも生活全般, 学校生活の様子などについて相談を受けていた。S子の学校生活を観察すると, 男女交際に対し非常に高い関心をもっていることがわかった。また家庭生活における父親との人間関係のあり方が, 異性への関心をゆがめたものになっているように思われた。正しい男女交際のあり方について, 父親との人間関係改善を含めて指導する必要が認められた。

2 生徒の性格・家庭環境等

派手な行動が多く, 常に人目につこうとする傾向が強い。家族構成は父母, 妹, 甥(父方の妹の息子)の5人家族である。甥は家庭環境が複雑なため, 中学卒業と同時にS子の家庭に入ってきた。現在16歳。父は建築会社の社長で, 昔かたぎの性格が強く, すべてを金で解決しようとする傾向がある。

3 指導の概要

学校生活において, 服装および頭髮に校則違反がみられたので, 家庭にも協力を求め, 学級担任が母親とS子の指導方法について話し合いをしたところ, 次のような問題点が判明した。

- (1) 中学生時代から父親に対する不信感が根強く残っている反面異性に対するあこがれが非常に強い。父親は異性との交際については非常に神経質であるが, 実際に父親とS子が直接話し合うということはほとんどない。父親の指導が不足している。
- (2) 住居の中で家族全員が集まって話し合える部屋がなく, 個室中心の生活になっている。
- (3) 中学時代には, 外部との連絡を本人の個室から直接とることができる専用電話が設置してあった。いろいろな問題があり, 現在その電話は取りはずされているが, 今でも長電話が多い。これに対して, 学級担任と母親が話し合い, 次の様な指導を行った。
 - (1) 家庭ではできるだけ話し合いに多くの時間をかけ, 家族間の結びつきを強めるように心がける。とくにS子と父親が心を割って話し合いができるような雰囲気づくりに努力する。また家庭の事情についても, 可能な範囲でS子に知らせるように心がける。
 - (2) 正しい男女交際については, ロングホームルームでの指導に力を入れ, また個別指導を強めると同時に, 家庭と学校で一貫した指導ができる基盤をつくるため, 学級担任と母親が話し合う機会を多くもつうける。
 - (3) S子の学校生活に目標をもたせるように努める。文化祭参加を目指した部活動への参加を, 主に担任からすすめる。男子部員もいる美術部への加入をすすめた。

4 指導の結果及び考察

- (1) 母親の働きかけで, 家族間の話し合いが, おもに食事時を中心にして, かなり多く行われるようになってきた。とくに母親が家庭の事情(甥をあずからねばならない父の立場など)をありのままS子に話しするようになってからは, 母親に対しては何事もこたわることなく相談するようになってきた。父親とも話しすることが多くなり男女交際や進路について感情的にならずに父親の考えも聞けるようになった。
- (2) 部活動への参加は非常に積極的であり, 放課後の自由時間を有効に活用している。男子部員との応対もごく自然であり, 文化祭を目標にして作品作りに取り組んでいる。文化祭終了後の部活動への参加についても配慮する必要があるが, 今のところ, とくに心配な点は見当たらない。
- (3) 父親との精神的交流を何とかもう少し深めたい。S子の方からの働きかけを促す方法を検討している。

2 家出するまでに至った男女交際

個別指導事例 K高等学校2年男女

担任指導

1 問題行動の概要

A夫とB子は昨年11月頃から話しをするようになり、今年の2月頃からは相愛の仲となり、将来独立して生活ができるようになったら結婚しようと考えていたようである。B子の両親が強く交際を禁止したためB子はA夫に家出の相談をしたが、A夫は地方公務員試験に合格して就職したら両親に結婚できるよう話しするからそれまではおたがいに真面目な学校生活を続けようと言われ、B子も納得し着着く。その後2人の交際が続いていることを知ったB子の両親がA夫の両親に抗議を申し込んだことから、2人はカッととなり家出を決行。Y市内に2泊し、友人の説得により、2人はそれぞれ両親に謝罪し帰宅した。

2 生徒の性格・家庭環境等

- A夫 人のよいところがあり友人の誘惑に負ける弱さがある。喫煙で指導を受けたことがある。祖母、両親、妹の5人家族。父親は会社員、母は自宅で商業を営んでいる。甘やかされたためかわがままなところがある。
- B子 父親は自営の会社社長、母親は公務員、姉は会社員の4人家族で恵まれた家庭といっている。本人は遊び好きのようで、家族にうそなどを言っては外出をしていたようである。

3 指導の概要

家出をするからには相当な覚悟があつたのと考え、家出先が判明し両親が迎えに行つたところで帰らないだろうと判断し、まず次のことを直ちに実施した。

(1) 両方の親との話し合い

- ① 2人の気持を理解すること。将来独立生活ができるようになったら2人のことについて考えてもよい。ただ現在の2人には大人としての交際は早すぎると考えて反対しているのだということを確認できた。
- ② 両方の親が子供の行動について責任のなすり合いをしていたのでは子どもは帰ってこないと思うが、今どうすればよいのかということについて話し合った。その結果それぞれの責任を感じ、親同士和解して子どもが帰り易いようにして迎えたいということになり、両方の親が協力して子どもを探すことになった。

(2) A夫の校内友人(グループ)との話し合い

A夫の行き先について心当たりを探し、居所が判明したら、両方の親が2人の気持を理解したので安心して帰ってきてよい状態であることを話して、それぞれの家に帰るよう説得してほしいことを依頼した。

友人グループは2人を発見し説得に当たる。同時に学級担任にも連絡があり、担任は2人の両親に知らせ一緒に2人を迎えにいった。帰宅後、学級担任は両方の親と話し合い、友人グループの生徒には、本人達に将来についてもっと真剣に考えるよう説得を続けさせた。

生徒課で検討した結果、反省充分であると判断し、学校長訓戒とした。

4 指導の結果及び考察

2人はすぐにも両親から、将来結婚してもよいという約束をとりたい気持のようであったが、そのようなわがままは許されないことであり、今後真面目に学校生活をして、無事卒業して独立した生活ができるようになって初めて、それに対する答えがでるのであるということを経験をかけた指導した。2人とも納得し、その後4か月経過しているが、以前とは違って真面目な学校生活を送っている。

本人達の気持を理解しようと努力したこと、および同年代の友人グループによって説得を行ったことがよい結果を生んだものと考えている。B子よりもA夫の方が将来のことを考え、本気になって立ち直ろうとしている様子が見られるので、今後再び間違いを起こすことはないだろうと考えている。

3 肉体交渉を求めて暴力をふるうようになった男子生徒

個別指導事例 Y高等学校3年男女

担任指導

1 問題行動の概要

B子が1年の時業家が失敗状態で、父が胃潰瘍で倒れ母が看病しなくてはならず、収入が全くないなど家庭内のいざこざが絶えず、学業に専念できない悩みを訴えていた。A男はこの間目立った動きはほとんどなかった。

2年になりB子は学校を中退し、親もとを離れて就職することを考えはじめた。この頃からA男はB子に近づき学校を継続するよう激励し続けた。夏休み明け理容師の修業に出るつもりであることを担任に話した。

A男は必死にB子の説得を続け、ついにB子は何とか卒業まで学業を継続しようと決意するに至った。このようなことが契機になって2人は交際を始め(2学期初)、終始A男がB子をリードしていた。

2学期の後半、12月頃から2人の位置関係が逆転し、A男は次第にくずれて(生活・学業)いき、B子の方がA男を励ますようになった。B子がA男をリードする立場になり、考え方もしっかりしたものになってきた。

B子の話ではこの頃よりA男はB子の肉体を求めて暴力をふるうようになる。B子は拒み続けるが、かつて自分が苦しんでいる時に救われた恩義をA男に対して感じており、そのため交際は続けていた。

3年生の5月、教室内でA男がB子に対して乱暴しているところを担任に見つけられる。B子の話では4月以降に同様のことがしばしばあったということであった。担任の注意に対して反抗し「俺の女にどうしようか勝手だ!!、といてあげれまくり、学校などやめてやる!!、とどなりながら飛び出してしまった。

2 生徒の性格、家庭環境等

A男 Y-Gテストによると、性格はB型であり、抑うつ型、気分の変化大、攻撃的であるなどが目立つ。両親、妹の4人家族。父は地方公務員で家庭内では口数が少ない。母は販売員として働いており、日中家にはいない。5・6年の頃から『つっぱる』ようになる。中学時代は野球部員として活躍した。

B子 Y-Gテストによると、性格はE型であり、情緒不安定、劣等感大、対人的は外交的であることなどが目立つ。S市より通学、両親と弟、妹の5人家族。実父はB子が生まれて間もなく死亡。母親はB子を連れて現在の父親のところの後妻に入る。父親との間がうまくいっていない。経済面は苦しい。

3 指導の概要

A男とB子の交際は2年の中頃からかなり目立つようになったので、学級担任と生徒課で連絡をとりながら、2人の交際のあり方について担任が指導に当たっていた。

この暴力事件が相手に対するお互いの気持を確かめさせる絶好の機会であると判断し、A男には1週間の家庭謹慎を命じ、B子に対する自分の気持を中心にした反省日記を書かせた。担任が家庭訪問し反省日記を中心にA男の心の動きを確かめながら話し合った。2回目の家庭訪問の時、「本当はB子に励まされるのがいやなんだ。励まされれば励まされるほど、B子がにくらくなる。しかしB子がきらいなのではない。自分で自分がわからない。」ということ担任に述べている。最後の家庭訪問の時は、「冷静にB子と話し合えよう。」と言っている。

A男の謹慎中にB子に対しては学級担任が個人面接を行い、2人を結びつけているものは何なのかということを考えさせた。A男の様子は全然知らせず、B子自身の心だけを見つめさせた。A男にも同様の態度で臨んだ。

謹慎が解除されてから、担任が入り2人がA男の謹慎中に考えたことを中心にして話し合いをさせた。

4 指導の結果及び考察

自分自身を冷静に見つめる機会を与えたことが好結果を招いたようで、A男の行動はすっかり落ち着いてきており、B子にも恩義という足かせを自分の手でふりほどこうとしている様子がうかがわれる。

A男の考え方もしだいにしっかりしてきたが、まだ不安定な要素が多く、今後とも指導を継続する必要がある。

4 同級生同士の家出

個別指導事例 T高等学校 3年男女

生徒部教員・担任指導

1 問題行動の概要

H男とM子は夏休み過ぎから互いに好感をもつようになり交際していた。H男には2年越しに交際しているR子(有職)があり、最近H男とR子の仲が冷たくなってきていた。R子はH男が冷たくなったのをうらみ、家出や自殺するなどH男をおどす。H男はR子といろいろ話し合ったがよい結果が得られず家出を決意した。M子もH男に同情して、H男の父が所有する自家用車にて家出を決行した。

9月12日夜から9月16日夕刻まで、Y市～O市間、およびYH、YR付近まで2人またはH男の友人と自動車でドライブし、夜は車内泊を繰り返す。9月16日夕刻、それぞれ本人達の意志で帰宅した。

2 生徒の性格・家庭環境等

H男 自己顕示欲強く常に目立ちたい性格。ひがみやすく、また非常に短気で『何でもないことでもすぐ頭にきて時々自分がわからなくなってしまう』と本人も自覚している。父(建材商)母、妹の4人家族。父は非常に短気であり、本人に過大な期待をよせている。しつけは父が中心にやっているが酒を飲むと時々乱暴するので本人は逃げまわっている。母はあまり丈夫でない。経済は中程度。

M子 明るく行動的。2年後期と3年前期はクラス委員。単純で思いこむと前後のみさかいがなくなり行動に移ってしまう。3年前期に遅刻や諸届けのおくれがみられた。家業は農業、父母、義兄、姉、甥の6人家族。父は昔かたぎで一本気なところがあり、娘の生活、進路、男女交際については熱心に考えている。ただし娘と考え方がかなり違うためたびたび衝突したことがある。経済面は恵まれている。

3 指導の概要

9月13日 H男の担任が欠席理由を聴取するため自宅に電話したところ前夜から帰宅していないことがわかり家出が判明。H男、M子の家族及び学校(担任、生徒部教員)で2人の行き先を探したり、友人や同級生より事情聴取をしたが不明であった。

9月14日 両人の保護者の来校をうながし、家庭、学校それぞれのとるべき措置について話し合う。捜索願いださず。M子より電話が入るのを予想し、友人及びその家族に協力を依頼し電話を待つ。M子から友人、自宅に電話あり。所持金、電話の様子から県内にいると推定し、その対策を考える。

9月17日 両人登校。担任、生徒部教員1名で事情聴取。

9月18日(～19日)両人にくいちがいがあったので再度事情聴取を行う。両人とも問題行動であるという意識が薄かった。学年主任より家庭謹慎を指示。生徒部教員、学年主任、担任で両人の特別指導の方法について検討する。

指導に当たり次のような問題点が明らかになった。

- 1 両人の家庭における父母の指導、しつけ、考え方に関するもの。(父母により今回の行動に対する対応のしかたにくいちがいが見られた。家庭での話し合いがない。H男の父の暴力。M子の放任など。)
- 2 両人の学習意欲、校内外の行動に関するもの。(成績低下、異性関係、H男の暴力事件-1年の時一、交友関係、学級での孤立化など。)
- 3 両人の交際のあり方に関するもの。(高校生にふさわしい交際のあり方であるか。M子にも夏休み前までは別の交際相手があり、そのために部活動をやめている。)
- 4 全校生徒や保護者に与えた影響(極く一部の生徒に同情による署名運動の動きがあった)を充分考慮しながら指導に当たる必要がある。単にH男とM子の2人だけの問題として解釈してはならない。

9月19日 臨時職員会議を開催。上記1～4を中心に討議。H男には退学勧奨の意見が強かったが、担任から最後の機会を与えてほしいとの強い要請があり、学年、生徒部で計画的な指導を行うことに決定。両人とも無期家庭謹慎を命ぜられた。

H男にとった特別指導の内容

- 1 家庭訪問、登校指導の両面から本人の性格的な面の矯正を図る。
- 2 前半は父母による指導を中心にし、読書指導、勤労体験指導を行った。
- 3 後半は学級担任が中心となり、学校生活の意義、社会人としての資質について考えさせ、学習指導、進路指導を重点的に行った。
- 4 自分自身が努力しなければ復学できないんだという「つっぱなした。一面も加えて指導に当たった。

M子にとった特別指導の内容

- 1 前半、後半における指導の重点はH男と同じである。
- 2 とくに、父親の子どもに対する理解を深めさせるため、親子での対話の機会を多く作るよう、家庭訪問のつど両親に話しをした。
- 3 登校指導の機会を多くし、反省日誌を中心にした話し合いをとおし、自分の性格、女性のあり方、将来への洞察を含めた指導を行う。
- 4 担任、生徒部教員との対話を中心とした指導がH男と異なっている。

10月22日 職員会議を開催。両人の反省日誌の一部を提出し職員の判断を待つ。謹慎解除を了承する。

10月23日 両人とも平常授業に復帰させる。なお前もって学級に対する指導を行い、両人の受け入れ体制を充分整えておいた。

4 指導の結果及び考察

- 1 両方の家庭において親子の対話も多くなり、お互いが気がねなく話し合えるようになった。とくに父親の子供に対する関心と理解が深まっているようだ。
- 2 両人とも今回の行動が、社会的にみて大きな問題行動だったことに気づいた。とくにH男は深く反省しM子及びM子の両親に対し深く詫言の気持を表現している。
- 3 両人とも学習意欲がでてきており謹慎の後半はほとんど学習時間に1日をついやしていた。
- 4 両人とも見違えるように明るくなり、服装、態度、言葉使いもよくなり、卒業まで何事もなく立派に高校生活を送るものと思われる。

このような好結果を得ることはまれであり、やはり本人達のかたい決意と努力がみのったものと思われる。と同時に、担任の献身的で愛情深い指導が効を奏したものと考えている。とくにH男の反省日誌は自分の内面的な面、社会人としての資質の面までほりさげたり立派なものであった。

両人とも「登校して卒業までがんばろう」と話し合って帰宅した点を指導の「きっかけ」として特別指導を行ったのがよかったようである。やはり事情聴取に当たっては、充分時間をかけて相手の気持をしっかりと理解することが必要であると痛感した。また登校指導を加えて学校の雰囲気を感じさせ、一日も早く登校したいという気持をもたせたことも効果があったのだと思う。

両人の保護者も家庭をあげて真剣に取り組み、本人、保護者、学校と三者一体の体制が作られたこと、また面接指導において、指導者を学級担任、学年主任、生徒部教員1名と少人数にしばり、話し合える雰囲気作りと指導の重複をさけるように努めたことが効果を大きくしたものと思う。

生徒指導には、訓育と相談活動がぜひ必要であり、現在問題になっている専任カウンセラー配置の必要性を痛感した。

全校生徒への具体的な指導は今後の課題として残ったが、その後連鎖反応的な行動も見られず、比較的冷静にこの問題を見つめているようなのでよかったと思っている。

Ⅺ 今後の研究課題

1 教育課程への位置づけ

性教育は人間の調和した発達をめざして行われるものであり、あらゆる教育活動を通してその目的が達せられるという考えにたち、教科・道徳・特活等の幅広い領域から指導計画を立案した。したがって、その指導を養護教諭や保健担当教諭、あるいは学級担任という特定の教師に任せるのではなく、すべての教師が、担当する教科・道徳等の領域で指導するという協力的な態勢を確立しなければならない。各学校において、本書に提示した指導内容や展開例を検討し、共通理解にたつて性教育を教育課程に位置づけてほしい。

2 小・中・高等学校一貫した指導

「性教育に関する研究(1)」によると「性教育を実施したいが、指導内容・指導方法がわからない」という結果が出ている。そこで、教師と児童生徒の意識や実態を充分考慮し、各校種・学年に即した指導内容を配当したつもりである。今後、小・中・高等学校の指導内容・方法を積極的に交流し、一貫性のある指導態勢によって指導を充実させる必要がある。

3 指導内容の系統性

各学年の発達段階を考慮し、指導内容を系統づけたのであるが、児童・生徒の身体的な発達も地域によっては相当差があるし、こういう実態にあわせて指導内容を修正し系統づけていかなければならない。

また、情報化社会から受ける刺激によって、児童・生徒の考えや行動は変化していくのであり、そういう実態からも指導内容・方法において発展的に変えていくことも必要になる。

4 学校と家庭との連携

性にかかわる指導について家庭が果たす役割は大きい。しかし、家庭では性教育の必要性を認めながらも「知識がない」「教育を受けた経験がない」「家庭ではよい指導はできそうもない」などという声があり、学校に任せて積極的に指導していないのが実態であると思われる。そこで、学校参観日などを利用し、児童生徒と一緒に学習するとか、教師と父母の学習会をもつとかして、父母もよい指導者となるのが大切で、学校と家庭の連携をますます強化していかなければならない。

5 教具や資料の整備

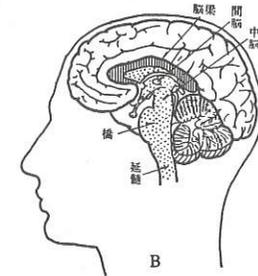
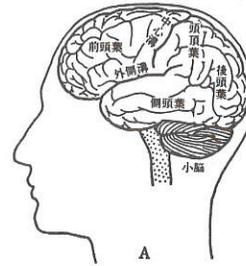
展開例はできても、児童・生徒の理解を深めるには教具や資料の整備が重要である。各学校共通に利用できる資料もあるが独自に工夫し作成しなければならないものも多い。市販のスライド、掛図・シートもどこでどのように利用すれば効果的か、その使い方と共に、指導展開のための資料収集や作成は今後の重要な課題である。

資料

XII 参 考 資 料

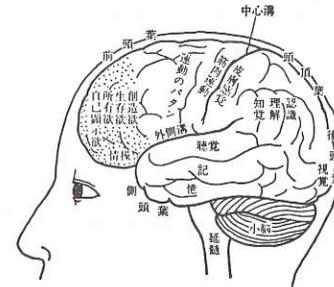
XIII 参 考 図 書 等

XII 参 考 資 料

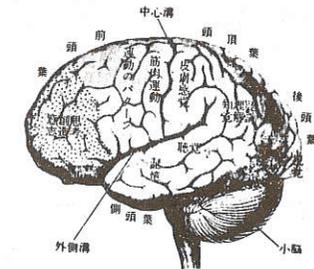


人間の脳を模式的に示したもの。A図は脳の左側面をみたもの。B図はまん中で縦に切断したもので、右大脳半球の内側面と脳幹と小脳の断面を示してある。

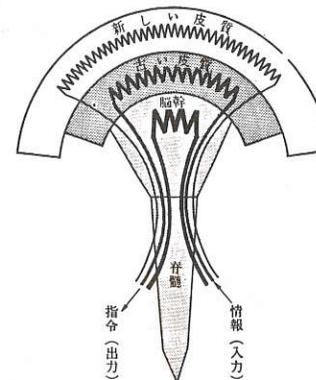
脳梁は左右の大脳半球を連絡する神経線維の束である。なお、小脳は脳全体の11パーセントである。



「新しい皮質」の分業の体制。点をうった領域が前頭連合野。



ヒトの新皮質の分業体制



情報が処理按配されて、指令として送りだされる3つの統合系を模式的に示す。

これまでは、脳はブラック・ボックスであったが、現在では、脳の研究の進展によって、統合の仕組みが解明されてきた。

脳は三つの統合の座からできている。すなわち、脳幹と「古い皮質」と「新しい皮質」とであって、それぞれ特有な情報を受けとめ性質の違った処理をして、特定の指令として送りだしている。そして、脳幹→「古い皮質」→「新しい皮質」の順に、統合の精度がよくなっており、「新しい皮質」ではコンピュータが足元にもよれない、すばらしい情報処理が行われている。

特に人間の「新しい皮質」では、動物にはない前頭連合野という領域が分化発達しているために、自己組織的な情報処理が行われている。そのために、受けとめた情報とはおよそ縁もゆかりもないような指令がとびだしてくる。前頭連合野が創造の座といわれるゆえんである。

(時実利彦「脳を考える」日本経済新聞社より)

性病届出患者数の年次別推移

	総数	梅毒	淋病	軟性下かん	その他リンパ肉芽しゅ症
32年	10,644	18,011人	8,619人	2,216人	25人
35	19,086	10,126	8,736	214	10
38	10,154	5,761	4,166	221	6
41	18,071	10,821	6,951	288	11
44	17,641	7,767	9,645	226	3
47	12,707	5,449	7,097	157	4
48	12,795	5,281	7,375	138	1
49	10,340	4,165	6,047	126	2
50	8,860	3,635	5,127	97	1
51	8,392	3,284	5,037	69	2
52	7,949	3,026	4,858	63	2
53	8,083	2,874	5,130	76	3

資料：厚生省統計情報部「伝染病及び食中毒統計」
 (注) 48年から沖縄県分を含む。
 (昭和54年版厚生白書より)

自殺少年の学職別状況

(昭和53年)(人)

	計	学 生 ・ 生 徒							有職	無職	不詳
		小計	小学生	中学生	高校生	高専生	大学生	その他			
計	866	500	9	100	271	11	58	5.1	224	139	3
構成比(%)	100.0	57.7	1.0	11.5	31.3	1.3	6.7	5.9	25.9	16.1	0.3
男	577	333	5	71	179	9	31	3.8	150	92	2
女	289	167	4	29	92	2	27	1.3	74	47	1

資料出所 警察庁調べ
 (昭和54年版青少年白書より)

自殺少年の年齢別状況

(昭和53年)(人)

	計	年 齢											
		0~9歳	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
計	866	1	3	3	11	34	36	55	102	153	206	262	
構成比(%)	100.0	0.1	0.3	0.3	1.3	3.9	4.2	6.3	11.8	17.7	23.8	30.3	
男	577	0	1	3	6	24	24	41	71	99	136	172	
女	289	1	2	0	5	10	12	14	31	54	70	90	

資料出所 警察庁調べ
 (昭和54年版青少年白書より)

自殺少年の性別・動機別百分率(19歳以下)

(単位:%)

	49年		53年	
	男	女	男	女
総数	100	100	100	100
家庭問題(計)	12.1	14.1	10.7	11.1
親との不和	-	-	2.6	3.8
父兄等のしっ責	-	-	4.9	2.4
病苦等	10.8	12.3	9.9	13.8
経済生活問題	1.9	-	3.1	0.7
勤務問題	7.6	1.8	2.6	3.5
異性問題(計)	8.9	28.1	11.3	26.0
交際・結婚問題	-	-	2.8	6.2
失恋	-	-	6.9	9.3
学校問題(計)	27.4	10.5	31.4	20.4
入試失敗	-	-	4.2	2.1
入試苦	-	-	6.1	2.8
学業不振	-	-	14.0	9.0
学友との不和	-	-	1.9	3.5
精神障害等のその他	11.4	10.6	26.3	20.4
精神障害	-	-	14.0	11.4
孤独感	7.6	1.8	3.1	3.5
不詳	19.7	22.8	4.7	4.2

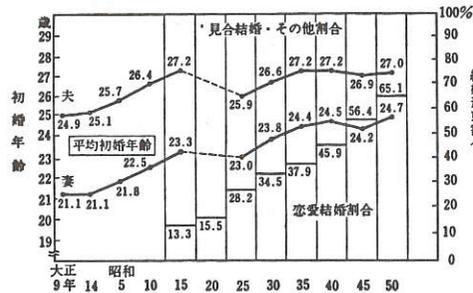
資料：厚生省統計情報部「49年度人口動態社会経済面調査(自殺死亡統計)」警察庁「53年の自殺の概要」
 (昭和54年版厚生白書より)

母の年齢別にみた出生数と人工妊娠中絶件数の推移

	年次	昭和30年	40	50	53
		出生数	1,730,692	1,823,697	1,901,440
総数	中絶件数	1,170,143	843,248	671,597	618,044
~19歳	出生数	25,219	17,719	15,999	13,577
	中絶件数	14,475	13,303	12,123	15,232
20~24	出生数	469,027	513,645	479,041	341,013
	中絶件数	181,522	142,038	111,468	94,616
25~29	出生数	691,349	854,399	1,014,624	941,255
	中絶件数	309,195	235,458	184,281	159,926
30~34	出生数	372,175	355,269	320,060	343,830
	中絶件数	315,788	230,352	177,452	167,894
35~39	出生数	138,158	723,555	626,663	61,243
	中絶件数	225,152	145,583	123,060	120,744
40~	出生数	34,761	10,308	9,046	7,719
	中絶件数	122,947	75,363	62,438	59,214
不詳	出生数	3	2	7	6
	中絶件数	1,064	1,151	775	418

資料：厚生省統計情報部「人口動態統計」, 「優生保護統計」
 (昭和54年版厚生白書より)

日本人夫婦の平均初婚年齢の推移と結婚形態の変化



資料：厚生省人口問題研究所「出産力調査」

厚生省統計情報部「人口動態統計」

(注) 戦前の平均初婚年齢は、国勢調査の年齢別既婚者割合に基づく推計値である。(昭和54年版厚生白書より)

離婚件数と離婚率の年次推移

年次	件数	率
昭和10年	4,852	0.70
11	4,856	0.68
12	7,955	1.02
13	8,368	1.01
14	7,526	0.84
15	6,941	0.74
16	7,195	0.79
17	9,593	0.93
18	11,913	1.07
19	12,451	1.11
20	12,948	1.14
21	13,214	1.15

資料：厚生省統計情報部「人口動態統計」

(注) 離婚率とは、日本人口に対する離婚件数の比率(千分率)である。

離婚申立動機の内容(高橋均, 1971)

動機	夫からの申立動機		妻からの申立動機		総数	
	実数	%	実数	%	実数	%
申立件数	7,820	100.0	1,927	100.0	2,709	100.0
性格があわない	4,130	52.8	5,665	29.4	9,795	36.2
異性関係	1,949	24.9	6,851	35.5	8,800	32.5
暴力をふるう	259	3.3	6,114	31.7	6,373	23.5
酒を飲みすぎる	130	1.7	3,425	17.8	3,555	13.1
性的不満	421	5.4	493	2.6	914	3.4
浪費する	662	8.5	2,478	12.9	3,140	11.6
性格異常	941	12.0	1,403	7.3	2,344	8.7
病気	471	6.0	459	2.4	930	3.4
精神的に虐待する	632	8.1	2,780	14.4	3,412	12.6
家庭をすてて省みない	1,298	16.6	3,832	19.9	5,130	18.9
家族・親族と折り合が悪い	1,448	18.5	2,165	11.2	3,613	13.3
同居に応じない	1,533	19.6	1,634	8.5	3,167	11.7
生活費を渡さない	74	0.9	3,722	19.3	3,796	14.0
その他	213	2.7	413	2.1	626	2.3
不詳	29	0.4	33	0.2	62	0.2
申立動機総数	14,190	-	4,146	-	5,565	-

(注) 動機は申立の際に複数あげることがあり、動機総数は申立件数を上回る。最高裁判所「司法統計年報・家事編」1969年により作製。

(岡堂哲雄編「家族心理学」有斐閣より)

性非行の年齢別状況

(昭和52, 53年)(人)

区分	年令	総数	年齢								
			11歳以下	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳
昭和52年		7,674	1	26	163	669	1,241	2,087	2,307	848	332
	構成比(%)	100.0	0.0	0.3	2.1	8.7	16.2	27.2	30.1	11.1	4.3
昭和53年		7,880	8	29	229	751	1,419	2,164	2,083	836	361
	構成比(%)	100.0	0.1	0.4	2.9	9.5	18.0	27.5	26.4	10.6	4.6
増減数		206	7	3	66	82	178	77	△224	△12	29
増減率(%)		2.7	70.0	11.5	40.5	12.3	14.3	3.7	△9.7	△1.4	8.7

資料出所 警察庁調べ

(昭和54年版青少年白書より)

女子中・高校生の性非行の補導人員

(昭和52, 53年)(人)

	総数		中学生		高校生	
	昭和52年	53	52	53	52	53
総数(人)	4,380	4,384	1,384	1,540	2,996	2,844
売春(売春防止法)行	186	119	24	18	162	101
淫(児童福祉法)行	271	289	47	79	224	210
みだらな性交(青少年保護育成条例)行	740	923	222	335	518	588
淫(刑法第182条)行	3	0	1	0	2	0
不純な性交(ぐ犯送致)	498	492	319	326	179	166
上記以外の不純な性交	2,682	2,561	771	782	1,911	1,779

資料出所 警察庁調べ

(昭和54年版青少年白書)

女子中・高校生の性非行の動機別

(昭和51年)(人)

	総数	自からすすんで						誘われて				だまされて	おどされて	その他	
		小計	遊ぶ金が欲	興味(好奇心)	好きで(好)	生活苦等	自暴自棄	特好定の男	小計	遊ぶ金が欲	興味(好奇心)				ぐらきまのら孤れとて別
総数	4,587	2,212	122	1,918	18	4	146	2,219	236	1,969	12	2	100	53	3
	100.0	48.2	2.6	41.8	0.4	0.1	3.2	48.4	5.1	42.9	0.3	0.0	2.2	1.12	0.1
中学生	1,476	766	28	691	8	1	0	38	647	67	574	6	0	41	19
	100.0	51.9	1.9	46.8	0.5	0.1	0	2.6	43.8	4.5	38.9	0.4	0	3.0	1.3
高校生	3,111	1,446	94	1,227	10	3	4	108	572	169	1,395	6	2	56	34
	100.0	46.5	3.0	39.4	0.3	0.1	0.1	3.5	50.5	5.4	44.8	0.2	0.0	1.8	1.1

(注) 下段は、割合(%)である。

(昭和52年版青少年白書より)

XIII 参 考 図 書 等

1 児童生徒のための参考図書

(1) 小学生向き

幼児のための性教育絵本①～⑤ 日本性教育研究会 文進堂
 ぼくはどこからきたのーあるがままのいのちのはなしー ビーター・マイル 河出書房新社
 こんにちは、性教育(ソノシート付) 北沢杏子 アーニ出版
 おとなになるって 井上明子 立風書房
 赤ちゃんはどこからくるの S・M・グルエンベルグ あすなろ書房
 あかちゃんはどうしてうまれるの 武川行男 青年書館
 なぜあかちゃんは生まれるの アンドリー他 タイムライフ社
 親子の性教育ーおおかさんはうちゅうせんー 福世武次 講学館
 のびゆくこどもー娘へー 古谷博也 日本母子衛生助成会
 青春ー知っておきたい心とからだの知識ー 堀口雅子 日本母子衛生助成会
 人からだ 学習研究社 学習研究社
 人間はどこから来たの マクドナルド グラフィック社
 小学6年生女子 徳江政子他 祥伝社
 おとなへの階段 島田愛子 東山書房
 ひとのからだ 毛利子来 岩崎書店
 人間ーその心とからだー 小泉明他 小学館
 わたしたちの生活のくふう 吉沢久子 国土社
 生命の神秘をさぐる シノベン・キャサリン 偕成社
 たまごとひよこ セルサム 福音館

(2) 中学生・高校生向き

明るい女子中学生 生活指導研究会 教文社
 思春期との対話ー中学生の心とからだー 平井信義 毎日新聞社
 インフォメーション・オブ・セックス 日本性教育研究会 文進堂
 中学生と思春期 三省堂 三省堂
 思春期と中学生ー男子編・女子編ー 間宮武 明治図書
 おとなへの扉を開くー男子編・女子編ー 日本性教育研究会 文進堂
 性を知りたいーアメリカ中・高校生の副読本ー E・W・ジョンソン 小学館
 中学生・高校生の愛と性への回答 黒川義和 自由国民社
 思春期全書ー中学生から高校生までー 依田明 保健同人社
 ティーンのための性知識 アラン・F・グットマン 講談社
 十代の性教育ー人間このからだー 岡田寅次 玉川大学出版部
 Love & Sex for Teenagersー十代の愛と性ー 村松博雄 集英社
 思春期ーゆたかな人生への出発ー 羽仁説子 筑摩書房
 思春期の性と教育 黒川義和 全日本社会教育連合

性と対話ー若い世代の理解のためにー M・ディビス 雪華社
 若いからだところ 堀久 日本写真新聞社
 ぼくらの性の悩みーその相談に答えるー 大山昭男 文理書院
 高校生のための人生論 堀秀彦 大和書房
 高校生の生活と心理 津留宏 大日本図書
 高校生の性に関する22章 間宮武 学習研究社
 高校生の性知識 ベント・H・クレーソン 池田書店
 女子高校生の性知識 西ドイツ厚生省 池田書店
 高校生心理学ー悩み多き若ものに与うー (現代教養文庫) 白石浩一 社会思想社
 愛と友情を考えるー高校生の生活ー 堀秀彦他 大和書房
 男の子の性 渡辺信一 婦人生活社
 人間・その愛と性ー若き日をどう生きるかー 鈴木清 希文社
 若いあなたの健康と性 主婦の友社 主婦の友社
 少女のための性教育ー心とからだー ドラルジュ 講談社
 少女期 岡田寅次 学習研究社
 恋愛なんかやめておけ 松田道雄 筑摩書房
 父と子の性の対話 奈良林祥 弘済出版社
 性の悩みに答える 大山昭男 文理書院
 娘に与える12章 尾島信夫 主婦の友社
 愛と性の悩み トロビッシュ 聖文社
 人間であること (岩波新書) 時実利彦 岩波書店
 人間のからだ 木崎国嘉 ポプラ社
 からだノート 中山千夏 ダイヤモンド社
 人間社会の形成 (NHKブックス) 今西錦司 日本放送出版協会
 ティーンエイジャーのための性教育 B・スボック 暮らしの手帖社
 タタイ博士の性教育ー思春期の愛と性を語るー 田多井吉之介 大修館書店
 私たちの未来 日本学校保健会 母子衛生研究会
 恋愛ーそのロマンと真実ー (現代教養文庫) 堀秀彦 社会思想社
 生きるための自由 石川達三 新潮社
 私の青春ノートー愛のメッセージー 樋口恵子 ポプラ社
 男対女 犬養道子 中央公論社
 セーヌ左岸で 犬養道子 中央公論社
 脳を考える 時実利彦 日本経済新聞社
 愛について (中公新書) 懸田克躬 中央公論社
 女と自由と愛 (岩波新書) 松田道雄 岩波書店
 もうひとりのあなたへージュニアのための性科学講座ー 奈良林祥 集英社
 愛の幻想ー対人病理の精神分析ー (中公新書) 福島章 中央公論社
 日本人の結婚観ー結婚観の変遷ー (講談社学術文庫) 神島二郎 講談社
 心のふれあいー愛と友情についてー 藤田恭平 偕成社
 愛と友情 早船ちよ ポプラ社

2 参考文献・引用文献

(1) 研究機関等から発行された研究資料

- 生徒指導の手びき 文部省
生徒の問題行動に関する基礎資料—中学校・高等学校編— 文部省
生徒理解に関する諸問題 文部省
精神的な適応に関する諸問題 文部省
中等教育資料 №390, 403他 文部省
思春期までの子どもの指導—母親のよい理解のもとに— 文部省
性と純潔—美しい青春のために— ”
男性と女性—若い人々のために— ”
性についての正しい考え方・青少年の性に関する問題 ”
青少年の性意識 総理府青少年対策本部 大蔵省印刷局
厚生白書(昭和54版) 厚生省 大蔵省印刷局
青少年白書(昭和54年版) 総理府青少年対策本部 大蔵省印刷局
性に関する指導の参考資料(第1・2集) 新潟県教育庁指導課
性教育指導の事例集—高等学校・特殊教育諸学校— 群馬県教育委員会
性に関する指導資料(試案) 茨城県教育委員会
性教育の手びき 和歌山県教育委員会
性教育の手びき 広島県教育委員会
性に関する指導の手びき 富山県教育委員会
親子の対話—性の生理を中心として— 愛知県教育委員会
研究紀要第69号 福井県教育研究所
学校における性教育をすすめるために(第1・2集) 北海道教育庁
家庭における性教育 神奈川県学校保健連合会
性教育の学級指導 愛知県高等学校教育研究会・学校保健研究委員会
高校生の期待する性教育(その1~4) 高崎市立女子高等学校
性教育の手びき 山形県立谷地高等学校
性教育の手びき 山形県教育委員会
性教育に関する研究(1) 山形県教育センター

(2) 単行本

- 性教育指導事典 平井信義他 帝国地方行政学会
例解性教育指導事典 能美光房 第一法規
性教育百科 阪本・佐藤・間宮 岩崎書店
性教育用語辞典 重田定正 ぎょうせい
図説家族問題(NHKブックス) 湯沢雅彦 日本放送出版協会
性教育学 黒川・今井・藤本 明治図書
新しい性教育 葛巻政男・近藤政明 文教書院
教師のための性教育 黒川義和・川畑愛義 東山書房
学校性教育—発達段階に即した指導法— 川畑愛義 大修館書店
学校性教育 川畑愛義・黒川義和 東山書房
性教育 間宮・澤田・内山 図書文化社

- 性を考える 平井信義 講談社
日本の純潔教育 間宮武 明治図書
性教育(中公新書) 朝山新一 中央公論社
学校における性教育の計画と展開 田能村祐麒 明治図書
学校における性教育 大島正雄他 講学館
小学校性教育事例集(I・II) 近藤政明・佐藤義太郎 教育出版
中学校性教育事例集(I・II) 葛巻政男・徳江政子 ”
中学生の性教育 村松博雄・徳江政子 明治図書
授業のなかの性教育 村瀬幸浩 民衆社
性教育指導要領 日本性教育協会 日本性教育協会
しつけの中での性教育 島田愛子 東山書房
動物の親と子 岡田要 新潮社
小学生の心理 波多野勤子 光文社
中学生の心理 ” ”
家族関係の心理 依田明他 有斐閣
日本の家庭と子ども 平塚益徳 金子書房
親子関係の心理 大西誠一郎 ”
思春期の心理 詫摩武俊他 有斐閣
性差心理学 津留宏 朝倉書房
青年の生活心理 藤原喜悦・西平直喜 福村書店
青年心理学 津留宏 有斐閣
精神分析入門 安田一郎 光文社
家族心理学 岡堂哲雄 有斐閣
健康安全・性の指導 近藤政明 教育出版
学校と家庭での性教育 佐藤憲次 学芸図書
わが子と教え子を自殺から守る十章 稲村博 大修館書店
男の気持・女の気持(恋愛・結婚・仕事) '80増刊号№1 P H P 研究所
男性と女性(上・下) M・ミード 田中寿美子・加藤秀俊訳 東京創元社
性差の社会心理—つくられる男女差— 東 清和 大日本図書
青年期の精神衛生 大原健士郎 誠信書房
反抗期といわれる中学生の心理 乾 孝 あすなる書房
いま学校で(4) 朝日新聞社
高校生の日記 原田茂 中央公論社
目覚める性の導きかた 改訂版 日本性教育研究会 文進堂
脳行動のメカニズム(NHKブックス) 千葉康則 日本放送出版協会
揺れる青春—その心の奥底にひそむもの— 西平直喜 有斐閣
性教育をめぐる問題事例 沢田・小此木・吉沢 学陽書房
結婚の起源と歴史 江守五夫 社会思想社
性—思想・制度・法— ジュリスト増刊 有斐閣
現代の家族 ジュリスト増刊 有斐閣
現代性教育研究 日本性教育協会(隔月刊誌) 小学館

3 情操を高めるための文学作品（例）

たけくらべ 樋口一葉	若草集 石川啄木
雪国・伊豆の踊り子・千羽鶴・山の音 川端康成	若菜集 島崎藤村
こころ・それから 夏目漱石	赤光 斎藤茂吉
路傍の石 山本有三	智恵子抄 高村高太郎
次郎物語 下村湖人	愛について 谷川俊太郎
野菊の墓 伊藤左千夫	トムソーヤの冒険 マーク・トウウェン
舞姫・高瀬舟・阿部一族 森 鷗外	アンネの日記 アンネ・フランセ
友情・愛と死 武者小路実篤	青い麦 コレット
走れメロス 太宰治	ジャン・クリストフ ロマン・ローラン
忍ぶ川 三浦哲郎	初恋 ツルゲーネフ
しろばんば 井上靖	若きヴェルテルの悩み ゲーテ
菜穂子 堀 辰雄	知と愛 ヘルマン・ヘッセ
性的人間・われらの時代 大江健三郎	
愛のかたみ 田宮虎彦	
潮騒 三島由起夫	
秘められた恋文 瀬沼茂樹	
若い人 石坂洋次郎	

4 視聴覚教材（山形県教育センター所蔵）

(1) スライド（テキスト、テープ解説付）	(2) 16ミリ映画
目でみる性教育シリーズ アーニ出版	()内はフィルム品番を示す。
1巻 あかちゃんはどこから？	たまごからヒトへ 24分 カラー(309)
2 " ぼくとわたしの小さいころ	生命のしくみ 30分 " (73)
3 " からだの話 なぜ？	胚の発生 10分 " (349)
4 " 成長のはなし なぜ？	人間の生殖 20分 " (65)
5 " 生命ってふしぎだね	遺伝 30分 " (51)
6 " エチケット これだけは	性と健康 20分 " (85)
別 " ステキな女の子	梅毒のはなし 25分 " (437)
こんには、ノシリーズ アーニ出版	ゆがんだ青春 30分 " (308)
2巻 こんには、青春	親の知らない世界 31分 " (310)
「性」に関する教材 保健編 新教育研究協会	子どもの性の悩みと親の態度 30分 カラー(311)
高等学校 保健体育科用	小学生と性 28分 カラー(416)
	—子と親の相談室—
	つぶれたハーモニカ 30分 カラー(371)
	—ある女高生の転落—
	ふりかえって夏 22分 カラー(342)
	—対人関係のつまづき—